



競輪補助事業



平成 19 年度

シニアネット構築研究会

シニアネット・フォーラム21 in 東北

◇シニアライフを生き生き楽しく！社会を元気に、シニアネット◇

【報告書】

平成20年2月

財団法人ニューメディア開発協会

はじめに

今年の敬老の日に総務省が発表したところによりますと、この9月には65歳以上の高齢者が約2744万人、人口比率で21.5%となり、また一段と高齢化が進みました。実に4.5人に1人が65歳以上と言うこととなります。日本の総人口は年々減少している中、団塊の世代が定年を迎えはじめる等、高齢化はますます進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやってくると予測されております。

こうした高齢社会にあって、旧通商産業省はかつて長寿社会対策及び情報化施策である「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、高齢者が情報技術（IT）を活用して、いつまでも生き生きとした生活を送るとともに社会のために活躍できる『高齢者自立型・参加型情報化社会』の実現を目指して参りました。

当協会は、かかる「メロウ・ソサエティ構想」を実現するため長年にわたって様々な事業に取り組んで参りましたが、この「シニアネットフォーラム21」も「シニア情報生活アドバイザー養成事業」等と共に、まさに同構想実現のための主な事業の一つということであります。

かつて団塊の世代がそうであったように高齢者が人口の面でメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていくと言っても過言ではありません。「活者なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者の社会での活躍が益々重要となって参ります。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、仲間とともにITを勉強し合ったり、高齢者はじめ地域の方々へのIT講習を行ったりと、地域に根差したさまざまな社会参加活動を活発に展開しております。

シニアネットは、まさに高齢者の生きがいづくりや仲間づくりに大きな役割を果たし、シニアライフを豊かで楽しいものにしております。更に、こうした活動を通して自治体等と協働（コラボレーション）し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしております。シニアネットが、高齢者にとっては勿論、自治体等にとっても極めて意義深い組織であると言っても過言ではありません。

当協会はかかる「シニアネット」こそ、「メロウ・ソサエティ構想」実現の、そして高齢社会の牽引役になると確信し、「シニアネット」が全国津々浦々にあって生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務と考え、その普及・拡充に注力しております。

そこでこの度、当協会は経済産業省や財団法人日本自転車振興会のご指導、ご支援を得て「シニアネット構築研究会」として「シニアネットフォーラム21 in 東北」を実施いたしました。

東北地方での普及を図るべく、統一テーマ「シニアライフを生き生き楽しく 社会を元気に シニアネット！」のもとに、基調講演、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップ、交流広場の五本立ての構成とし、高齢者にとって、社会にとってシニアネットの活動がいかに素晴らしく意義深いものであるか、初めての方々にも十分ご理解いただけるよう、具体的かつ啓蒙的なものといたしました。

定員を上回る多くの関係者の方々のご参加を得、熱心な議論と深い交流がなされるなど、お陰様で大変有意義なものとする事が出来たものと思っております。

宮城県や仙台市をはじめご参加、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

今後、この事業の成果が広く活用され、シニアネットの新規誕生やシニアネットの活動の一層の飛躍に貢献できることを願っております。そして、かかる活動を通して地域の振興に貢献できれば幸いです。

平成20年2月

財団法人ニューメディア開発協会

目次

1. 開催の主旨	3
2. 実施要項	4
3. プログラム構成のポイント	4
4. 実施状況	9
5. まとめ	10
6. プログラムの詳細	
主催者挨拶	11
来賓挨拶	13
基調講演	
I 「コミュニティ、NPOそしてシニアネットの力が社会を変える」	17
II 「高齢社会におけるシニアの新しい生き方 ～ボランティア活動のすすめ～」	29
特別講演	
「『宮城県IT推進計画』とシニアネットへの期待」	38
パネルディスカッション	
「シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に」	45
ケーススタディ I	
「シニアライフを生き生き楽しく」	
1. 会津喜多方シニアネット“きてみっせ”の場合	60
2. シニアパソコンアドバイザーネットの場合	65
ケーススタディ II	
「シニアの想いを様々な形で実現」	
1. シニアネットひろしまの場合	70
2. ICP地域振興協会の場合	78
3. シニアのための市民ネットワーク仙台の場合	83
4. シニアSOHO普及サロン・三鷹の場合	87
シニアネット交流広場	92
クロージングセッション	95
付属資料	98

1. 開催の主旨

わが国は、世界でも例を見ないほどの勢いで少子高齢化が進んでいる。現在65歳以上の人口が21.5%と、実に4.5人に1人が高齢者である。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、シニア（高齢者）が社会でいつも元気で活躍している、そういったことがますます重要になる。シニアが数の上でメジャーとなる時代、社会はこれまでと大きく変わらざるを得ない。まさにシニアのパワーが社会を変えてゆくことになると言っても過言ではない。

現在、多くのシニアが全国諸地域で「シニアネット」を組織し、自らのシニアライフを楽しむとともに自らが持つ豊富な経験や知識、ノウハウ等を地域社会に還元し、社会にお役に立ちたいと様々な活動を展開している。

少子高齢社会と高度情報化社会が同時に進行する我が国にあって、ITを基軸に置いて活動するシニアネットこそ、「メロウ・ソサエティ構想」を推進し、シニアにそして社会に活力を与える団体として重要な存在となっている。こうしたシニアネットが全国津々浦々、どこにでもあって、それぞれの地域で元気に活動している姿を早く創り出すことこそ肝要である。

そのため当協会は、経済産業省や財団法人日本自転車振興会のご指導、ご協力を得て全国各地で「シニアネットフォーラム21」を開催し、その普及・拡充を図っている。平成14年に東京で開催して以来、東京（5回）、広島、松山、富山と計8回開催し、シニアネットの普及やその活動の更なる飛躍を図ってきた。

この度は、宮城県仙台市で「シニアネットフォーラム21 in 東北」（シニアネット構築研究会）を開催し、今なおシニアネットの黎明期にある東北地区での普及を目指すことにした。そのため、内容は「シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に、シニアネット！」と題し、シニアライフの中におけるシニアネットの素晴らしさ、社会的な重要さを分かり易く伝え、多くのシニアが「自分もやってみよう」と思ってもらえるよう工夫した。

また、去る3月には、団塊の世代の第一陣が定年を迎えたが、今後数年間のうちに団塊の世代の多くの方々が定年を迎える。シニアネットの活動に加わっていただき、地域のために活躍していただければと、団塊の世代の方々にも強く呼びかけることとした。

更に、自治体の関係者にはシニアネットとの協働（コラボレーション）を促し、地域の発展につなげることの重要性を訴えることを心がけた。

2. 実施要項

(1) 日時

- ・ 1日目：平成19年11月5日（月） 10：30～17：45
- ・ 2日目：平成19年11月6日（火） 10：30～15：30

(2) 会場 仙台市民会館（〒980-0823 宮城県仙台市青葉区桜ヶ岡公園4番1号）

(3) 主催 財団法人ニューメディア開発協会

(4) 後援

- ・ 経済産業省
- ・ 宮城県
- ・ 仙台市
- ・ 仙台市教育委員会
- ・ 河北新報社

(5) 協力

- ・ 仙台シニアネットクラブ
- ・ 株式会社ジャストシステム
- ・ トレンドマイクロ株式会社
- ・ ニフティ株式会社
- ・ マイクロソフト株式会社

(6) 参加費 無料

(7) 参加対象

- ・ シニアネットへの参加や新設等を考えている方
- ・ シニアネットのメンバーの方
- ・ 団塊の世代の方
- ・ シニア情報生活アドバイザーの方
- ・ NPO活動やコミュニティビジネスを行っている方
- ・ 自治体の高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動促進担当の方
- ・ 企業で社会貢献やシニア向けの商品・サービスの企画・開発・販売等を担当されている方
- ・ その他、シニアネットに関心のある方

3. プログラム構成のポイント

「シニアネットフォーラム21in東北」開催の主旨に則り「シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に、シニアネット！」なるキャッチフレーズを設定し、東北地方においてシニアネットの普及を促進するため、シニアにとってシニアネットがいかに楽しく意義深いものであるか、その魅力や重要さを分かり易く紹介する啓蒙的な内容とした。

プログラムは「基調講演」「特別講演」「パネルディスカッション」「ケーススタディ」「シニアネット交流広場」の五本柱で構成し、シニアネットの全体像を分かり易く把握できるように工夫した。講演や発表と言った“理論的”な面と日常活動の成果を展示する“実践的”な面とを有機的に組み合わせ、参加者により分かり易く、そしてより身近なものとなるよう配慮した。

(1) 基調講演 I

我が国の高齢化は急速に進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやってくる。人生80年時代、メジャーとなるシニアが、豊かで充実したシニアライフを送ることが極めて大切である。多くのシ

ニアが諸地域のシニアネットに集い、元気に楽しみながら活動し、社会に貢献している姿を各地に拡大していくことが肝要である。

そこで、医学に携わる中で「健康寿命」を提唱し、長寿社会で自立して健康で生き生き暮らすのに“ボランティア活動”こそ重要と訴える学識経験者により、シニアの新しい生き方について、「高齢社会におけるシニアの新しい生き方～ボランティア活動のすすめ～」と題して語って頂くこととした。

(2) 基調講演Ⅱ

少子高齢社会と高度情報化社会が同時に進行しているわが国にあって、ITを基軸において活動するシニアネットに対する期待は大きいものがある。「シニアこそITを身につけるべき」と言われている中、ITの技術動向はシニアネットの活動に大きな影響を与える。そこで、IT研究の大御所である専門家より「ITはシニアライフをいかに楽しいものに変えていくか」と題して具体的な事例をとおして分かり易く語っていただくこととした。

(3) 特別講演

多くのシニアネットは、そのIT普及活動等日常的な活動を通して地域のために貢献したいとしている。また、自治体にとっても高齢社会にあって、街おこしや地域振興を進めるにあたり豊富な経験や知識、ノウハウを持つシニアの参画を求めることが肝要である。シニアネットと自治体との協働（コラボレーション）はきわめて重要と認識している。

そこで、『宮城県IT推進計画』とシニアネットへの期待」と題し、自治体の責任ある立場から、自治体が政策を進める中でシニアネットやNPO法人の活動にいかに期待しているか、その活動をいかに重要と考えているか、具体的な諸施策を踏まえて語っていただき、協働を促進することとした。

(4) パネル・ディスカッション

「シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に」と題し、シニアネットの東北地方への一層の普及を期して、多くのシニアがシニアネットの本質を理解でき、シニアネットへ参画したくなるよう、より分かり易い、具体的な議論を展開することにした。

そこで、全国各地で活動しているシニアネットやシニアネットに深い理解を示すマスコミからパネリストを迎えたとともにシニアネットに造詣の深い学識経験者をコーディネーターにして、シニアにとってシニアネットがいかに重要で意義深いものであるかを議論を通して参加者全員で考え、情報を共有することで、多くのシニアにシニアネットについて理解を深め、参画を促す場を提供する。

(5) ケース・スタディ

ケーススタディとして、多くのシニアにシニアネットの活動というものをより分かり易く、理解しやすいものとするため、一つはシニアネットの活動の全体像を示すこととし、もう一つはシニアネットの活動には、その設立の想いからシニアネットごとに特徴的な活動分野が見受けられるので、類型別の活動を示すこととした。

① ケーススタディⅠ

「シニアライフを生き生き楽しく」と題し、多くのシニアに親近感をもつていただくことも重要と考え、東北や北海道のシニアネット2団体に、その体制や活動等の全体像の紹介をとおして、シニアネットとはいかなるものであるか、またいかにあるべきかを皆で考えることとした。

② ケーススタディⅡ

「シニアの想いをさまざまな形で実現」と題し、シニアネットの活動をいくつかの類型に整理し、

一つ一つ活動事例をとおして掘り下げて行くことにより、多くのシニアにとって自分たちの想いを実現するためにシニアネットの活動は格好の場となることを皆で考えることとした。

そのため今回は、シニアと地域の情報化、シニアと歴史と文化遺産の継承、コミュニティビジネス、地域コミュニティ、といった4つのケーススタディを用意した。

■「シニアネットはIT普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています」

少子高齢社会と高度情報化社会が同時進行する我が国において、シニアこそパソコンやインターネットに慣れ親しみ自らの生活を楽しく豊かにすることが大切である。

地域住民へのIT普及活動で地域の振興に大きな実績を挙げているシニアネットの活動事例をとおして、今後の普及のための活動のあり方について考えることとした。

■「シニアネットは地域の歴史文化遺産を守り、継承し、地域振興に貢献しています」

郷土の歴史や文化等に詳しいシニアが地域の歴史文化遺産を守り、次代に継承していくことは、シニアの大切な役割である。得意のITを駆使し、長年に亘って地域の遺産の保存・継承に貢献してきている活動事例をとおして、多くのシニアがこうした活動に関わるための具体的な方策について考えることとした。

■「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアを、地域を元気にしています」

長年にわたって培ってきた知識・技術・経験をビジネスに活かして社会に貢献したい、出来れば行政・企業とも連携したビジネスに取組みたい、といった意欲を持つシニアは多い。行政、企業との協働で「コミュニティビジネス」を展開しているシニアネットの最近の活動事例をとおして、コミュニティビジネスに取り組む上での様々な課題、方策等について考えていく。

■「シニアネットは地域コミュニティづくりを通じ、シニアの新しい生き方を提案します」

シニアネットは仲間づくりや地域との交流の機会をシニアにもたらすなど、シニアネットのコミュニティづくりはシニアを、そして地域を活性化する重要な活動になってきている。仙台市にあってコミュニティ活動を展開し、地域の活性化に取り組んでいるシニアネットの活動事例をもとに、シニアライフの中でこうした市民活動を通じて、地域コミュニティづくりに取り組むことの大切さを皆で考える。

(6) シニアネット交流広場

全国のシニアネットによる活動成果の展示を見ながら活動等についてより突っ込んだ意見交換を行う中で、相互理解と情報の共有、人的交流を深める場として、参加者の、今後の活動に役立てたい。

次ぎに、当日のプログラムを示す。

プログラム

1日目:11月5日(月)

10:00~10:30	受付	
10:30~10:50	オープニングセッション	<p>・主催者挨拶 岡部 武尚(財団法人ニューメディア開発協会 理事長)</p> <p>・来賓挨拶 赤津 光一郎氏(東北経済産業局長) 村井 嘉浩氏(宮城県知事) 梅原 克彦氏(仙台市長)</p>
10:50~11:40	基調講演 I	<p>「コミュニティ、NPOそしてシニアネットの力が社会を変える」 野口 正一氏 (東北大学名誉教授/ 財団法人仙台応用情報学研究振興財団 理事長)</p>
11:40~12:30	基調講演 II	<p>「高齢社会におけるシニアの新しい生き方 ～ボランティア活動のすすめ～」 辻 一郎氏(東北大学大学院医学系研究科 教授)</p>
12:30~13:30	シニアネット交流広場 (~18:00) 休憩(昼食)	<p>全国のシニアネット及び協力企業の展示 ※展示は開催期間中、ご覧頂けます。</p>
13:30~14:20	特別講演	<p>「『宮城県IT推進計画』とシニアネットへの期待」 渡辺 達美氏(宮城県企画部情報政策課 課長)</p>
14:20~16:30	パネルディスカッション	<p>「シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に」 コーディネーター 吉田 敦也氏(徳島大学 大学開放実践センター教授 地域創生 センター センター長/NPO法人いきいきネットとくしま 理事長) パネリスト(五十音順) 佐藤 和文氏(河北新報社 メディア局次長兼ネット事業部長) 佐野 逸朗氏(NPO法人いわてシニアネット 理事長) 砂川 正男氏(NPO法人沖縄ハイサイネット 会長) 千品 雅彦氏(NPO法人つれもてネット南紀熊野 代表理事) 山本 浩一郎氏(NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川 代表理事)</p>
16:30~18:00	ケーススタディ I	<p>「シニアライフを生き生き楽しく」 ①五十嵐 光男氏 (NPO法人会津喜多方シニアネット”きてみっせ” 理事長) ②齊藤 正五氏(シニアパソコンアドバイザーネット 会長)</p>
18:00~18:20	移動	
18:20~20:20	懇親会	

2日目:11月6日(火)

10:00～10:30	受付	
10:30～12:10	ケーススタディⅡ	<p>「シニアの想いを様々な形で実現」</p> <p>①「シニアネットは IT 普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています」 塩見 信雄氏(NPO 法人シニアネットひろしま 理事長)</p> <p>②「シニアネットは地域の歴史文化遺産を守り、継承し、地域振興に貢献しています」 野明 宏亘氏(NPO 法人 ICP 地域振興協会 顧問)</p>
12:10～13:40	シニアネット交流広場 (～15:30) 休憩(昼食)	<p>全国のシニアネット及び協力企業の展示</p> <p>※展示は開催期間中、ご覧頂けます。</p>
13:40～15:20	ケーススタディⅡ	<p>③「シニアネットは地域コミュニティづくりを通じ、シニアの新しい生き方を提案します」 緑川 斐雄氏(NPO 法人シニアのための市民ネットワーク仙台 副理事長)</p> <p>④「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアを、地域を元気にしています」 山根 明氏(NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹運営ワーキンググループリーダー)</p>
15:20～15:30	クロージングセッション	<p>総括</p> <p>井上 文雄氏(仙台シニアネットクラブ 代表)</p>

4. 実施状況

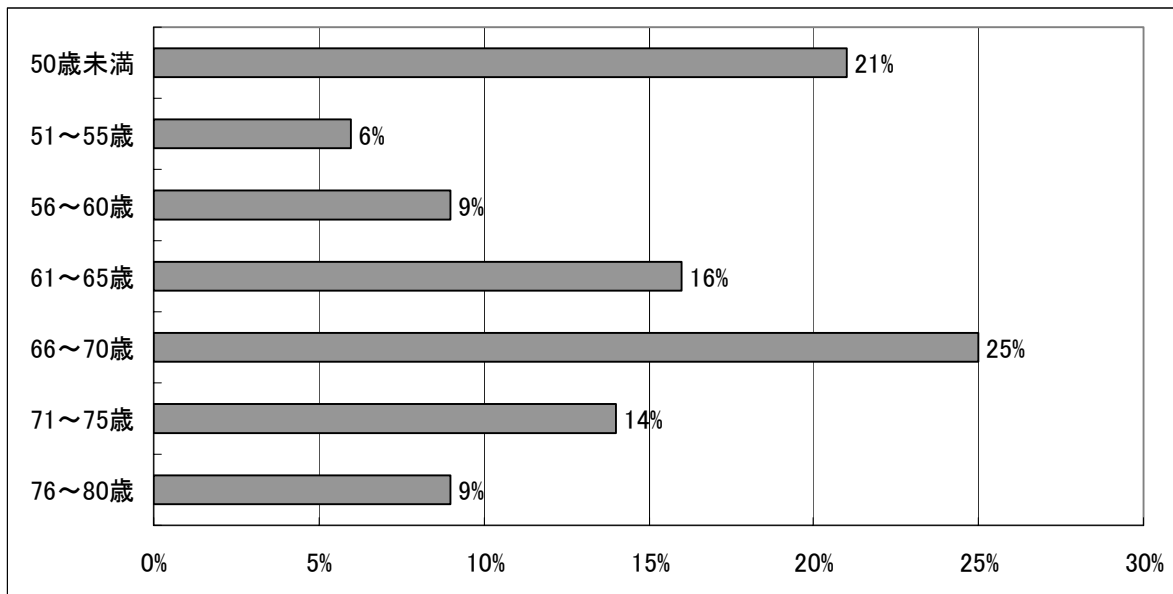
(1) 参加者

2日間で延べ320名もの参加があり、定員を大きく上回る結果となり、盛況の裡に終えることが出来た。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとする事ができた。

年齢構成は例年同様61歳～70歳が41%と主力を占めた。次いで、今年から定年を迎える団塊の世代にも本フォーラムへの参加を呼びかけたが、60歳以下の方が36%を占め、団塊の世代を含む56歳～60歳が9%であった。

また、今回、特筆すべきは自治体関係者の参加が14%と、例年を大きく上回る結果となったことである。シニアネットと自治体との協働を呼びかけてきている中、関心が高まってきていると言える。

なお、男女比率は男性71%、女性29%となっていて、女性の参加も過去最高となった。



(2) プログラムの実施概要

今回は、基調講演Ⅰ・Ⅱ、特別講演、パネルディスカッション、ケーススタディⅠ・Ⅱ、シニアネット交流広場の5本柱で行った。東北地方での状況を考え、シニアネットというものの本質を理解していただくべく、その重要性や活動状況等を具体事例を踏まえて分かり易く伝える啓蒙的な内容とし、東北地方でのシニアネットの一層の普及と更なる飛躍を図った。団塊の世代の第一陣が既に定年を迎えたのに伴い、団塊の世代の参画をも促す内容も盛り込み、参加者全員が一堂に会して議論出来るよう、全員参加型の内容で実施した。

各プログラムの内容については、その骨子を別項（6. プログラムの詳細）に記すこととする。

5. まとめ

①当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況のうちに終わることが出来た。東北地方において、シニアネットの存在はあまり知られていない中でのフォーラムの開催であったが、熱の籠もった質疑応答が活発に行われるなど、参加者の積極的な参画により充実したものとすることが出来た。

また、今回はシニアネットとはどのようなものであるかを分かり易く、啓蒙的な内容にプログラムの内容はシニアネットの理解を助ける啓蒙的な内容を主体に分かり易さにアンケートでも約99%もの多くの方から、「シニアネットについて理解が深まった」「以前から理解している」とのご意見を頂いた。今後の活動につながるきっかけにして頂ければと大いに期待している。

②アンケート結果に見られるように、参加した動機の中では「シニアネットの活動に生かしたい」「シニアネットの参加に役立てたい」からと答えた方が60%であったが、参加された結果、その比率が92%に大きく跳ね上がった。これは参加する前は「シニアネットというものを詳しく知りたい」と答えた方が、参加後には「参加したい」と意識が変わったことが大きく影響していると言える。また、参加するまでは「シニアネットの設立」を考えている人は0%であったが、参加後には7%になったことは、これからの普及に大いに期待できるものと言える。

このフォーラムをきっかけにして、参加者の意識が大きく変わったと見ることが出来、大きな成果を挙げることが出来たものと思っている。この意識の変化は、必ずやこの地域でのシニアネットの普及や拡充につながるものと確信している。これからの大いに楽しみである。

③シニアネットはすぐれて社会的な活動であり、多くの団体が地域振興に貢献したいとしている。また、シニアが地域を支える側に立っていただくことは、高齢社会の必然性とも言える。そして、自治体等も、諸施策の企画・遂行に当たりシニアの豊富な知見やノウハウ等に生かすことが重要となってきた。まさにシニアネットと自治体等との協働（コラボレーション）はこれからの社会にとって効果的で、必要不可欠なものになっていくと言える。今回、フォーラムに参加された自治体や企業の方の参加が全体の14%と過去最高を記録したこととあいまって「協働したい」「出来れば協働してきたい」と回答された方が92%と大変高い結果になったことは、関係者のシニアネットに対する関心の高さを示すものであり、大きな期待を寄せている結果であろうと言えると思う。

全国的な事例を見ても、シニアネットと自治体等との協働はいろいろな形でなされてきており、シニア自身のために、そして地域の発展のために、是非こうした機運をとらえ、両者手を携えて、現実のものとして頂きたいと切に願うものである。

④シニアネット交流広場の出展数が過去最大の20ブースになった。18ものシニアネットや協力企業の参画を得て行ったが、内容も多岐に渡り充実していたとの評価を頂いた。「全国のシニアネットの活動を実際に見ることが出来、大変参考になった」といった感想を多く頂き、喜んでいただけたようである。「これだけでも一つの立派なイベントになりうるのでは」といった貴重なご意見も頂いた。一方で「あるブースには説明者がいなかったため議論できなかったのは残念」といったコメントも頂いた。より深い交流が出来るよう事務局として一層の充実を図っていきたいと考えている。

6. プログラムの詳細

オープニング・セッション

主催者あいさつ(要旨)

岡部 武尚 氏

財団法人ニューメディア開発協会 理事長

皆様おはようございます。
今ご紹介いただきました
ニューメディア開発協会理事長の
岡部でございます。
今日は私共ニューメディア開発
協会が主催いたします、シニアネ
ットフォーラム 21 in 東北を開催
いたしましたところ、このように大
勢の方々にご出席いただきまして、
まずもってお礼を申し上げたいと
思います。



それから今回の開催に当たりま
して、ご後援を多くの方々に依頼しております。経済産業省様、
宮城県様、仙台市様、仙台教育委員会様、河北新報社様のご後援をいただきまして、それに当地の
仙台シニアネットクラブ様をはじめとしまして多くの方々のご協力をいただきまして、今日無事に
ここにフォーラムを開催することが出来まして本当にありがとうございます。

私共の活動でございますが、今も司会の方からご案内いただきましたが今回が第8回目ござい
まして、全国いろいろな地区でこのフォーラムを開催しているところでございます。

皆様ご承知の通り昨今の日本の状況を見ますと少子高齢化という状況が非常に急速に進展している
訳であります。先般の政府の発表におきましても、この9月で高齢者といいますが65歳以上の方々の
数字が2,744万人に達し、人口比率で云いますと21.5%という状況になっています。

これがまた数年たちますと人口の4分の1あるいは人口の3分の1という事で、我が国の高齢化がさ
らに進展するというようになるようでございます。

こういう中で日本の発展を支えます人口がどんどん減ってくる訳でございます。シニアの比率が高
くなるわけでございます。そういう中で行動するシニアの方々の活躍の場、シニアに期待する所が非常に
大きくなってきているところでございます。

たまたま経済産業省におきましてはメロウソサイティフォーラムという構想がございまして、多くの
先生方にも応援をしていただきまして、生き生きと豊かな情報化社会を実現しようと構想を進めており、
その中で今回も開催しております。シニアフォーラムを支えるシニアネット、シニア情報生活アドバイ
ザーの活躍を大いに促進しようとそういうことで催し物を進めている訳であります。

情報化の進展というのは非常に急速に進んでおります。テレビも2011年には地上デジタルに変わる、
あるいはインターネットの更なる高度化競争がどんどん進んでいます。こういう社会で地域の方々ある
いはシニアの方々が遅れないよう、より情報の技術を活用することが地域の発展、経済の発展、あるい
は人生といいますが生活の向上を進めていく事が重要になります。

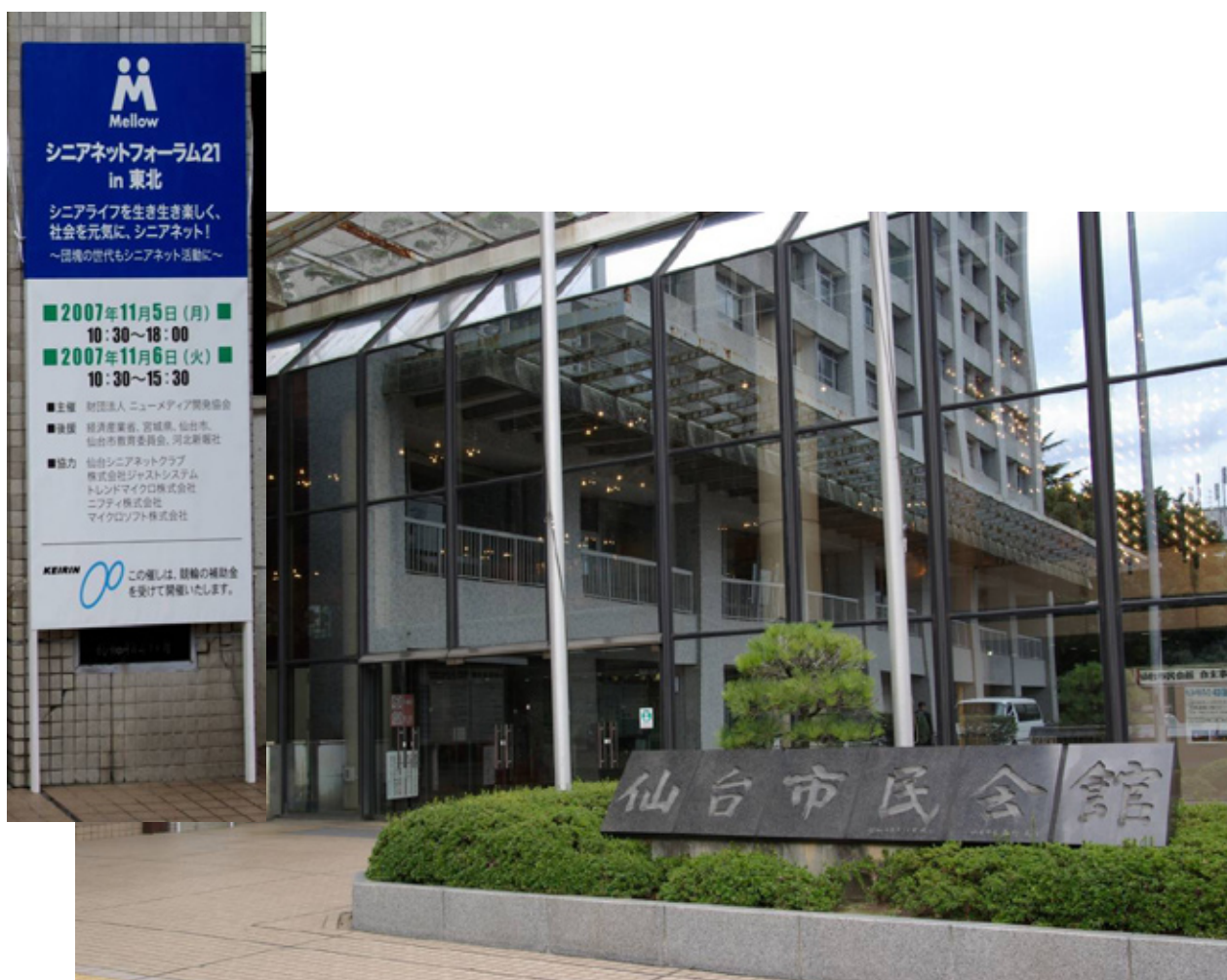
そういう意味で我々が進めている、シニアネット、シニア情報生活アドバイザーが社会の発展、活力の維持にお役に立つのではないかと考えているところであります。

ちなみにちょっと数字を申し上げますと、現在私共で実施していますシニア情報生活アドバイザーの数でございますが、全国で2,800名になります。毎年百数十名ずつ増加しております。そしてアドバイザーの方々が講習会ですとかいろいろの活動を地域で支援してやっておりますが、そのネットの数が110という段階になっております。ご当地東北6県で見ますとシニア情報生活アドバイザーの数が131名ネットの数が9団体という状況になっております。全国から見ると若干少なめではありますがこれからその発展増加が期待されるところです。

シニアネット、シニア情報生活アドバイザーがこれからも多きに活躍をすると共に、来るべき新たな高度情報化社会を支えて行き、少子高齢化の問題に対応していくという事が期待されているところです。

今日及び明日の2日に亘りまして、全国各地で活動しているシニアネットの方も来ておりまして、そして展示等も実施しております。このようなシニアネットの活動を皆様方にご覧いただきまして、ご当地における情報化対策、活性化対策の一助にいただければと思っております。

どうぞ2日間参加の皆様の相互の交流、あるいはより深い理解を進めていただく事を期待しまして、開会に言葉とさせていただきます。どうぞ2日間よろしくお願いたします。



オープニング・セッション

来賓あいさつ(要旨)

赤津 光一郎 氏 東北経済産業局長
代読 野田 耕一氏 地域経済部長

只今ご紹介に預かりました東北経済産業局地域経済部長野田でございます。本来ならば局長が参りまして直接ご挨拶申し上げるところでございますが、所用がございまして本日出席できませんでしたので、私のほうからシニアネットフォーラム 21in 東北の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は全国から多くの方々がこの東北の地においでをいただきまして大変ありがとうございます。また皆様方におかれましては常日頃より経済産業政策にご理解とご協力を賜りましてありがとうございます。このシニアネットは、得意のITを活かして充実したシニアライフを送りたい、少しでも社会の役に立ちたいとする高齢者の方々が集いまして誕生したものと伺っています。このシニアネットを通じまして、地域の情報化推進やまちづくり、地域振興策にも重要な役割を果たしていただいております。この場をお借りして御礼を申し上げます。



先ほど岡部理事長よりお話がありました通り、我国は少子高齢化が進展する状況でございまして、東北におきましては各県共高齢化率が20%を超えるという事で、全国より一足先に超高齢化社会に突入して行くという状況にあります。さらに団塊の世代の大量退職が進むという事で、我国の経済成長への影響も多大というふうになっている所でございます。

経済産業省といたしましても従来からのメロウソシティ構想を初め、来年度の新施策としては新現役チャレンジプランやコミュニティビジネス振興といった取り組みを進めていく所存です。このフォーラムはそれらに先んじまして、企業を退職された方々が地域でいろいろ活躍されるという活動を進められていらっしゃるという事で、非常に先取りした有意義な活動ではないかと考えています。

今回2日間に亘りまして本フォーラムが開催される訳ですが、大変興味深い基調講演とか全国各地のシニアネットの先進的な取り組みの発表も予定されていると伺っています。いろんな活動のパネル等も準備されているようでこのフォーラムを通じ、先ほど東北地域は若干活動が全国より低いという指摘もございましたが、東北地域におきましても皆様方を中心といたしまして、地域に根ざした活発な活動が展開される事を期待する所であります。

今回2日間に亘りまして本フォーラムが開催される訳ですが、大変興味深い基調講演とか全国各地のシニアネットの先進的な取り組みの発表も予定されていると伺っています。いろんな活動のパネル等も準備されているようでこのフォーラムを通じ、先ほど東北地域は若干活動が全国より低いという指摘もございましたが、東北地域におきましても皆様方を中心といたしまして、地域に根ざした活発な活動が展開される事を期待する所であります。

最後になりましたが本日出席の皆様のご活躍を祈念いたしますと共に、本フォーラムの開催にご尽力いただきました関係者の方々にお礼を申し上げまして挨拶とさせていただきます。本日は大変おめでとうございます。

オープニング・セッション

来賓あいさつ(要旨)

村井 嘉浩 氏 宮城県知事
代読 小林 伸一氏 企画部長

村井知事が参りましてご挨拶申し上げますところですが、本日あいにく海外出張ということで失礼させていただきます。私、企画部長の小林でございますが知事の祝辞を御伝えさせていただきます。

祝辞、本日「シニアネットフォーラム 21in 東北」が全国各地から多数の皆様のご出席によりかくも盛大に開催されましたことに心よりお慶び申し上げます。

本日は日頃全国各地でITを駆使して地域貢献活動を展開されている皆様が一堂に会され、シニアネットの更なる進化拡大に向けての意見交換を行われると伺っております。皆様方の地域における積極的活動はシニアの方々の社会参加を促進すると共に、生きがいを提供するものであり地域活性化にもつながる大変重要な取組みであると考えております。

さて、宮城県におきましては、すべての県民が希望を持ちまして安心して生活できるよう県が優先的、重点的に取り組むべき施策を明らかにした宮城県の将来ビジョンを今年の3月に策定致しました。「富県共創」、共創というのは共に創るという意ですが、活力とやすらぎの邦づくりを県政運営の理念に掲げ、情報政策に関しましては電子自治体化の推進、ITによる地域経済の活性化、地理的情報格差の解消に向けた情報通信基盤整備の促進といった、IT政策の推進に取り組んでいるところであります。今後ますます地域におけるIT活用の拡大が進むものと思われませんが、本日ここにお集まりの皆様をはじめ地域住民の皆様、国、市町村、関係事業者の方との緊密な連携を深めながらユビキタス社会の実現に取り組んで参りたいと思っております。

最後になりましたが本日ご参加の皆様のみすますのご健勝とご活躍を祈念いたしますと共に、シニアネットの普及、拡充が一層図られ明るい活力ある社会が実現することを期待し簡単ですが祝辞とさせていただきます。

平成19年11月5日 宮城県知事 村井 嘉浩
代読でございます。本日は誠にありがとうございます。



オープニング・セッション

来賓あいさつ(要旨)

梅原 克彦 氏 仙台市長

皆様おはようございます、仙台市長の梅原克彦でございます。

本日はシニアネットフォーラム 21in 東北にかくも多数のシニアの皆様が出席いただきまして、私も大変うれしく存ずるしだいでございます。

皆様には、このフォーラムを通じていろいろとお考えいただきたいのですが、その中でまず、情報化社会はプラスの面ばかりではないことをお考えいただきたいと思います。子供たちは今、携帯・Eメールを自由自在に使っていますが、これは単なる携帯とパソコンの端末ではなくて、子供たちが、親御さんも学校の先生もまったく関与しない所で暗い世界につながってしまっていることもあるのですね。

数日前、新聞各紙でも報道されましたが、情報化社会、ネット社会の弊害から子供たちをどうやって守るかということを中心として仙台市でシンポジウム「安全安心街づくりフォーラム『情報化社会がもたらす光と影』」がございました。警察のOBの方や大学の先生による非常に良いディスカッションだったのですが、その中で、子供たちにとって好ましくない情報などをスクリーニングする機能は技術的には可能であるのに、日本ではまだほとんど普及していないという話もありました。これは、IT関係業界の協力、そして学校、地域市民の力を挙げて、子供たちを餌食にしようという悪い人たちから守っていかねばならない、そのためにもシニアの皆様がIT社会、ネット社会といった事についてぜひご勉強していただきたいと考えています。そして皆様方の人生のご経験、これまでの知識、見識、智恵をもって、さらにシニアネットフォーラムを通じて学んでいただいたことを、ぜひ次の世代をどう育てていくかということにお役立ていただきたい。それぐらいに子供たちの世界は大変な危機になっています。これが1つです。

2つめは、私は53歳ですが、私たちの世代も含めて特に若い世代が、顔と顔をつき合わせた、英語でいうとFace To Faceの人間関係が非常に不得意になってきています。私たちの世代はまだいい、今の子供たちが特にそうです。若者も含めFace To Faceのコミュニケーションが出来なくなっている子供がものすごく増えています。皆様方のお孫さん、あるいは曾孫さんも含めてそういう子供さんたちが出てきていませんか。例えば親御さんが両方働いていて、パソコンに子守をさせている、そういう現象を見聞きすることがありませんでしょうか。その結果、子供たちがコミュニケーション能力の基本のところができなくなってしまう、こういったケースが出ていることについて、私は幼稚園、小学校低学年の現場からの報告も受けています。



私たちの社会は、好むと好まざるとにかかわらずいわゆるIT社会、ネット社会になっています。もちろん素晴らしいプラス面がたくさんあります。シニアの方々、皆様ご自身もそのプラスの面を最大限に活用していただきたいと思いますが、先ほど申し上げましたマイナス面、負の側面をできるだけ小さいものにしていく必要があること、そのことをぜひ皆様にも意識していただきたいと思います。そのためこういったシニアネットフォーラムは、後ほど私が敬愛する野口先生はじめ選りすぐりの先生方からの講演やパネルディスカッションがあると伺っておりますが、大きな役割を果たすと感じています。

このシニアネットフォーラムの成功と、そしてフォーラムが皆様方にとってお役に立つものとなることを祈念いたしまして私のお祝いの言葉とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。



基調講演 I

コミュニティ、NPOそしてシニアネットの力が社会を変える

野口 正一 氏

東北大学 名誉教授

財団法人 仙台応用情報学研究振興財団 理事長

皆さん、お早うございます。ご紹介いただきました野口でございます。当年満 77 歳でございます。

今日お話ししたいことは、シニアこそ我々が日本を変えていく力であるということです。しかし、今のままでは駄目ですよ。社会あるいは産業、家庭環境がドラスティックに変わっていく中で、我々が今後どういう形で、シニアの世界を作っていくかという基本問題についてお話をしたいと思います。

シニアとはいったい何なのでしょう。いろいろ定義はあると思いますが、私の個人的な定義は、一応 60 歳から上で今までの人生を一通り卒業された方というように考えています。

今の社会には子供から、小、中、高、大学にいくまでの間には、社会的に、この層の人達をサポートする社会体制があるんですね。それから次に就職します。定年までの間、これもやはり、いろんな形で社会的なシステムがサポートしてくれています。

その先をサポートしてくれるところとして、今、シニアネットがあります。しかしながら、問題は、その他にはほとんど無いのです。それが日本にとって大きな問題ですね。60 歳から活力ある人達を概算すれば 3000 万人はいるのです。この人達が日本の将来の発展に対し、何か力を出すような仕掛けを、これから社会が作らないといけない訳です。どうやって作るのでしょうか。これが実は、日本にとって大変大事な問題なのです。

特にいろんな意味で現人的資源が足りないといわれています。その中で、強いシニアの人達を最大限に活用すれば、日本はより良く、よりリッチな社会になる、なっていくと思います。そういう事を前提として、今日は、この話をさせていただきます。

まず大事なことは、「シニアこそ第 2 の人生をエンジョイすべき」ということです。考えないといけないのは、せっかく今まで人生をえいえいと、家族のため、社会のために、尽くしてきたんですから、我々はエンジョイすべきだということです。このエンジョイの意味がなかなか難しいですよ。何を以ってエンジョイとするのか、人生の最大の満足度を得るような仕掛けが、これから必要でしょうということです。もちろんそれはいろいろなことがあると思います。

毎週ゴルフに行くのも良いでしょうし、カラ



【はじめに】

- シニアこそ第2の人生をEnjoyすべき
- 人生の満足は自分を含めた共感を共有する世界の中にある
- 共感の世界を広げよう
- 積極的なコミュニティ、そしてシニアネットに参加すること

オケバーに行くのも良いかも知れませんが、もっと別なこともあるでしょう。その別の事を前提にお話しします。

そのためには何が必要かといいますと、やはり自分たちの生活の満足度を得るためには、もちろん、個人で自然を眺め、素晴らしい美術を鑑賞するのも、もちろんひとつの方法です。しかしながら、その満足を得る、ほんとうの人生を楽しむためには、共鳴する箱が必要なのです。

一人でやるよりは、そこにコミュニティがあることが絶対必要だと思います。

仙台で、例えば楽天イーグルスという野球球団がありますよね。私は、野球場にはあまり見に行っていないのですが、テレビでは、たまに見ます。ところがね、これが野球場に行ったらどうなります。皆さん。

例えば、誰かがホームランを打つ、イーグルスの選手がホームランを打つ、田中投手が三振を取る。実に素晴らしいですね。感動が生まれるのですよ。これは、テレビでは絶対、味わえない、つまりコミュニティ、観客席に瞬間的に楽天イーグルスをサポートするようなコミュニティが生まれているんです。野球場の中で、これが大事なのですね。音楽もそうでしょう、皆さん。一人で CD を聞くのもこれは結構です。しかしながら大ホールで、フルオーケストラの演奏を皆さんとともに聴いた時に、ここで得られた感動は、また別の感動ですよ。そういう感動を作るのが、まさにコミュニティなんです。そういう意味でこれから我々が共感を呼ぶ世界をつくらうじゃないかということです。これは何でもいいんですよ、共感の世界。その中でシニアネットは重要な力をもつでしょうということを最初に申し上げたいと思います。

こういう風に作ったときのコミュニティというのは実は、すごい力があります。自然発生的に生まれたコミュニティが社会を変えた例をお話します。

これは皆さんよくご存知ですよ。テレビを通してバーチャルなコミュニティが政情を動かした最初の例が、私の感じでは、ニクソン大統領候補とそれからケネディ大統領候補が TV で論戦しましたね。あの凄さですよ。圧倒的な力でケネディが勝つ、つまり TV を通してケネディをサポートするコミュニティが、実は生まれていたのです。これが政情を動かしたんです。これが最初の例だと思います

次の例は、皆さんよくご存知の小泉さんですよ。小泉教というカリスマ教祖が現れた、彼がいろんな処でメディアを通して小泉教を訴えたわけですよ。自民党をぶっこわすとか。この世界の中で彼は、橋本さんに当時の予想では完全に負けると思われていたのをひっくり返して彼は総理大臣になりました。それから正に小泉チルドレンが生まれたような話もすべて、これはテレビを通してあるいはメディアを通して共感の世界が生まれたことで、小泉サポートが生まれ、小泉総理大臣の支持率が大変高くなり、自民党が優勢になったのです。

その逆が実は、この前の参議院選挙です。いろんなことがありました。最後には、絆創膏のお兄さんが出てきてすっかり変わっちゃったのですが、これで圧倒的に民主党が勝ちました、凄いですよね。

これもコミュニティの力ですよ、実は。一人では連帯感が無いけれど、社会的に自然に発生したコミュニティが実は、政治を変えます。

また、別の話をします。この前、Tという会社が、インターネットで問い合わせに対し極めて不親切な対応をしたわけですよ。その時、インターネットの世界を通してT社の家電商品を買わない、買ってはならないというコミュニティが生まれました。これは恐ろしいですよ。これは、あるレベルで収まりましたけども。

場合によって、企業の死活問題というのは、こうしたことでも起こるわけですよ。その力を作ったのは、実はコミュニティです。いろいろなネットワーク、例えばシニアの方のシニアネットを含めたシニアの組織も生まれています。シニアのコミュニティは地域を変えつつありますよね。

もっと変えなきゃいけない。こういうことが実はコミュニティの力です。

いったいコミュニティとは何かということ、ちょっと、固くなりますけど定義付けしてみましょう。

コミュニティとは、いうなれば自然発生的に生まれた、非常にルーズなカップリングの、仲間です。これが、ここで定義しているコミュニティです。

ですから特にコミュニティのメンバーに関して大きい制約はないと思います。もちろんいろんな細かい規則があるかもしれませんが、基本的な部分では無くていいんです。

それに対してNPOとは何でしょう。これは法人格を持つということです。然るべき監督、宮城県とか、国の場合は文部科学省とか、そういう組織が、一つの組織として認めたものがNPOになるのです。ということは、かなりシャープな、なすべきミッションを持たないといけません。その目的を達成するために、制約事項が入ってまいります。それが、先ほど申し上げたコミュニティとNPOとの違いです。

次に、これからシニアがどういう形で新しい組織を作り活躍するかということに関して、三つの社会環境の変化の問題を考えたいと思います。

一つは社会がどう変わるのかということです。二つめは産業構造がドラスティックに変わるでしょうというお話しで、そして三つ目は、家庭生活を含めた我々の生活環境がかなり変わりつつあるということです。そういう前提の中で、我々の新しいコミュニティというものを将来さらに再構築しようじゃないか、というのが以下の話です。

最初に、社会の変化に対して最も凄いの、グローバルゼーションです。その凄さを、皆さん考えてください。

かつて先進国といわれていたのは、アメリカ、ヨーロッパ、日本。人口は、だいたい数億人です。

その世界に今度、新しいエマージングカントリー（新興市場国）の人達が入ってきました。中国であり、韓国であり、インドであり、その他の国です。その人口は、恐らく 20 億以上なんです。つまり 5 億人で世界の経済というものを動かしていたところに、プラス 20 億の人が新たに入ってきて一緒に競争しようというのが、実は 21 世紀なのです。

そうしますとローカルな日本だけではすみません。要するに今までの何倍かの人達で新しい社会、システムを作らなければなりません。ということは、ここに一つのグローバルスタンダードというものが、否が応でもでてきます。グローバルスタンダードというのは、いやな言葉です。しかし我々は、以前と変わらず、プライドも保ちつつ、その中で生活しなければいけません。それが一つの大きい違いです。その中で日本は、今までの近代社会、製造業を中心として繁栄してきたわけですが、その繁栄してきた日本の製造業というものは、今お話ししてきたようになりかなり状況が変わってきたわけですから。そういう中で、我々は一体どうしたらいいのかというのが一つの大きな問題提議です。

第二の問題は、人口構造の変化と家族形態の変化です。

これは 10 年先の問題ですけどね。働く年代から見るといわゆるシニアの人たちのポテンシャルとしては、さっき 3000 万といいましたが、もっと多いんです。日本の人口の約 40% といいますと、働く人達の人口の 40% のウエイトをもっているんです、シニアというのは。

それがね、いま単にボランティアだけのレベルでシニアのコミュニティがあるというのは、非常に勿体無いです。例えば、ボトムアップでもいいんですけど、目的をもった一つの組織が出来たら凄いい力になり得るわけですよ。そういうことが人口の変化で、これは 10 年先になるでしょうが、益々加速されるでしょう。

それから家族に関する考え方の大きな変化です。皆さん充分ご存知の通りですが、要するに我々はまだ自分たち夫婦二人が中心の生活に慣れていません。今の 50 代位の方までは、恐らくまだ儒教の精神が残っていると思います。ところが今の若い人達には殆ど無いでしょう。皆さん多分、仙台では分かりませんが、東京に行かれて電車に乗った時に、席を譲ってくれる人は何人いますか？私達が若い頃には、必ず年をとった人が来れば、席を立ったもんですよ。「老を敬う」その精神は現在ありません。そのよ

うに我々の家族生活の中身は変わってきているわけです。私は実は経験しているんですが、いずれは皆さんの中の多くの方も、夫婦二人になるんです。もちろん、子供さん達は遠くに居るかもしれません。二人になって年をとって行くわけですが、一緒にあの世に行くことはほとんど無いですよ。必ず、まず、どっちかが倒れるんですよ。どっちが先か分かりませんがね。倒れたときに、その一人を一人が、きちっと面倒見なければならぬのです。そりゃ簡単にどっかの施設に送れば簡単ですけど。実は、うちの女房は要介護4です。ですから私は50%ヘルパーをやっています。

実際にやってみると介護というのは大変です。おそらく施設に入れてしまえば、私は楽かもしれませんが。だけど、介護される人から見たら、絶対に家におくべきなんです。家庭で介護しなきゃいけない。ある状況にすれば病院、あるいは施設に入れなきゃいけないと思いますが、それが一番大事なことなんです。そういう仕掛けを作らなければならないんです。

しかし、それは絶対一人では出来ない。一人が倒れたときに一人、おそらく80歳くらいになるでしょう。皆さん、80歳の方がね80歳の介護が出来ますか。ここで、NPOの力が要るんですね。

そういう仕掛けを我々は、これから作らなければならない。つまり、介護のスキームというものを作っていくのは、やっぱりシニアなのです。もうちょっと詳しいお話を後で致しますけど、いずれ我々人間は死ぬんですから。

第三の問題は産業構造がすっかり変わりつつあることです。これは先ほどお話した通りです。かつて日本は製造業で世界をリードし日本はそれなりの富を得ました。しかし、さっきお話したとおり、数倍以上の新しい人口が我々の世界に入ってくるグローバルゼーションの問題。それに勝つには、どうしたら良いのでしょうか。

ここで大事なことは、高度な知的産業を作っていかなければならないということです。つまり高度な人材が必要です。ところが、いま企業に張り付いている人だけでは足りません。そこで実はシニアの出番があるのです。いままでの充分経験を持っている方たちが、ただ漫然と60歳以降を過すのは勿体無いです。その人達には是非働いてほしい、その仕掛けを我々は作らなければなりません。

儒教の精神だけではもちろんないですけども、新入社員が会社に入るでしょ、彼らは既にインターネットを通して、次の就職を探しているのです。三ヶ月後には、就職サイトに実は登録している。もっと良いところがあれば行くよ、これが世の中です。だから日本の将来というのは、なかなか大変だなと思うわけです。

ひとつの重要な解決法として、大事なのは知的労働者ですが、知的労働者を、これから我々は、どうやって日本の中で創出し、その人達に力を発揮してもらおうかです。これができるのがシニアです。実はシニアとは凄いなと思います。ですからシニアの力をうまく結集する新しい仕掛けを我々は考えていかなければならないと思います。

シニアが凄いなというのは、どこかというところ、過去、何十年の間に、社会生活をし、それなりに自分の人生観をもっておられるということです。一つは、さっきお話ししましたエンジョイという意味の先のターゲットには、広い意味での社会奉仕という概念があります。社会に出てサービスをする、そういうことをする中でシニアが持っている経験の力というのはものすごく大事なんです。シニアというのが自分の知恵、時間、それから自分のお金を自由にコントロールできる訳です。殆ど多くの方はシニアになられると

何故シニアは凄いか

- (1)シニアの今までの経験の力
- (2)シニアは自分の知恵、時間、お金を自由にコントロールできる
- (3)シニアの人口は、日本の生産人口の40%以上
- (4)団塊の世代は(1)~(3)の状況をさらに加速する

子供さん達の教育から、もう卒業しております。自分達の生活空間の中で、全てがコントロール出来る訳です。

つまり、この自由という価値を、今言いましたとおり生産人口の40%となっていくシニアの人達は持っているんです。これが、団塊の世代が出ることによって、この状況が益々加速されていきます。我々は新しいシニアの社会というものを作らない限り、日本というのは、絶対にいい形になっていかないというふうに思うわけです。

シニアが力を発揮する例としては、国が認めている産業別にある多くの資格を取ることです。ITに関していえば、皆さん方は、60歳以降になったときに、例えば資格を、既にとっておられる方もいると思いますが、ITコーディネートの資格を取るとか、それからISMSの審査員になるとか、Pマーク審査員、これは個人情報保護法の世界から生まれてきた制度なんです。その他、いろいろ内部統制に関わる審査員、今後も企業の中から出てきます。

こういった仕事をするというのは過去の経験が絶対必要なのです。20代の人達が、こういう審査員になるのは難しい、経験が無いからです。他にも沢山あります。例えば、審査員になったとき、仕事をすればそれだけのリターンがあります。この世界はボランティアではないんです。一つのコミュニティとして、審査員コミュニティというのが。コミュニティに入って、その中で仕事をすると、稼ぐ人は月50万円くらい稼ぐのです。審査員はお金だけではありません。いろんなチャンスがシニアの世界にあるのですよというお話を申し上げた訳であります。

もう一つ、シニアが凄いののは財力です。実は大事なことで、金融資産がどの位あるかという事が、社会生活のアクティビティを決めているのです。皆さん、俺は、そんな金ないよというかもしれませんが、実はあるのですね。お帰りになって貯金を見ると多分わかると思います。

次は生活意識の大きい変化についてお話しします。生活は、先ほどお話した通り、変わるんです。個人を中心とした社会生活、今までは職場の縁というものが非常に強かったと思います。それも一応、定年で卒業しました。ですから、その縁は切れる訳です。そうするといったい、今度はどのような形で一つの縁というものを求めていくか、まったく一人の個の中で作っていくということももちろん良いのですが、先程お話したように最大限の満足度を得るための個を中心とした縁の世界を我々は、作らなければなりません。第二の人生における新しい縁の世界、それがコミュニティであり、ここでいうシニアネットも一つの例になるだろうと思います。

つまり人生の満足度を求めるのに対しては、今いったコミュニティで同じ目的のために集まろうではないかという仕掛けが必要でしょう。その中の一つは、家族を中心とした単位で一つの世界を作っていくという考え方です。あるいは趣味の世界で纏まるようなコミュニティを作っていく。社会貢献をしよう、あるいは、もっとしっかりとしたビジネスの世界で、共に価値を共有しながら、共に行動するような組織があることによって、皆さん方の新しい人生の満足度、喜びが得られるでしょう。そういうことを考えて見ますと価値を共用する、共に行動する組織を作っていくうえでNPO、コミュニティ、そしてシニアのネットワークの世界というのは大変に重要だということをご自分で申し上げたかった訳です。そういう形で新しい世界が展開していくことを希望しています。

NPOという話をいっぱいしましたけれども、コミュニティは、じゃあ、どんな構造になっているか、ちょっと堅い話でありますけれども整理してみようというのが、以下の話です。

コミュニティには、3つの階層があるんです。それは、どういうレベルで見ると、既存の知識を活用した上でコミュニティ、NPOを作っていくということならば、地域における目的別のNPO、福祉介護とか、あるいは、新技術、例えばインターネットの新しいバージョンが上がってきたときに、それを学習することを支援していくということも一つのコミュニティとしてあります。お金があればベンチャー支援ということも一つです。

しかし金融資産が無いとベンチャーの人のサポートは出来ないんです。もちろん一人では出来ないんですが。

ベンチャー支援のコミュニティを作って、そこで優秀な若い起業家がいれば助けてあげましょう。

かなりリスクです。成功すれば大きいですけど、その辺はケースバイケースです。ベンチャー支援の組織を考えてみると過去の知識がものすごく大事なんです。あの新しい経営者は、こう言っているけども、本当に大丈夫なのかね、それをきちっと査定できるのはシニアなんです。私自身が、いま東北イノベーションキャピタルという会社の非常勤に近い取締役をやっていますけども、そこで、いろいろなチェックをする審査員がいらっしゃるんです。皆それは、それなりの年がないと出来ないですね。

第一レベルのコミュニティ、もう少し平たく言えば、趣味の世界、俳句も良いですね。あるいは、ペットの同好会。昔、こういうのもインターネットでやりましたね。猫、キャットを愛好するコミュニティがあったのです。そこで、どういうことをやったかという、例えば、Tシャツに猫を印刷するような仕掛けをいろいろ考えたんです。それはビジネスになるとか話しておりました。この他の例としては、釣りの仲間、釣り情報があります。この季節、何処に行ったら、どのような良い魚が釣れるといった話も多分作れるでしょう。こういうレベルが、ここで話している第一のレベルのコミュニティ、NPOなのです。

第二のレベル、これはちょっと専門的になります。専門知識があるといろんな形のコミュニティ、NPOが出来ます。例えば、電気通信関係の人が集まるとか、建築関係、こういった人達は何人でこういったコミュニティを作るかという、本当の狙いは業務受託ですね。こういうNPOを作ると、国とか、県の仕事を取り易いんです。それで、こういうコミュニティを作るんです。自治体から見ても見事な仕掛けでNPOが運営されていますと、特別に発注することも、自然なんです。そういうことで、こういう業界関連のNPOというのが実はあるんです。

さらに社会的な奉仕に関して言えば、災害復旧の国際支援とかです。医療支援、これはもちろんそれなりの知識がないと出来ません。こういうレベルに知識を使って新しい、一つ上のレベルのNPO、場合によってはコミュニティでもいいのですが作っていくような仕掛けが出来るのかなあという気が致します。

第三レベルは、かなり上の方のレベルになります。国際標準化、日本の産業が今までうまくいかなかった、これから大変になっていくのは、実は物を作るときに、特にITの場合はそうですが、標準化というのは非常に大事なんです。標準化で決まった仕様でないと世界に売れないです。

もちろん、これは国際的に認められたものであることが絶対必要ですが、実際認められるものが二つあります。一つは委員会の中できちっと決めて、コンソーシアムの標準化チームが作っていく。つまり国際的な標準化で認知させる方法もあるけれども、マイクロソフトのようにマーケットで押さえてしまうという方法もあるんです。

あとで出てきますLinuxというオペレーティングシステムが、コンピュータの世界にあります。これは、こういう標準化チームの一つの現れです。

それから社会貢献においては国際レベルの疾病対策のようなNPO、これは世界のトップレベルの医療、あるいはその貿易に関する知識がないと出来ません。どういう流れの中で、どういうふうに皆さんがNPO、あるいはコミュニティに参加されるかというのは、過去の経歴から判断されています。最も自分の力の出るところに参加されていかれたら大変良いかなということです。

ここで、改めてひとつ問題点を考えて見ましょう。コンテンツとメディア、メディアとコミュニティとの関係というものを少し考えて見ましょう。実は、コミュニティを強力に支援するのが正にメディアなのです。メディアの力、先程お話ししましたテレビの持っているメディアの力は凄い。

インターネットが持っているメディアの力も凄い。それはいったいどういうところに起因しているの

だろうかということです。実はメディアというものを、もうちょっと論理的に分けてみますと、二つの階層があるのです。一つは物理的な階層、例えば伝送速度が速いとか、ネットワークとして広がっていると、それが物理層の基本、次は流す情報の問題です。これは二つの階層に分けると非常に分かり易い。

まず物理層。どういうものがあるかというインターネットです。昔は、のろい 1.2k 位で始まったのが、今ではもう 10MG、場合によっては 100MG 等、そういう能力が物理層です。

それからネットワークとして、どれだけお互いのネットワークが繋がるか。個人対個人がネットワークで繋がるかというネットワーク機能というのも非常に重要です。

問題は、ここなんです。一方向か双方向か、インターネットは双方向です。テレビは双方向ではなく、一方向です。要するに放送局が流す情報を我々は受ける、ここにあります。

物理層の人による口コミ、一番これが単純、フェース・ツー・フェースのコミュニケーションのレベルです。音声対話です。今お話したようにラジオもテレビも一方向、局が全部の情報を仕切って流す、最近では、いくらかの双方向の口からも入っては参りましたが基本的には一方向。インターネットは双方向、これがインターネットの持っている強みになる訳です。ただ問題は先程話しました通信速度、これが放送とインターネットでは格段に違う、実はこの他に、どういうインターフェースを使うかの問題がありますが、細かいのでここでは省略いたします。

コンテンツはどうなっているかという、このコンテンツの流通の仕掛けが重要です。つまり、作ったコンテンツをどれだけ自由に流すことが出来るのでしょうか。自由に流すことには問題あるのですが、コンテンツを誰が作り、誰が制御するかという、この問題が大変大事です。これに強いコントロールが入りますとコンテンツとしての機能が出てこなくなります。インターネットはパソコンに向かい、接続をし、知りたい情報にアクセスしないといけないわけです。だから、面倒だ、解らないと思うと、なかなかインターネットの世界に入っていくことができません。テレビというのは寝転んでいるあいだに入ってきてしまいます。バンバン一方向です。そしてがんがんコマーシャルが打たれる、で、そのコマーシャルというのは、実は絶大な威力があるのです。結構、我々は、それにだまされて買うケースが多いでしょう。

インターネットの場合は、それに対して不特定多数の色々なコメントが入るので違うと思います。そういう意味でテレビというのは基本的に局側でコントロールされている。例えば、一つの報道発表にしても、ネガティブなところだけ拾っていても事実ですから嘘ではないですね。あいつは駄目だ、あいつは駄目だ、あいつは駄目だという話を纏めていくと、一つのキャンペーン、ネガティブなキャンペーンになる。嘘を言っていない、本当ですから、全部インタビューをやっていますから。プラスのいつていることを全部削った場合は、一つのネガティブなキャンペーンになっちゃいます。そういうコントロールを、実は局側がしています。これは怖いです。

それからインターネットのさっき梅原市長がいった負の部分、実は私が昔、会津大学にいた時、今から 10 数年前、当時、会津大学は最先端の大学でした。学内にネットを張ったんです。

そうしたとき、いろんな情報が、そのネットを通じて学生たちに教員を含めて飛び交う、中には今でいうイジメそのものが情報として流れるんです。これはコントロールしようがない。

こういう例を思い出しました。昔、江戸時代かもしれませんけど、木があって、わら人形がおいてある、釘で叩くシーンがあるでしょう。同じことがインターネットで起こるんです。それがイジメなんです。怖いんです。それを私は 10 数年前に経験しています。こういう問題が、インターネットにおける負の部分、それをどう処理するか大変難しいですが、これに対してシニアの人達というのはある意味で、良いサポートを出来るのではないかと思います。教育です。若い人達の教育の中でシニアならではの教育をやることができます。まず、皆さん方は、儒教の精神を持っています。あるいは、いろんな世界に

いた人達の昔から持っている思想で、いろいろなお話が出来るだろうと思います。これから、こういう問題を考えていくことは、例えばシニアネットにとっても大変大事なことだと思います。

メディアの能力というのは、今お話しましたようなまず物理的な層の能力があります。インターネットのメディアとしての能力は凄いです。あっという間に、ここに数千万のネットワークが出来てしまいます。ブログを書いたとき、内容によりますが、恐らくここで作られる仮想的コミュニティの大きさというのは一千万、二千万単位のもの、あっという間に出来ます。これは、今までの世界に無かったことです。それがプラスにもなるしマイナスにもなるということです。それを決めていくのが、流通の自由度、コンテンツの内容の深さというものだと思います。このメディアの流通の範囲というのはインターネットを使える、全世界の人達がコミュニティメンバーの候補なんです。そういう事を考えてみますとインターネットの世界は凄いです。

現在、最も強力なメディアというのは、一つはさっきお話したテレビです。否が応でもテレビをつけたらコマーシャルが、がんがん入ってくるわけです。もう一つは新聞、これはいま斜陽産業、今日新聞社の人が来ているので大変申し訳ないんですが、新聞社の人は大変です。しかしながら、この新聞社が持っている最大の力というのは、実は本質的に言えばコンテンツの力です。新聞をじっくり読むということは、残念なことだけでもテレビでも、インターネットでも出来ないことです。インターネットは、その気になれば出来るかもしれないけども。例えば皆さんトイレの中で新聞を読むということは大事です。そういうことが出来るというのが、新聞です。つまりコンテンツの深さを持っている。この三つが現在の代表的な強力なメディアであろう、と思います。

さて、いろいろお話してきましたが、これから一つ新たにコミュニティ、NPO がより発展するためには、どういうことを考えたらいいのでしょうか。そのためには、まずそのコミュニティなりNPO が持っているミッション、その目的というものを、きちっと鮮明にすることが大事です。そしてこの旗印の下に集まりましょうという発想が極めて大事だと思います。すなわち、目的を鮮明にして、出来るだけ多くの人に参加してもらうことが力となるのです。基本原則は全ての人にオープンになっている仕掛けです。目的に賛同して下さるならば、出来るだけ入って、そして仕掛けの力になろうではないか、という意思を持つということなのです。

同時に、コミュニティに入るために口コミの世界であれば何も要りませんけれども、新しいインターネットの世界のコミュニティに入るには、入る仕掛けが要ります。それはインターネットに入るためのインターフェースに関する仕掛けです。

我々も入るための仕掛けを持っていなければ入れません。インターネットのコミュニティに入るためには最低必要条件として、入るための IT の技術を持って欲しい。その技術というのは、一回学習すれば良いというものではありません。常にインターネットのバージョンはガンガン変わっています。

例えば最近 Google というのが出てきたでしょう、あの Google は活用すれば凄い力があります。そういうものをやっていくには学習しないとイケません。常に我々は日々の学習の中でインターネットの世界にアクセスする、繋いでいく仕掛けをより強力にしていくことが第一条件です。

第二条件は、これはいうまでもないですが、強力なリーダーが必要です。強力なリーダーの下に、実は凄いコミュニティができます。さっきほどのコミュニティほどではないですが小泉さんが小泉教とい

【コミュニティ、NPOが発展するためには】

(第一条件)

- (1) コミュニティ、NPOの目的を鮮明に
- (2) 誰でも参加できる(ある程度の制約)
- (3) コミュニティ参加のための基盤を作り、
新技術の学習、特にITの分野で

う一つの宗教を使って政治の世界を動かしたような話、それは強力なリーダーだから出来たんです。

問題は、その強力なリーダーの下での実行プラン PDCA、すなわち、プランニング、ドゥイング、チェック、アクション、これは普通ビジネスの世界で使われる言葉ですが、P・D・C・Aのサイクルをちゃんと守ってコミュニティを運営しなさいということです。つまりコミュニティをより発展させるようなサイクルを作りましょうというのが二番目の話です。

三番目の話になりますが、これからのコミュニティ・NPO が、より強力になるには、絶対「産・官・学」の連携の力が要るのです。民が中心です。民が中心ですが、新しい「産・官・学」の連携を

NPOは考えなければなりません。そして大きいのはファンディング（お金）です。いくら素晴らしい目的を持ち、組織を作ったとしても、お金がなければ、何も出来ないんです。お金をとりなさい。今日、多分 IBMの方が来ているかもしれませんが、例えば IBM は、NPO 支援に毎年2千万円出しているのです。これがあることによって、いろんなことが出来るようになります。ですから、我々が目的を持ち、仕掛けを作れば「産・官・学」の、学はお金があまりありませんが、産と官は当然お金があります。それを使って、より強力な仕掛けを作ることが出来ます。ファンディングの問題というのは、実は今までのNPOを見ているとき、ちょっと力が足りなかったと感じています。

次は、簡単ないくつかのコミュニティ、NPO の例をお話したいと思います。マイクロソフトのサポートで出来ているNPOを、ご紹介します。宮城県のUPプログラムの推進の例です。やっているのは、NPO法人ビートスイッチというNPOです。実はここに対して300万円位の資金がIBMから出ています。内容は、宮城県内の障害者の社会参加、自立支援をして就労の機会拡大を図っていくというようなNPOであります。これはマイクロソフトから頂いたデータであります。期間は2005年7月から2008年の6月の約3年間です。

目標としては力まないことです。初心者向けのITの講習をやる、就労支援のIT講習、IT支援者向けプログラムをやりましょうということです。3年間の目標として、受講者数が3000人程度です。就労者数30人程度、いわゆる身障者の方が30人くらい社会復帰した、素晴らしいプログラムです。

これがあると、いろいろ状況が動くのです。大きいお金じゃなくとも良い、やはりきちっとしたオペレーションが出来るようなファンディングが絶対必要ではないかと思います。

次は、また違った、コミュニティの例です。新しいベンチャー企業育成あるいは表彰というものをやっていく組織にEOY (Entrepreneur of The Year) というのがあります。これは全世界組織です。つまりベンチャー企業の人たちを支援してあげよう、表彰してあげよう、という組織です。例えば東北地区を纏め、日本全体があって、それが更に世界大会に繋がるようになっていきます。我々はそこで審査会を作って、審査をやっているのです。この審査会はビジネスとか技術関係のトップメンバーで構成されておりますが、その中のかなりの大多数がシニアです。50歳から上ですからオールシニアではないですが、その人達が審査をして、年に一回世界大会があるのですが、世界大会にこの推薦した人達を送る、モンテカルロであるんです。これはなかなか面白いです。

日本では、2年前にブックオフという会社を、代表として世界大会に送りました。国外では、マイクロソフトとかシスコシステムという会社がこういう表彰を受けて頑張っています。

次はもう一つの例、Linuxコミュニティです。これはもっと専門的です。これは1991年にリーナス・

(第二条件)

(1)強力なリーダー

(2)PDCAの確実な実行

(3)新しい産学官の連携

(4)必要なFunding

トールバルズという若い研究者が、UNIXに近い新しいOSの世界を作りました。当時はワーカー数人で開発業務をやっていたんです。好きな人が集まって好きな仕事をやったこと、それがいつの間にか巨大な企業が参加する、IBM、それから日本の企業も入っています。何百万人という研究者が会社の仕事とは別に、全くボランティアベースでこのLinuxの研究開発の発展に努力しています、すごい力です。おそらく、これは歴史に残るようなものでしょう。

コンピュータの世界が、これでかなり変わりました。問題は、これがどういう風に変わっていくかということウォッチする必要があります。それはパソコンの世界、携帯電話、あるいはメインフレーム、スーパーコンピュータ、あらゆる分野においてLinuxはきちんとしている。残念ながらWindowsの世界に対抗するには、まだまだ、そんなには強くないのです。しかし、Windowsに、ほぼ対抗する力にはなりました。このLinux、それを支えているのは、先にお話した、数百万人のボランティアです。コンピュータのOSを開発するボランティアの人達が、実はこういう世界を作ったのです。

これはリーナス・トールバルズという人がカリスマ的かどうかは僕はわかりませんが、こういうリーダーの下にワットと数百万の人が集まって、全世界のパソコンの世界あるいはITの世界を変えていく力が生まれたということは凄いことです。スーパーコンピュータに関しては世界における500の凄いスーパーコンピュータがあります。その中の80%はLinuxのOSを利用しています。それは正にボランティアベースのコミュニティがこれだけの力を作ったということです。

次に最後のテーマになりますが、介護と福祉の問題を考えてみましょう。

これは私の個人的な印象であります。私自身が要介護者を持っていることを見ますと実は介護に凄い金がかかっています。これには保険のうえで税金ももちろん入っています。だけど個人だって半端のお金を出しているわけではありません。介護を考えてみたときに、そのサポートが充分か考えると決して充分ではないんです。うまくいっていない理由は、後で出てきます。これをなんとか変えていかなければなりません。これだけの沢山のお金、後でどの位のお金が出るか分かりますが、お金を使っているながら、必ずしもユーザーから見たときに、本当に満足出来るようなサポートが得られていないとするならば、ここに私は、新しいNPO、あるいはコミュニティの出番があるのではないかと思います。

仙台市の百万都市の例です。ある意味では、一番標準的な例になると思います。

仙台市の平成17年度の歳出額は4千億です。その中で、健康・福祉関係で1千億のお金を使っています。土木とか、教育費が本当は多いと思ったのですが、圧倒的に健康・福祉に4分の1の予算が投入されています。市の予算以外に介護保険関係があります。平成15年から17年は約400億円になっています。つまり、1千400億円のお金が健康・福祉に使われています。本当に良い形で実際に受けている人達に返って来ていけば良いんだけど、実はそうではないんです。こういうものもドラスティックに変えていかなければいけません。これはなかなか難しいです。1千4百億円のお金が、地域で動いているのです。凄いお金です。それが健康・福祉・医療の中で本当に生きているかといえば、必ずしも充分とは言えない。その点、新しい仕掛けがいます。

例えば、こういう仕掛けが出来たら良いと思います。地域には当然、介護と医療組織があります。ここには当然、ケアマネージャー、介護マネージャー、医療マネージャーがいて、その下にヘルパーさんがいてサポートがいて、そして要介護者がいる、こういう仕掛けで現在動いている訳です。

実は、この仕掛けが相互にうまく流れていません。例えば、要介護者が何か問題があるとヘルパーさんは分かるけどここでお終りです。これが実は医療に繋がらないのです。こういうものをインターネットで仕掛けが出来するにはNPOとか第三者的なニュートラルな仕掛けが多分必要になっていきます。こういうものを作ってオペレーションすることによって、地域における健康・医療・介護の問題はドラスティックに変わるのではないかと思います。ただ、問題は、これを引っ張っていくリーダーです。

こういう人達が頑張っていくような仕掛けを、ファンディングを含めてサポートするようなことが出

来れば、素晴らしい新しいモデルが生まれていくのではないかという気がします。

最後に、我々としては、こういうことを申し上げたいと思います。

シニアこそが、次の新しい世界を拓くのです。さっきお話ししましたように、まさにシニアは、確実に、働く人の40%、しかもハイレベルな人材を持っています。それを活用するには新しい社会のフレームワークを作らないと駄目でしょう。その社会フレームワークを作ることによって、ここに、いろんなチャンスが生まれてきます。社会システムを作り、そして、そのためにビジネスが変わってくるのです。今まで、子供達の、あるいはサラリーマン達のために、何かとビジネスマーケットはありましたが、シニアをターゲットにしたマーケットは、ゼロではないがあまりありません。こういうものを作ることによって、新しいビジネスチャンスが絶対生まれてくる、シニアに特化した新しいビジネスを作ることも一つの面白いテーマだと思います。

皆さん、頑張りましょう。これから新しいシニアの世界の構築のために！

以上であります。

【シニアは新しい世界を拓く】

- シニアは確実に社会の中核的存在
- シニアは新しい社会フレームを作る
今までシニア層に特化した仕組みは社会になかった
- 社会システム、ビジネスが大きく変わる

今こそシニアの新しい世界の構築のために

<質疑応答>

[質問]

ご提案を期待している訳ですが、我々も全然それを分からない。結局、無から有を生じることにはなかなか難しいです。先生、その外国の例とか、どっかの国に、こんな例がありますよ、ということが御座いましたら教えて頂きたいと思います。

[野口 正一氏]

ハイ、これはシニア限定でない例になりますが、さっき幾つかのIT関係の審査員のお話をしたでしょう。あれは実はコミュニティなんです。審査員のコミュニティです。これはシニアだけではなくて、多分40代、50代、60代、70代、の一つのコミュニティ。これが実は力なのです。これから例えば企業の内部統制の問題がありますね、セキュリティの問題ですね、そういうものをサポートする必然として、こういう審査員制度を通してのコミュニティを作っていくのも一つの話なのです。最後にお話をしました、健康・介護・福祉関係の新しい仕掛けを作るのも、これも一つの話です。

[質問]

コミュニティの中で、現在、個人情報保護法があります。いろいろな災害の場合に、高齢者の地域に於ける把握は非常に困難になっています。ちょっと本論から外れるか判ないんですけど、先生は、どの様にお考えで、どのようにあるべきだと思っていられるのでしょうか。

[野口 正一氏]

これは二つに大きく分けると、ビジネスの世界における企業状況の問題と福祉活動等における情

報保護ものとは、は多分、違うと思うのです。企業を対象とした個人情報保護法の問題は色々あります。しかし、地域活動に於ける災害時の問題を含めて個人情報たくさん出てきます。そういうものをきちっとやるような仕掛けは、現在ないのです。それを作らないといけないのです。我々からみると、これはNPOないしコミュニティの重要なファンクションではないかと思えます。そういうものをちゃんと整備して、ある地域がそういうものを標準として提案するようなことが出来れば、大変素晴らしいことじゃないかという気がいたします。是非、そういうものを考えて頂ければありがたいと思えます。現在はありません。

[質問]

お話いただいた「産・官・学」とコミュニティが結び付いた事例が、東北の方にあるか、どうか、お聞きしたいのですが。

[野口 正一氏]

東北の方にはあまりないのです。ただ、さっき言ったマイクロソフト、ビートスイッチというNPOの間には、これは産とコミュニティが繋がった例はあります。日本の今、「産・官・学」の連携を、コミュニティの問題だけでは無いのですが、産業界を含めて成功させなければいけないのだが、殆どうまくいっていないのが実情なのです。日本の場合、これは、一つ大事な問題なのです。



基調講演Ⅱ

高齢社会におけるシニアの新しい生き方 ～ボランティア活動のすすめ～

辻 一郎 氏

東北大学大学院医学系研究科 教授

私のテーマは、どうすれば健康に年を取れるのかということ。こういった場所にお招きいただくことありますが、正直な話、私は、今年 50 になったばかりの、まだ演垂れ小僧です。それが大先輩を前にして、このようにすれば健康に長生きできますなんて、恥ずかしい限りです。

最初に、平均寿命の年次推移というのを見ていきたいと思います。1950 年から

1990 年まで、この 20 世紀後半の平均寿命の推移です。日本、フランス、アメリカ、イギリス、の四カ国で比べてみたいと思います。1950 年当時、日本人の平均寿命、男性は 60 年を若干下回っているから非常に短い、そして女性も 63 年という程度です。今から 50 年前は日本人の平均寿命は先進国の中では最も短かったということに、まずご注意くださいと思います。その後、いまご案内の通り日本人の平均寿命は世界で最も長い訳です。そのようになったのが男性では 1970 年頃からなのです。しかも女性では 1985 年頃からなった話であります。現在、男性の平均寿命は 78 年、女性は 86 年で、世界で最も長いのです。

それでは、これから日本人の平均寿命がどの位、延びるのでしょうか。これは、特定の死因が完全に無くなったとすれば、平均寿命がどのくらい延びるかという形で計算できます。たとえば、がんという病気がなくなったら、日本人の平均寿命がどのくらい延びるかといいますと、男性で 4 年、女性で 3 年です。そんな程度しか延びないのです。

日本人の 3 大死因は、悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患です。この 3 つで毎年 60 万人以上の方が亡くなっております。日本人の死亡原因の約 6 割を占める訳です。この 3 つの病気が全てなくなったとして、男性の平均寿命は 7 年延びるぐらいで、女性では 6 年延びるぐらいです。つまり我々の寿命の延びというものは、ある意味、生物学的な限界に近づきつつある、そういう状況であります。

その一方で、日本人の高齢化が、どんどん進んでいる。現在、65 歳以上の方が日本全国で 2,744 万人おり、人口の 21.5%を占めるということです。高齢者人口が増えると当然ながら認知症の方が増えてきます。

1990 年の段階で日本全国の認知症老人は 100 万人ぐらいだったのですが、これが 10 年後ですと 155



万人、たった10年間で5割増しになりました。そして2010年になりますと225万人、ということで、この20年間で2倍以上に増えてきています。2020年になると約300万人の人が認知症ということです。大変な状況になってくる訳です。

そういった意味で、長生きしたことが本当に良かったのかという議論がよくあります。そういった話が、グリム童話に書かれています。

グリム童話は、日本でいいますと八代将軍吉宗の頃に書かれました。その童話集の中に「寿命」という非常に短いお話があります。人の寿命が延びることは本当に良かったのかということ、グリム兄弟は訴えている訳です。

それを読んでみたいと思います。まず、『神様が世界を創造された後、すべての生き物の寿命を決めることになった。まず、ロバに30年の寿命をあげようと言うと、ロバは「わたしは朝から晩まで重い荷物を運びつづけ、その上、打たれたり、蹴られたりします。30年は長すぎるので減らして下さい」と頼むのです。神様は哀れに思って18年にしてやります。

次に、犬に30年の寿命をあげようすると、犬は「わたしは30年なんて足が続きません。それに吠える声と噛み付く歯もなくなったら、うなって暮らすほかには何の能もなくなります」と答えるので、12年にしてくれるのです。

次は、猿を呼びまして、神様は「お前は犬やロバのように働くこともないし、いつも上機嫌だから、30年でよいのではないかとおっしゃると、猿は「わたしが、いつも陽気に見えるのは、うわべだけのことで、実は大違いなのです。おかしい真似をしたり、へんてこな顔をして人々を笑わせていますが、心の中では悲しんでいるのです。30年は長すぎます」と答えるので、神様は10年にしてくれるのです。

最後に人間がやって来ました。「お前に30年の寿命をあげよう」と神様が言うと人間は「それは短すぎます。それでは家を建て、木を植え、その木に花が咲いて実がなり、これから楽しめるといふときに死ななければなりませんから、もっと長くしてください」と頼むのです。

「それではロバの18年を足してやろう」「足りません」「犬の12年を足してやろう」「まだ、足りません」それではというので猿の10年も足してもらったのです。こんな訳で人間の寿命は、30足す18足す12足す10ということで、70年になりました。

その結果、どうなったかという最初の30年が人間の本当の人生で、体も丈夫で、明るく働き、生きているのが楽しい時期である。しかし、その期間はたちまちのうちに過ぎ去り、次にくるのはロバの18年。つまり31歳から50歳にかけた壮年期であるが、この期間は妻子という重荷をせおってロバのように働きどし、次は犬の12年で人間は老境にかかり、歯もなくなり、片隅にうずくまって、うなっているばかり。その次が猿の10年で、人間は、もう頭の働きも鈍くなり、馬鹿みたいにぼけ、おかしいことをやっては子供達の笑いぐさになるばかりだ』というのは、250年前に言われた話です。

ですから、我々が、いま感じていることは、決して新しいことではなく、常に昔から考えられています。そういった意味で、このグリムが言っていることは、平均寿命の長さも大事であるが、その中でいかに健康に暮らせるかという健康寿命が大事ではないか、ということを行っているのではないのかと思います。この健康寿命という観点にたちますと、私どもの寿命は二つに分けることができます。

これは健康に暮らせる期間（健康寿命）と、そして障害を抱えて介護が必要な期間、この二つに分けることができます。

現在、介護保険では介護予防が重視されています。要するに、寿命の延び以上に、健康寿命を延ばして行って、介護が必要となる時期を出来る限り遅らせること。そして、要介護期間を出来るだけ短縮していく。これが、これからの大きな課題ではないかと思います。

実際問題として、どれくらい我々の健康寿命というのがあるのかということ。これは仙台市で、私どもが調査させて頂いたデータによると、65歳の男性では16.1年の平均余命があります。

女性では 20.4 年の平均余命です。女性の方が 4 年ほど長生きしています。そのうち健康に暮らせる期間、身の回りを自立している期間は、男性 14.7 年、女性 17.7 年。女性で 3 年長い。ところが、濃く書いてある部分つまり介護の必要な期間、これが男性 1.4 年、女性 2.7 年。女性で 2 倍も長いということです。それくらい女性は要介護期間が長い、ということです。

そこで、健康寿命をどうやって延ばすということですが、大きく言って三つあります。色々な病気の予防をする。老化のスピードを遅らせる。三つめは、色々なトレーニングをすることによってレベルを上げることがありますが、今日は老化のスピードを遅らせるということについて詳しくお話したいと思います。

健康長寿の高齢者に共通する特徴ということを、以前私どもが調査させて頂きました。全国の国保中央会の調査です。その当時 3,200 を超える市町村がありました。そこで、あなたの町で 80 代前半でピンピンしている方を一人推薦してください。そしてこの方々に詳細なインタビューを行いました。その結果、三千二百数十人の元気老人の 8 割以上に共通している特徴、それがこの 12 項目です。

食事は一日三回規則正しく食べる、食事よく噛む、お茶を飲む、食物繊維をとる、タバコを吸わない、かかりつけの医者がある、当たり前の話がいくつかあります。

その下を見ると、自立心が強い、気分転換の活動をしている、新聞をよく読む、テレビをよく見る、外出することが多い、と常にアクティブに暮らしている方が多いのです。

元気高齢者ではアクティブに暮らしている方が多い。これは、原因か結果か？ つまり元気だからアクティブに暮らすことができるのか、あるいは、もともとアクティブに暮らしている人だから元気に年を取ることができたのか。恐らく、後者の方が正しいのだろう。アクティブに暮らすことによって健康に年を取ることが出来る、ということが分かっている訳です。

認知症というのは生活習慣病ではないかと言うことがよく言われます。では、どういう生活習慣かと言うと、色んな運動とか趣味とか、どれくらい活発な生活を送っているかと言うことが、認知症の予防になっているというデータが沢山でている訳です。

このデータは、北海道大学の近藤名誉教授が 15 年ほど前に発表された研究です。

どのような研究かと言うと、アルツハイマー型認知症の方に、例えば 100 人集まってもらって、その一人一人について年齢・性が一致するのだけでも、健常知能レベルの方 100 名集めて、そしてその両方の配偶者、連れ合いの方にお聞きするのです。あなたの連れ合いの方は 40 代・50 代どういう生活をしていましたかということ調査したのです。そして両群で差がでたものをこの表では * 印を付けました。1 行目の意識障害を伴う頭部外傷を起している方ではアルツハイマーが増えるということは、教科書的な事実なのです。

特定の長く続けた趣味の欠如 2.72 とありま

健康長寿の高齢者に共通する特徴

- 食事は 1 日 3 回規則正しく食べる
- 食事はよく噛む
- お茶をよく飲む
- 野菜・果物など食物繊維をとる
- タバコを吸わない
- かかりつけの医者がある
- 自立心が強い
- 気分転換のための活動を行っている
- 新聞をよく読む
- テレビをよく見る
- 外出することが多い
- 就寝・起床時間は決まっている

(平成 18 年度国保中央会調査)

中年期の生活習慣と痴呆

生活習慣	オッズ比
意識障害を伴う頭部外傷	3.90*
特定の長く続けた趣味の欠如	2.72*
40歳以降の運動不足	2.65*
休日に運動しない	2.64*
歯の喪失	1.92*
総入れ歯	1.58
低血圧	1.49
過去の喫煙歴	1.15
高血圧	1.11
アルコール歴	1.05
肥満	0.89

* : p<0.05 (近藤・北海道大学名誉教授による)

す。ということかと言いますと、40代50代に何か趣味のあった人に比べて特に趣味の無かった人では、70歳80歳になってからアルツハイマー病の発生率が、なんと2.7倍に増えるというデータです。ですから、中高年の頃に趣味があったことが非常に重要です。次に、40歳代で何か運動習慣のある人に比べて運動不足の方では、70歳80歳になってからアルツハイマー病の発生率が2.6倍に増えます。

休日運動する人に比べて、運動しない人では2.6倍に増えます。つまり運動習慣があるということも、認知症の予防に役立っているのです。次に、歯がない人。40代50代から歯が抜け始めている人、歯周病の人。そういった方はその後、70歳80歳になったらアルツハイマー病になる確率が2倍近く、1.9倍まで上がってきます。

アルツハイマー病になりやすい要因がいくつか判ってきています。その一つが趣味がないとか運動不足とか、そういった不活発な生活というものです。心身ともに、あるいは社会活動を含めて活発に暮らしている方では、その後のアルツハイマー病の発生率が低い、予防できているというデータです。

これはスウェーデンで出されたデータですが、60代の方々2000人くらいで、最初に知能検査をしまして、そこで正常値の人だけに限って、知的活動とか体を動かすとか、社会活動とか創造活動とかをどのくらいやっていますか、その頻度を調べたのです。

各種の活動と認知症発生との関係

活動の種類	相対危険度	活動の種類	相対危険度
知的活動		創造的活動	
なし	1	なし	1
ときどき	0.81	ときどき	0.95
毎日	0.54	毎日	0.58
身体活動		レクリエーション活動	
なし	1	なし	1
ときどき	0.97	ときどき	1.06
毎日	0.41	毎日	0.95
社会活動		ときどき 週1回～年1回の頻度	
なし	1		
ときどき	0.92		
毎日	0.58		

(Scandinavia Projectより)

そしてその後、5年10年追跡してアルツハイマー病の発生率を調べました。例えば、知的活動、本を読むとか日記を書くとか、何かトランプゲームをするとか、そういった知的活動を殆どしない人に比べて毎日している人では、その後5年間10年間追跡してみたら、認知症の発生率がほぼ半減しました。

そして身体活動。60代に運動を殆どしなかった人に比べて殆ど毎日やっている人では、その後5年10年追跡したところ、認知症の発生率が0.4倍。つまり60%減っています。社会活動を殆どしない人に比べて毎日やっている方だと、ほぼ半減しています。創造的な活動は、これも殆ど毎日やっている人で半減しています。ところが、レクリエーション活動、テレビを見たとか、そういった活動ではあまり影響はないというデータです。

そういった意味で、知的なこと、体を動かすこと、社会的なこと、何か一生懸命ものを作って創ったりすること、とにかく何でも良いから活動的に暮らすことが、認知症を予防してくれる。そういったことが、世界的な常識になりつつあります。

東京都の老人総合研究所で、今から20年前に発表したデータです。

認知症になりやすい性格があるというのです。どういう性格かという、これも認知症の方とそうでない方、それぞれ配偶者の方に、聞き取り調査をしました。

あなたの旦那さん、あなたの奥さんは、40代、50代の頃どういう性格の方でしたか、と聞いてみたのです。認知症の高齢者で多く見られた特徴・性格は、頑固、社交的でない、わがまま、整頓癖、おくびょう、人にとけこめない

認知症になりやすい性格特徴(病前性格)

・ 認知症老人群に有意に多く見られた性格特徴		・ 健常老人群に有意に多くみられた性格特徴	
がんこ	黒口	明るい	開放的
社交的でない	ゆうずうがきかない	正義感が強い	積極的
わがまま	気性がほげしい	社交的	確信的
整とん整	野蠻的	行動的	
おくびょう	がまんがたりない		
人にとけこめない	かんしゃくもち		
短気			

(東京老人総合研究所プロジェクト報告より)

い、短気、無口、融通がきかない、などでした。

その一方で健常高齢者に見られる特徴、明るい、正義感が強い、社交的、行動的なことでした。

ここから先は、私の解釈です。性格というものが問題なのかどうか。必ずしも性格のせいではないだろうと私は思います。どういうことかと言うと、この様な性格の方々、例えば社交的ではない、人にとけこめない、閉鎖的な方々は、人との交流が少ない人達です。人との交流が少ない、その結果、社会活動が不活発になっています。その結果として認知症が増えてくるだろう、ということです。出来るだけアクティブに、活動的に暮らすことが非常に大事だということです。

今、アクティブ・エイジングという言葉が盛んに言われています。一言で言いますとアクティブに暮らせば暮らすほどアクティブに年をとることが出来るという意味です。つまり、運動習慣と認知症あるいは運動習慣と要介護の発生率、これは反比例の関係にある。中高年の頃に運動習慣（これは別に激しい運動ではなくて、歩くだけでも結構）のある人達では、70代、80代になってからの認知症の発生率が低いというデータが沢山あります。知的活動、余暇活動、ボランティア、そういったものも認知症を減らし、そして健康寿命を延ばしてくれるということです。先ほどの問題、元気だからアクティブなのか、アクティブだから健康になれたのか、を考えますと、世界中の研究が示すことはアクティブに暮らすことの重要性なのだということです。

私はいつも思うのですが、健康づくりというものは、決して修行のように、ねじり鉢巻をして、何かするようなものではない。むしろ元気高齢者の方々は、基本的な習慣、つまりタバコを吸わないとか、高血圧や糖尿病に気をつけるなどの、基本的なところは抑えています。そこから後は、精神、身体、社会、何でも良いから自分の楽しいことを前向きに楽しんで、非常に活発にアクティブに暮らしている。そういった楽しい生活の結果として、健康というのはまるでご褒美のように後からついてまわる、ということです。

今度は逆に生活が不活発だと、どういうことが起きるかというお話をします。使わないと機能が低下する、それを廃用と言います。

寝たきり実験というものが、1960年代にデンマークで初めて行われました。健康な大学生5人を20日間寝たきりにしたのです。その前後で呼吸機能、心臓の機能を調べました。20日間寝たきりでも呼吸機能は変わらない。ところが、心臓の大きさは、寝たきり前は860ccあったのが、20日間寝たきりだと770cc、つまり一割以上も心臓が小さくなってしまった。心臓が縮んでしまうのです。

心拍出量ですが、心臓が1回収縮することによって全身に送り出す血液の量、その最大力が、なんと30%以上も下がったのです。20日間寝たきりになって弱った心臓の力を元に戻すには、運動しかない。自転車をこいだりするような全身運動をするしかないのです。元に戻るまで、どの位かかるかと言うと、5週間トレーニングしなければならないのです。たった20日間寝たきりになって弱ってしまった心臓の力を元に戻すのに35日間、ほぼ倍近い期間トレーニングしないといけないのです。それくらい、安静というのは大きな害をよびます。

筋肉を全く動かさないと筋力が一日3~6%位ずつ下がっていきます。一月使わないと、筋力は半分以下になるのです。

骨に加重がかかると萎縮する。萎縮するというのは、骨からカルシウムが抜けて行くことです。弱くなっていきます。たった8日間寝たきりになっただけで、骨量（骨密度）は、2割以上も減ってきます。ですから本当に、安静は害です。そこをひとつ強調したいと思います。

ボランティアの話をしていきたいと思います。欧米ではボランティア活動をしている人は長生きするというデータがいっぱい出ています。特に、お年寄りに関するデータです。アメリカのカリフォルニア州で、55歳以上の男女、1972名にアンケート調査をしました。それはタバコ吸いますかとか、身長・体重、そういった健康状態のアンケート調査に加えて、ボランティア活動を何種類くらいやっているか、

ということ調査したのです。その後5年間、その方々がどのくらい生きていて、どのくらい亡くなったか、ということを追跡調査しました。ボランティア活動していない方の死亡率を標準としますと、1つボランティア活動をやっている人の死亡率は0.94倍、つまり6%下がる。ところが、2種類以上のボランティア活動をやっている人では、死亡率が0.56倍、殆ど半分に減るのです。そのくらいの効果がある。

ボランティアの健康影響について色々な本をまとめてみますと、ボランティアすることによって自己効力感（自分の能力に対する自信）、あるいは生活満足度が増してくる。認知症も減ってくる。死亡率も低い。その原因としては、ボランティアをすることによって心身の活動性を高めることが出来る。アクティブなライフスタイルをとることが出来るということです。更にまた、達成感です。何かをやり遂げた、あるいは人の役に立ったという事によって自分自身の価値が高まります。達成感とか、生活満足度、生き甲斐、心の持ち方というのが、実は長生きにも効いてくるのです。

これは、私どもの研究室の大学院生が昨年学会で発表して、割と話題になったデータです。生き甲斐が死亡リスクに相当な影響を及ぼしている、ということです。あなたは生き甲斐を持っていますかとお伺いして、ある、どちらとも言えない、ない、この三つから選んでもらう。そして、この方々を10年追跡調査していくと、生き甲斐があると答えた方と、無いと答えた方では、その後の死亡率がずいぶん違うのです。

全死因と書いてありますが、生き甲斐があると答えた方に比べて無いと答えた方では、死亡率がなんと50%もアップしています。

死亡原因別に言いますと、がんと循環器疾患を比べると、がんは生き甲斐があると答えた人も無いと答えた人も死亡率は、殆ど変わらない。ところが、循環器疾患は、生き甲斐があると答えた人に比べて生き甲斐が無いと答えた人では60%も死亡率が上がる。しかも、心筋梗塞よりも脳血管疾患の死亡率に大きく影響を及ぼしています。

どうして、そういうことが起こるのかということ、まだ詳しいことは解かっていません。ただ、生き甲斐を感じるというポジティブな心理的な状態というのは人間の免疫力にも影響を及ぼしているということも考えられます。

社会的なネットワークについてお話したいと思います。以前、厚生労働省が47都道府県で、65歳の方々の健康寿命というのを計ってみたのです。そうしたら、山梨県は、平均寿命がまあまあ長さですが、健康寿命が日本で一番長いのです。したがって、平均寿命と健康寿命の差、要介護期間が一番短いのです。どうしてなのだろうかということで、山梨県が研究会を作りました。そこで私も招いて頂きまして、山梨県にだけある習慣で他県にない習慣を調べて、それはどういう効果をもっているかを調べてみました。その中で浮かび上がったのは、無尽という習慣です。

ボランティアの健康影響

自己効力感、生活満足度、生活の質
主観的健康度、抑うつ
日常生活動作能力、運動能力
認知機能の維持、認知症発生率の低下
生命予後(死亡率が低い)

心身の活動性・達成感・社会的な刺激などの影響

ボランティアは長生きする

米国カリフォルニア州の55歳以上男女1972名
ボランティア活動の種類、生活習慣・健康状態をアンケート調査
1990年から5年間追跡調査

ボランティア活動	N	死亡リスク(95%信頼区間)
なし	1342 (68%)	1.0 (ref)
1種類	341 (17%)	0.94 (0.70-1.27)
2種類	289 (15%)	0.56 (0.35-0.89)

無尽というのは、古くは鎌倉時代からあった習慣で、無尽講あるいは頼母子講と言われる様な繋がりです。その当時は宗教の繋がりでした、同じ宗教を信じる方が何十人か集まって、月に1回くらい集まったら、お金を出し合って、お金をプールしておくのです。そして、そのメンバーの誰かが、病気などでお金が必要になったら用立ててやる。そういった相互扶助機構です。1年間何もなければ、お伊勢参りとかをする訳です。今は殆ど無くなっていますが、山梨だけは宗教色はなくなりましたが、無尽は今でもあるのです。

無尽とはどういう集まりかと言うと、例えば、小学校・中学校のPTAの親の会などで3月に任期が切れるときに、誰かが提案するんですよ。「とっても良い人達と活動できて、役員会できて嬉しかったです。これでお別れするのは寂しいから、ずっと皆さんとお会いしたいです」と言うんですね。そうすると、「あっ、いいね、いいね。無尽しましょう」と話なのです。まあ、OB会ですね。あるいは少年サッカーの親の会、長男の会、他から来たよそ者の会、若妻会、色んな会があります。そういった、何でも良いから集まりを作る。OB会、オフ会、サークルみたいなものです。クラブです。それが、月に1回集まって色んなことをやったりするのですが、平均的な山梨県民50代60代の方々は、一人で4つか5つ入っているのです。つまり週に1回くらいは地縁・血縁・職縁と全く関係ない人達で集まる訳です。その重層的な社会活動、社会ネットワーク、この参加数が多い人ほど健康力が高いというデータが報告されています。こういった社会活動が、人々の特に高齢者の健康に及ぼす影響が強いことが判ってきた訳です。

ボランティア活動が社会にどういう貢献をしているかということ、深く考えていきますと、いま経済学とか社会学、あるいは我々の学問なんかでもそうですが、世界の最先端で今みんなが注目しているのがソーシャルキャピタルという言葉です。ソーシャルキャピタルを日本語にしますと、社会関係資本という言葉になります。非常に難しい言葉ですが、意味するものは個人間あるいは組織間のネットワーク、人と人の繋がりです。あるいは公共財として、社会全般における信頼感、規範、つまり地域における、ある意味「ご近所の底力」です。

地域のみんなが地域に属しているという帰属意識を持ち、ゴミが捨てられるようなこともなく、みんながみんなのことを知っていて、すれ違おうと挨拶して、ここに暮らしていると良いなあという気持ちを共存する、そういったものがコミュニティにおける信頼規範というものだと思います。

ソーシャルキャピタルが高い地域、要するに、「ご近所の底力」が強い地域では犯罪率が低い。当然です。失業率も低い。高齢者の就業率も高い。鬱とか心臓病が少ない。そして医療費が低い。そういったデータが世界中あちこちで出ています。こういったソーシャルキャピタル、地域づくりと言いますか、人と人の繋がりといったことが、様々な影響を及ぼしている。これからまさにソーシャルキャピタルを高めていかなければならない訳です。ひとつ考えなければいけないのは、日本の高齢社会は、これから大きく変わるということです。

これまでの日本の高齢社会は、主に郡部での出来事でした。ですから経済的に大変だと言いながらも、地縁・血縁などの支えがあり、ソーシャルキャピタルが豊富だったのです。ところがこれからは、都市の老化が始まります。都市では、地縁・血縁はほとんど崩壊しています。町内会活動もかなり厳しい状況です。そういった中で、人と人の繋がりを失った壮大な数の高齢者が、孤立して閉じこもっていく訳です。ですから、そういった中で地域づくり、人と人の繋がりを作っていく、ソーシャルキャピタルを作っていくというボランティア活動が、如何に重要かということです。

ソーシャルキャピタル、人と人のつながり、ご近所の底力、そういったものが機能している県ほど高齢者の就業率が高いのです。また、高齢者の就業率が高いところほど老人医療費は低い。要するに健康だということです。そういった人と人の繋がり、地域づくりを通じて人々の行動の健康を目指そうではないかという事が、今日の一つの大きな結論になります。

最後に、高齢者のイメージが変わりつつあること、高齢社会の進展と共にどんどん高齢者が若返ってきているということについて、最後に一つだけ笑い話をしたいと思います。漫画の話です。

サザエさんのお父さん、波平さん、お年おいくつだと思いますか。54歳です。それは、当時は55歳定年制だからということ。波平さん54歳。いま54歳で漫画の主人公の男性とえば、誰だと思いますか。島耕作です。波平さんと島耕作は、実は同い年なのです。そこがですね、この40年50年において日本人の中老年イメージがこれだけ若返ってきているということの証明となるわけです。

高齢者がどんどん若返ってきている。もっともっとこれからも若返っていくわけです。

そういった若返る高齢者たちが、特にこれから団塊の世代の方々が仲間入りしていきますので、「老い」に関する新しい文化を創っていくのではないかと、そしてまた、健康づくりというのは実はコミュニティづくりだということ、コミュニティづくりを通じて人々は健康になれるということがあります。そしてコミュニティというのは従来の地縁・血縁・職縁だけでなく、知というものを媒体にした人と人とのつながり、新しい知縁です。そういったものが、これからの人間関係づくりでは大きなポイントになるのではないのかな、と思います。

最後に、おまけですが、『定年後のただならぬおじさん』という本が出版されています。足立紀尚さんが書いておられます。多分ご存知だと思います。

最初に、仙台シニアネットの話が出ています。つまり自分が得意な分野が何かという事を再点検することが大事だと。自分の体を使うという活動をしましょう。従来受身で楽しんでいた事について何か挑戦する。例えば、音楽を聴くのが趣味だったという方は、これを機会に楽器を始めるとか、歌い始めるとか、そういったことが大事ではないか。あるいは、一芸を極める。そういった研鑽する場を確保する。要するに、こういった趣味事を通じて社会と関わっていく、やっぱり人は一人では生きていけない、一人で年を取ることはできない。人と人との繋がり、そういったコミュニティとの関係こそが人々の老化のスピードを決める、そして健康寿命を延ばす、そういったことが大事だと思います。

定年後のただならぬおじさん: 足立紀尚

- 自分の得意な分野が何かを再点検すること**
仕事や生活に追われるうちに諦めてしまったことを再開するの一つの考え
- 自分の体を使うこと**
受け身で楽しんでたことに、違った角度から挑戦する
身体を動かすことは心身の健康にも良い
- 一芸を極めること**
ある程度のレベルに達したら、その芸を他人に披露して評価が得られる機会を作る
- 芸を研鑽するための場を確保すること**
同好の士との交友→孤独に陥ることなく、社会性を保つ
- 芸をきっかけに、社会と関わっていく**
自分の技能でボランティア活動→人に喜ばれ自分も喜ぶ

<質疑応答>

[質問者]

姉妹、アルツハイマーの姉さんが88歳か90歳くらい、妹は70数歳です。それで一泊旅行なんかを企画しまして、姉さんは参加したいというのですが、妹の方は、そう状況なんで危ないから連絡しないでくれ、と言うような具体例ですが、こういう場合、アルツハイマーの患者の意思の確認というのですか、それは、どの程度、信頼出来るものなのでしょう。お願いします。

[辻 一郎氏]

解かりました。アルツハイマーになってですね、軽度から重度までいろいろありますので、いちがいに言えないのですが、例えば財産とか、そういったことに係わるような場合は、医師の診断書で能力があるか、どうかということを決めてもらわなければいけません。非常に軽い人、重い人まで、千差万別ですので、それを見極めないといけないということ。これは、財産とか、法的な部分の話ですが、何かの行事に出たいとか、出たくないとかという場合は、特に、出たことで誰かが、法的に困るとい話でもないの、もう少しゆるく考えていただきま

す。アルツハイマーの方あるいは認知症全般ですが、基本的にはそのご本人の意思を全て尊重する。そして、その方がやりたいということをさせてあげることが、ポイントです。

いろんなことで縛ると、かえって興奮し、そういう動きをしますので、出来る限り気ままにさせることです。ですから、やりたければ、させていいのです。個別に、いろいろお伺いしましょう。



特別講演

『宮城県IT推進計画』とシニアへの期待

渡辺 達美 氏

宮城県企画部情報政策課 課長

皆さんこんにちは。私は宮城県情報政策課長の渡辺です。

これから50分間、「宮城県IT推進計画とシニアネットへの期待」というテーマで話をさせていただきます。

私は1959年生まれでまだ50前ですが、僭越ながら話をさせていただきます。今後のパネルディスカッションの参考になればと思っています。

お話する内容は4つです。

一つは「宮城県のすがた」、二つ目は「宮城県のIT推進計画」、三つ目は「これからの地方自治とICT」、四つ目は「シニアネットへの期待」、です。

最初に「宮城県のすがた」を紹介させていただきます。

宮城県の経済ですが、県内総生産額は平成9年から減少傾向にあり、最近10年間は8兆5000億円前後を行ったり来たりしています。第三次産業は横ばいですが、第二次産業が減少しています。平成15年の県内総生産に占める第二次産業の割合は約22%です。全国的な傾向では第二次産業の総生産に占める割合が25%前後の地域はあまり活性化しないで、3割以上の地域が活性化するといわれています。宮城県としても第二次産業の割合をアップしようとしているところです。

平成9年の一人あたり県民所得は280万円超でしたが、平成16年は253万円と1割の減になっています。理由としてはあまり正確に把握しておりませんが、第二次産業の減少と比例しております。

総人口のピークは、平成16年1月で、237万2675人でした。平成28年には、230万人前後に減少する見込みです。年齢階層別人口構成は、平成12年の老年人口（65歳以上）は17.3%ですが、平成42年には28.4%を予測しています。

次にITの状況ですが、ブロードバンドサービス利用可能世帯率は94.2%で、全国では18位です。ブロードバンドインターネット世帯普及率は48.43%で、こちらは全国20位です。普及率に関しては、もっともっと普及させないといけないなと考えています。

宮城県内には36市町村ありますが、そこにはすべてブロードバンドが行っております。しかしながら現在問題になっているのは、同じ市町村内でも光ファイバーとかADSLのサービスが行っているところ行っていないところと地域内の格差がある点です。

ブロードバンドインターネット世帯普及率は48.43%ですが、普及の中身は仙台市に特化している状況です。他の市町村でももっと普及率をアップしないとけないと考えています。



二つ目は宮城県のIT推進計画ですが、最初に宮城県の総合計画があります。宮城の将来ビジョンです。こちらは宮城のあるべき姿や目標を県民と共有し、その着実な実現に向けて県が優先的、重点的に取り組むべき施策を示したもので、今年の3月に策定しました。平成28年までの10年間の計画です。

浅野知事から現在の村井知事に一昨年交代しまして、新しい知事の下に総合計画を作ったということです。宮城県の個々の進むべき方向は、この将来ビジョンに基づいて政策実行してまいります。

次に、IT推進計画はどうかということです。こちらは宮城県IT推進計画ということで、昨年11月に策定しました。平成20年までの3年間の計画です。急速に進展する高度情報通信ネットワーク社会に対応するとともに、「宮城の将来ビジョン」の着実な実行を支える計画になっております。

宮城の将来ビジョンの作成の背景ですが、少子高齢化の進行により県の人口は減少していくという予測に基づいて、生産年齢人口の減少や老年人口の増加により、経済の停滞が懸念されます。一方で地方分権の推進や県などの広域自治体の新たな在り方、こちらは道州制という動きがあります。今後10年以内に大きな動きがあって、県が道州制に移行して行くのではないかと見られています。

市町村合併の進展により宮城県の市町村はほぼ半数になりました。4年前は宮城県の市町村は71ありましたが、現在は36市町村ですから約半分になりました。これからの公共サービスに関しては、市町村が基本的に担う、市町村の範囲を超えた場合は県が担うという考え方は、もっと強くなっていくと思われます。そこで県はどういうサービスをしていくのかということが、問題になってまいります。その内容について宮城の将来ビジョンで明らかにしております。

グローバル化や情報化の進展の影響が顕著でございます。情報化に関しては、いままでの情報、通信の在り方が最近大きく変わったという感じです。一方的な情報提供、マスの情報化からもっと地域双方向的な方向に移っていると考えています。そうすると行政の在り方、地域の在り方が変わっていくのではないかと考えています。

総合計画の目標としては、「生まれてよかった、育ってよかった、住んでよかった」と思える宮城県をつくることです。そこでしっかりとした経済基盤を築き、創出される富の循環によって、福祉や教育、環境、社会資本整備などへの取り組みを着実に推進することです。

富県共創！ 活力とやすらぎの邦づくりー県政運営の基本理念についてお話しします。

村井知事は松下政経塾の出身です。自衛隊を経て県会議員、知事となりました。村井知事は松下政経塾に学んでいるとき、松下幸之助さんの考え方に非常に感銘を受けました。繁栄を通じて平和と幸福という考え方に共鳴しまして、その考え方を県政運営に焼きなおしたというのが「宮城の将来ビジョン」になっています。

富県宮城の実現 ～県内総生産10兆円への挑戦～

10兆円という数字を出したのが特長になっております。この10兆円を達成することによって、富の循環による安心と活力に満ちた地域社会づくり、人と自然が調和した美しく安全な県土づくりが「宮城の将来ビジョン」です。

次に県政運営の基本姿勢についてお話しします。

県はどういう仕事の仕方をしていくのかということです。それには多様な主体との連携・協働体制を構築し、民の力を最大限に生かす衆知を集めた県政を推進していくことです。これからは、行政と県民、NPO、企業との協働によって地域社会を運営していきたい、むしろ運営していかなければいけないと思っています。

宮城県は財政的に非常に苦しいこともあり、今までのように公共サービスを提供できないということで、皆さんのお力が必要というのが本音です。

二つ目のテーマであります「宮城県のIT推進計画」についてお話しします。

計画の位置づけは、ITを取り巻く様々な動きや急速に進展する高度情報通信ネットワーク社会への

対応です。「宮城の将来ビジョン」の着実な実行を支えていくことです。

宮城県のIT推進計画は平成9年あたりから始まりました。インターネットが爆発的に普及したのが平成7、8、9年と認識しております。このインターネットが行政の在り方を変えるということで、平成9年から新しい計画を作り始めまして、ここからだいたい3年ごとに計画を作成して施策を実行してまいりました。

最初はインフラの整備という性格が強かったのですが、だんだん利活用に計画の内容がシフトしてまいりました。現在は利活用を超えて、利活用の先に行政のスタイルを変える、社会の仕組みを変えるという段階かなと考えています

計画の目標の1点目は、「県民のだれもが、いつでも、どこでも、必要な情報を入手・活用し、創造・発信ができる安全・安心な地域社会の創造」です。このなかの「だれもが」は人材の育成、「いつでも、どこでも」は基盤整備、「必要な情報を入手・活用」は仕組みを作っていくことです。

計画目標の2点目は、「IT化による県内産業構造の変革、IT関連産業の集積等による活力豊かな地域経済の実現」です。こちらの方は、ITによって構造改革

していくという趣旨です。IT関連産業を集積して宮城県の地域経済を活性化していこうという内容です。

要約すると、計画目標の一つ目はユキビタスネット社会の実現、二つ目はITによる地域経済の活性化ということになります。

計画の中身は、重点6分野からなっています。「安全・安心な生活環境の実現」、「県民生活に関する情報化の促進」、「ITによる地域経済の活性化と富の創出」、「電子自治体化の推進」、「人材育成の強化」、「県内全域ブロードバンドサービスの実現」です。

このなかで、「安全・安心な生活環境の実現」が、現在、県民の最大の関心事になっています。宮城沖地震が今後10年以内に60%の確率、30年内には99%の確率で発生すると予測されているからです。

各分野について、主な内容を説明します。

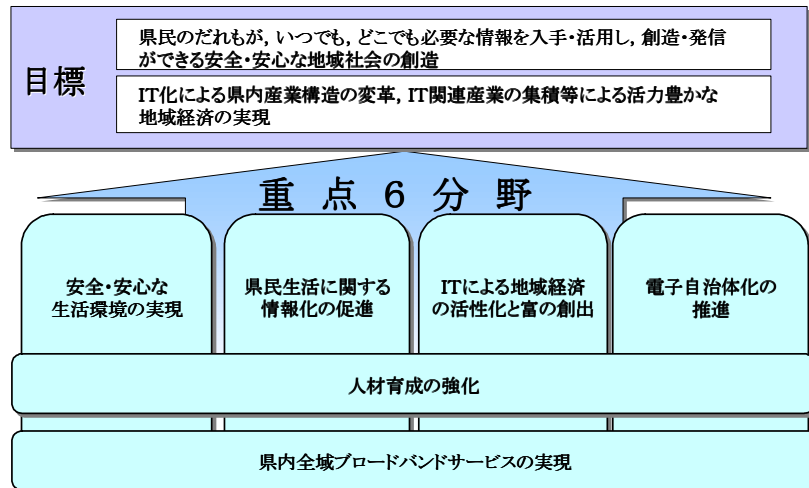
「安全・安心な生活環境の実現」では、津波情報ネットワークの構築がポイントになっています。地震で怖いのは津波です。平成19年度末までに国交省でGPS波浪計を設置していただけていますので、GPS波浪計と接続した津波情報ネットワークを構築する予定です。

もう一つは、災害時外国人サポート・ウェブの構築です。現在、宮城県には外国人は約16,000人おりますが、災害時には携帯電話に防災情報を瞬時に発信するシステムを構築中です。

「県民生活に関する情報化の促進」では、救急医療情報システムの整備です。患者のたらい回しがないように、救急医療情報システムのさらなる整備が課題です。

「ITによる地域経済の活性化と富の創出」については、富県戦略の一環として宮城県として力を入

■ 計画の概要図



Copyright © Miyagi Prefectural Government, 2007. All Rights Reserved.

- 15 -

宮城県

れている分野です。平成18年の宮城県における情報関連産業の生産額は2,100億円ですが、今後3年間で600億円アップの2,700億円にする計画です。このなかで5分野をあげておりますが、ようにするに中央で勝負できるようなIT関連産業を育成、集積したいと考えています。

「電子自治体化の推進」ですが、一つは電子申請の推進です。宮城県では平成17年から電子申請システムの運用を開始しました。実際には利用率が低く、98手続き中13手続きが利用されているのが現状です。8%弱の利用率です。これは全国的な傾向でして、便利なはずなのにまだまだ不便な部分があるというのが状況です。機器操作の準備が大変なことと、添付書類関係が従来どおりなので、電子申請にしても手続きが簡単になっていない点です。何とか考えないといけないなと思っています。

「県内全域ブロードバンドサービスの実現」ですが、2010年までにブロードバンド環境の未整備地域解消に取り組んでいます。これについては、全国の地域にブロードバンド環境を設置するという国家目標があります。これに従って宮城県でも未整備地域の解消に努めていますが、今、残り約5%までになりました。ここからが大変だと思っています。民間の採算ベースでの整備についてはほとんど終わっていますので、ここからは行政が関与してブロードバンドの整備ということですが、課題はお金がないことです。

県内全域ブロードバンドサービスの実現

- ブロードバンド環境の未整備地域解消(～2010)
- 地上デジタルテレビ放送への完全移行(～2011)

等

人材育成の強化

- 情報教育環境の充実
- 県民の情報リテラシーの向上

等

Copyright © Miyagi Prefectural Government, 2007. All Rights Reserved. - 18 -

地上デジタルテレビ放送への完全移行ですが、ご案内のように2011年7月に現在のアナログ放送からデジタル放送へ完全に移行します。難視聴地域が生じるとされていますが、県としては放送事業者と国の責任で何とかやってもらわないといけないと考えていますが、最後にあてにされるのは自治体だろうということで、共同アンテナの整備なども視野に入れております。

次に「人材育成の強化」です。この内容の一つに情報教育環境の充実があります。これは中学校、高校の先生方の情報リテラシーのアップとインフラの整備です。もう一つは、県民の情報リテラシーの向上です。

これからの地方自治とICTについてお話しします。

いま、地域は次のような動きにあると認識しております。一つは地方分権に向けた動きです。市町村合併、三位一体改革、道州制の議論。もう一つは、深刻な財政危機です。宮城県の平成18年度から21年度で約2,260億円の財源不足が見込まれています。宮城県の1年間の財政予算は9,000億円くらいですので、大変な金額です。従いまして、自己決定・自己責任による行・財政運営の確立、真の地方分権型社会の実現、深刻な財政危機の克服、の3点が県と地域が取り組むべき課題になっています。

これからの宮城県の行政スタイルについてお話しします。

大事なものは、多様な主体による開かれた公共サービスの実現です。今後、公共サービスの提供は市町村が主役であるということです。公共サービスは官が独占すべきではない、という点です。かといって、宮城県が逃げるわけではありません。公共サービスは全部、官が提供するよりは、NPO、企業、県民に担ってもらった方が十分なサービスが提供されていくのではないかとということです。

二つ目は、行政は真の政策立案集団へ飛躍することです。三つ目は、行政運営は選択・集中型の事業展開へ転換していくことです。

これからの地方自治はどうあるべきか、について考えてみましょう。

ポイントは「協働」ではないかと考えています。大きく分けると3つあるのではないかと思います。

一つは、民主制の確保、強化です。それは住民の政治参加機会の確保、受益と負担の関係が明確な地方運営に参加することによる住民意識の向上です。現在は代表民主制ということで、市議会議員、町議会議員、県議会議員、が選ばれて政策決定には民意が反映されているということですが、はたしてそこがうまくいっているかということです。

現在の代表民主制を補完する意味で、直接NPOの方、住民の方が政治・政策に参加する機会がもっと必要と考えております。そうすることによって、住民の意識が向上していく、地域の特色を生かした施策の実施ということをございます。行政の独りよがりではだめです。住民の直接的な評価がどこかで必要です。そうすることによって、3番目の地方における内政全般の活性化が図られていくと考えています。

これまでは県の存在が大きくて、県の周りに県民や市町村、NPOがあったというイメージでしたが、これからは各主体と対等・協力の関係になり、県はコーディネーターの役割を果たしていき、皆さんの力を地域で十分発揮してもらわないと地域運営はやっていけないということです。しかしながら、生命財産などに関しては、県が責任をもってやっていけなければならないと思っています。

そこで、地域における情報化はどう考えていくのかということです。

今までは官が主で情報化を進めてきたと認識しておりますが、これからの地域情報化は、地域で住民の方たちが進める情報化がポイントです。こういう手法は、行政が苦手とする分野です。具体的にいうと、住民が情報技術を活用して、積極性を発揮し、プラットフォーム設計やイメージの実体化等によって協働社会を形成するプロセスということになります。プラットフォームは必要です。行政が準備するのではなくて、NPOの方たちが独自でプラットフォームを作っていくと活動がしやすくなって行くと思っています。イメージというのは、こういうことがしたいな、こういうことがあったらいいな、こういうことが問題だなと、皆さんが思っていることです。

次に、情報化による事務の効率化や地域情報の共有という段階に止まらず、協働社会の形成や個人の自己実現による地域課題の解決といったことも加えていくことです。先ほどから協働という言葉を使っていますが、協働の意味を考えてみたいと思います。それぞれの主体性、自主性の共通領域で、お互いの特性を認識しあって尊重しながら、共通の目的を達成するために協力、共同することではないかと考えています。そのなかで個人の自己実現を図っていかなければ意味はありません。

ICTに期待が寄せられる理由について、お話しします。

最近ではITの間にC= Communication を入れた表現が使われています。ICTとは Information and Communication Technology の略で、情報通信技術のことです。

ICTに期待が寄せられる理由について、改めて考えてみますと、利用者同士の双方向でのコミュニケーションが促進され、「多くの人が僅かずつの汗を流して大きな力にする」という集合知の活用にある、と考えています。「双方向」ということと「多くの人が僅かずつの汗を流して大きな力にする」ということは、情報化のすごいところであるし、面白いところと思っています。

ICTの特徴は、誰もが時間と場所を選ばず、低コストで容易にコミュニケーションを行うことができる、また価値を双方向に提供し、共有することができるということです。

■ 行政の姿勢としては

行政に住民を参画させるのではなく、住民とベクトルを合わせられる部分を模索する。行政が地域企業の活動や地域住民のニーズに合わせる

地域住民がイニシアティブを取れるように住民が活躍できる場をつくり、地域内でのコミュニケーションを活性化し住民をアシストする

各地の孤立無援のリーダーを物心両面でサポートする。属人的になりすぎない相互支援のネットワークづくり

行政の姿勢としては、最近では住民参加、県民参加という言葉がはやっていますが、どうもその言葉は胡散臭いです。行政に住民を参画させるのではなくて、住民とベクトルを合わせられる部分を模索していくべきです。行政が地域企業の活動や地域住民のニーズに合わせていくことです。また、地域住民がイニシアティブを取れるように住民が活躍できる場をつくり、地域内でのコミュニケーションを活性化し住民をアシストすることです。

さらに各地の孤立無援のリーダーを物心両面でサポートする。強力なリーダーシップは必要ですが、強力なリーダーシップを発揮しているリーダーは、その半面、孤立無援ではないかと思います。こういう方々を行政としては物心両面でサポートしていく。相互支援のネットワークお手伝いすることによって支援していくことが大事だと考えています。

宮城県のIT推進計画上では、ICT力の向上に関しましては、一つは情報教育環境の充実です。学校の情報教育環境のハード・ソフトの整備です。先生方のITを使った教育力のアップです。二つ目は、県民の情報リテラシーの向上です。ICT講習の実施、ICT技術者の養成、専門的人材の育成、企業活動におけるITの活用促進、などです。

宮城県ではどうしても今、ICT技術者の養成に注目されています。しかしながら、二つ目の県民の情報リテラシーの向上として、行政としては先端的な技術者の養成だけではなくて、格差の是正が行政の役割だと考えています。

県民の情報リテラシーの向上に関しましては、一つはICT講習の実施です。これは市町村の公民館活動を中心として行政としてやっています。二つ目は、情報モラルとセキュリティ意識の醸成です。こちらは仙台シニアネットクラブ様に高度情報化推進協議会から若干助成させていただいて、継続的にセミナーを実施していただいております。三つ目は、みやぎ県民大学の実施です。これは一般県民が対象です。主に高校の教室を使いまして、週末とか夜間に行っています。最近の状況としては仙台市内の開催が少なくなって、仙台市以外での開催が多くなっています。

四つ目は、みやぎ障害者ITサポートセンターの運営です。こちらは障害者の方のスキルアップです。五つ目は、ちゃれんじど情報塾の開催です。こちらは障害児のスキルアップです。六つ目は、みやぎUPプログラムの実施です。これは就労支援です。マイクロソフト様の協力を得て実施しております。最後が母子家庭等就業支援講習会の実施です。経済的に苦境にある方を対象に実施しております。

シニアネットへの期待についてお話しします。

仙台シニアネットクラブ様とは県は共同で事業をやってきました。高度情報通信県みやぎ大島モデル事業—平成10年～12年に気仙沼市の大島で実施しました。こちらはITを使って過疎地域（離島）の活性化を行うモデル事業です。気仙沼市大島小学校にデンコードーさんからパソコンを約20台寄贈していただき、ソフト関係はマイクロソフト様、このソフトを使って仙台シニアネットクラブ様が小学生を対象にはがき作成の講習をやっていただきました。これが大好評で子供たちは大喜びでした。シニアがITを小学生に教える、このことによってシニアと小学生、仙台シニアネットクラブの方々には仙台市に住んでおりますから、仙台市と大島の交流につながりました。これに刺激を受けて、大島小学校ではテレビ会議システムによる他県小学校との遠隔授業、交流に発展しております。

このなかには、いろんな要素があったのではないかと考えています。シニアの方が教育活動を通じて社会参画をしていることです。シニアの方が小学生と交流した世代間の交流があったこと、仙台と大島の交流、地域と学校の交流、仙台シニアネットクラブと宮城県が共同で事業を行ったということです。

宮城県高度情報化推進協議会という、産学官で情報化を推進していこうという協議会があります。こちらと仙台シニアネットクラブ様との関係では普及啓発事業を行っています。パソコンセキュリティセミナーの開催で、協議会から若干の補助させていただいて、迷惑メールの基礎知識と対策について継続

的に実施していただいております。

シニアネットの地域に根ざした活動については、次のような展開が考えるのではないかと考えています。

シニアの方の能力・意欲を地域に根づかせていく仕組みを構築することです。行政にもこの仕組みを作っていく責任と役割はありますが、シニアネットの方々がこの仕組みを作っていくのが良い方向だと思います。

シニアの方々が持っている知識・経験・ノウハウをICTによって、いろいろなグループ、コミュニティが形成され、地域・社会の変革に繋がっていくと思われまます。組織運営の仕方、マーケティングなど今までの経験を地域で活かしていけるのではないかと考えています。

シニア向けIT講習会等IT普及活動については、一つはインターネットの利用状況について政令都市等と町村との格差があり、この解消が急務です。

もう一つは、シニアネット活動の町村地域への拡大に期待していますが、こちらはニューメディア開発協会様が行っているシニア情報生活アドバイザーの存在が大きくなっていくのではないかと考えています。講習をやった後のフォローが大事だと思いますので、シニア情報生活アドバイザーの役割は大きいと思います。宮城県ではシニア情報生活アドバイザー制度には補助とか支援を行っていませんが、この機会に検討したいと考えています。

いろいろ情報を使った場合、まずは発信があるのではないかと考えています。地域にある知識・技能を積極的に皆に見えるように発信していくということが大事です。宮城県の場合でいいますと、登米市のホームページで「市民の元気ブログ」というのを出しています。無農薬などこだわりを持った農産物を生産している人、伝統芸能の継承をしている人などが日々の活動、思いを紹介しています。ブログを使って発信しています。今、世界遺産が話題になっていますが、地域遺産の発信も大事ではないかと考えています。発信から協働に移っていくと思います。

コミュニティ・ビジネスですが、活動によって利益が回るようにして、その利益を次の活動に注入して、活動が継続していく仕組みが大事です。そのためにはSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を通じた人づくり、ネットワークづくりを盛んにやって、コミュニティ・ビジネスに繋げていくのが大事です。

最後にパブリックコメントとパブリック・インボルブメントについてお話しします。片仮名を使いましたが、どちらも住民の方やNPOの方と行政が協働で地域を運営していく方向です。先述のICTを使って、協働の能力が高まっていくのではないかと考えています。

<質疑応答>

[質問]

電子カルテについてご説明をお願いします。電子カルテのメリット、デメリットは。

[渡辺達美氏]

電子カルテというのは、厚生労働省が進めているものです。いろんな診療情報、診察情報を電子化して、電子媒体を使って医療機関、患者さんと共有していくものです。

■シニア向けIT講習等IT普及活動

- ⇒ 政令都市等と町村との格差解消
- ⇒ シニアネット活動の町村地域への拡大に期待
 - ・シニア情報生活アドバイザー

Copyright © Miyagi Prefectural Government, 2007. All Rights Reserved. -44-

パネルディスカッション

シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に

■コーディネーター

吉田 敦也 氏

徳島大学 大学開放実践センター 教授

地域創生センター センター長

NPOいきいきネットとくしま 理事長

■パネリスト(50 音順)

佐藤 和文 氏 河北新報社 メディア局次長兼ネット事業部長

佐野 逸朗 氏 NPO法人いわてシニアネット 理事長

砂川 正男 氏 NPO法人沖縄ハイサイネット 会長

千品 雅彦 氏 NPO法人つれもてネット 南紀熊野 代表理事

山本 浩一郎 氏 NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川 代表理事

■吉田コーディネーター

みなさん、こんにちは、
徳島大学の吉田です。

このパネルディスカッションは、「シニアネットでシニアライフを生き生き楽しく社会を元気に」と、若干の趣旨説明をしますと少子高齢社会、その中で、シニアが主役になってきたと、社会を盛り上げる役割となっており、役割を果たす基盤として大変期待が高まっております。

意欲にあふれたシニアが結集しているシニアネットが、社会を牽引していくことへの期待が大変高まっているということです。東北各地、まあ、今回仙台でこの開催をさせて頂いて、そこにはシニアネット、非常に活発な活動をなさるシニアネットがあって、多数のシニアが活躍をされておられます。

そのようなことを踏まえて、シニアライフを豊かにし、地域を元気にしているその姿を描き出して、これから参加しようとする方々、それから、今現在やっておられる方々が、さらに活発な活動するための一助となればということです。全国から著名シニアネットの代表、関係者がお集まりいただいて、このパネルディスカッションとして色々思いやご経験を語っていただくということです。

どんな話の展開にするかということですが、まず第一点目として、それぞれご自身の係わられた、あるいは、現在係わっているネットに付いて、少しご紹介を頂いて、こういう経緯でシニアネットが出来てきたのだ、あるいは、こんな形でシニアネットが育って活動しているんだよということを、自己紹介を兼ねてお願いします。

それから一巡した後で、シニアネットの役割ということそれぞれネットの中でシニアネットの活動としてどういうことをなさって地域社会の中でどういう役割を果たしているか、あるいは無くてはならない物になっているか、などをお話してください。



3 つ目の課題は、シニアネットが、これから一層に盛り上がって続いていくためにはどういう課題があるのか。あるいはその課題を乗り越えた先にみえているシニアネット、例えば2.0 と今風な言葉を使わせていただくとシニアネット2.0 というのがあるのか無いのか。もし在るとしたら、どういう形が期待され望まれ実現しようとしているのか、その目が出てきているのか、そんな話をちょっとお聞き出来て、最後には皆さんフロワーからのご意見を交えてディスカッションが出来たらこのパネルディスカッションとしての役割が少し果たせるかなあとこういう風に考えております。

●佐藤 和文 氏

私は、今日、河北新報という新聞社の人間としてここに並んだ積もりです。私の NPO とのかかわりも説明しながらでないとは何故私が此処に居るかと非常に意外だと思われるかもしれません。背景を説明致します。仙台には、シニアネットと呼んでいいNPO が二つあります。これは、全国にも自慢して良いのではないのでしょうか。

私は、そのうちの1995年8月に発足した正式名称「シニアのための市民ネットワーク仙台（略称・シニアネット仙台）」の副理事長を2年位前までやっておりました。

新聞報道として、これからは高齢者、シニア世代が主役にならないといけないというキャンペーンを展開したことがあります。「夕陽は沈まない」という、普通に考えれば矛盾したタイトルのキャンペーンに取り組んだ結果、生まれたのが、シニアネット仙台であります。

このシニアネット仙台の取り組み間口が非常に広い。高齢社会を我々で背負っていこうという勢いのあるNPO ですからITだけではなくて、高齢社会に向かうにあたって発生する社会問題の解決のために、シニア世代が積極的な役割を果たしていこうという狙いで出来たNPO です。途中で法人格もとりました。発足から12年になります。

今日の、このイベントの協力団体である仙台シニアネットクラブさんは、シニアネット仙台が当初、郵便局と協力して実現した「シニアのためのパソコン教室」から、卒業生のみなさんが独自に作られました。任意団体として今活動しています。現時点で私が評価するところでは、仙台シニアネットさんは行政との連携が非常にうまい。私の出身母体であるシニアネット仙台はどちらかというと、自分達で、やせ我慢的にやっけて行こうと考える傾向が強かったと思います。

IT に対して非常に高い関心を持っているという意味では共通していません。私は新聞社で仕事をしているほか、NPO 法人「杜の伝言板ゆるる」の副代表理事でもあります。「ゆるる」は、中間支援団体といってボランティア、NPO をサポートするNPO です。宮城県の施設である「みやぎNPO プラザ」が仙台的の榴岡にあります。その指定管理を担当しています。

シニアネット仙台を立ち上げた当時、高齢者は、ある種、社会的に用済みの存在という風に受け止められていました。これは伝統的な日本の高齢者観であります。実際の高齢者は皆元気だし、感性も豊かだ。社会的にいろんなことが出来そうだという共通理解が、シニアネット仙台に参加した大勢の仲間たちとの間に出来ていました。

●佐野 逸朗氏

いわてシニアネットの佐野でございます。

若々しい仙台市長さんのご挨拶を伺いながら、あれ？と考えました。3



月に東京で行われたフォーラムで基調講演したのが前宮城県知事の浅野さんでした。浅野さんも仙台市長さんと同じようなポーズで話されていたのを思い出しました。あの話し方のポーズは宮城方式なんですか～なんて思いながらお話を伺っておりました。

ところで、いわてシニアネットでございますが、皆さんの多くはパソコンを媒体として“この指止まれ方式”に集った仲間ではないかと思いますが、私たちの場合は全く違うスタートでした。

平成12年、県が実施していた高齢者大学の卒業生がそのまま任意団体のいわてシニアネットに生まれ変わったサークルです。当時は300人を超す仲間がおりましたが、半数以上がパソコンを持っていない状態でした。それまでは仲間づくりが大きなテーマのサークルでしたが、いきなりシニアネットに衣替えしたため、活動もどっちに向いていくべきか戸惑いながらのスタートでした。

●砂川 正男氏

沖縄ハイサイネットの砂川です。ハイサイという意味ご存知の方いらっしゃいますか。手を上げてみてください。あ！お一人、二人、沖縄の方言で挨拶こんにちとはとか、例えば吉田先生にはハイサイ吉田さんとかそういう目上の人とか、尊敬できる人とか、そういう親しい呼びかけです。

そういう挨拶ですね、昼夜でもハイサイ吉田さんと言えば吉田先生のことで。歌の中にもハイサイおじさんという有名な歌があります。

沖縄ハイサイネットは2000年7月5日に結成しました。理由は、たまたま沖縄テレワークセンターというのが完成したことです。テレワークセンターの建物の1階部分は市民に使ってもらいたいとなったけれど使う市民がなかなかいない。たまたま私の方がそれでは退職した皆さんを中心にしてパソコン講習会をやったらどうかと言いついで、私が責任もって20人からスタートしました。ですから全くの素人、初心者です。指として自分の名前は、ローマ字でこうですよと教えないといけない。パソコンに触ったことない、キーボードなんて全然知らない、マウスも動かしたこともない、そういう超初心者から始めました。



現在8年目に入りましたけれども、今パソコン教室は18クラス持っています。最近、指導者育成ということで、シニア情報アドバイザーをまず作ろうと那覇市でスタートさせております。

そういうことで全県の市町村にシニアネットを作りたい。シニアネットの素晴らしさを伝えたい、そういうことで頑張っております。ニューメディア開発協会、仙台シニアネットクラブさんにも大変お世話になって、ここまでやって参りました。今までの修了生は、ダブルで初級を2回受ける人、中級を2回受ける人もいますが、8年目でシニアの卒業生は8300人位になっております。そういうことで第1段階はそろそろ終わりが、第2段階に入ろうという風に思っております。

●千品 雅彦氏

和歌山から参りました千品と申します。和歌山、紀伊半島のちょうど中間あたりに田辺市という町があります。熊野古道という世界遺産になっている道がスタートしている町です。その町で「つれもてネット南紀熊野」という団体の活動をしております。ハイサイという方言の事でご説明ありましたけれど「つれもて」と言うのは方言でみんなと一緒にと



言うことで「つれもてネット南紀熊野」という名前を付けております。

私ども最初始めた時はシニアネットというイメージで始めたものでなくて名前にもシニアとは付いてないのです。途中で人を育てる過程でシニア生活情報アドバイザー制度を知り、その関係で集まってこられた方たちが比較的高齢の方が多くて自然とそんな雰囲気になっていったのです。私たちの中では、シニア情報生活アドバイザーでシニアと一緒に学び合えたら言いという感じで、協会の定義の50歳以上の方でないといけないとか、はありません。なにせ過疎地域ですから人が集まらないのです。市の方から3年にわたって支援をして頂いて、現在31の方がシニア情報生活アドバイザーとして活動しております。

このタイトルに団塊の世代のシニアネットとありますが、私自身は団塊世代の1947年生まれです。いくつか悩みを抱えながら、丁度バトンタッチゾーンにいるかなあと思ったり、シニアネットに片足突っ込み、また片足NPO中間支援の所にも、つつこんだりしております、自分の行き先に迷っていると言うような状態です。

●山本 浩一郎氏

「汽笛いっせい新橋を」といって、横浜港が出来てから再来年2009年で150周年を迎えるのです。開港前100港小さな漁村が360万の大都市になっている訳です。それは日本全体がそうなんです。

文明開化以来、非常に人口が、その間に大きくなってきた。それが今、少子高齢化で人口減少に移る、150年で人口減少というのは、ちょっとおかしいのじゃないかと我々思っています。それをシニア力で何とか出来ないかというので一生懸命活動しているところです。横浜市は20万人が団塊の世代といわれています。ですから、この人達と一緒にやっていきたいという風に考えております。

横浜市の課題として大きく2つに分けて我々認識しております。1つは、360万と言いまして、まだ人口は結構延びている地域なのです。しかし中を見ますと延びているところもあるけれど若い人達はどんどん出て行って老人だけがいる様な町が、あちこちに実は出来ており、まだ模様の都市であるという風に見ています。この問題をどうするか、もう1つは、横浜市は事業所が沢山あるのですが、割りあい小さいのです。以外に思うかもしれませんが、大きなところは全部横浜市の外側にずっと取り巻いているのです。東京、相模原、大和市だとかです。ですから小さなところは10万事業所と言われてます。これは、実は減って来ているんです。これも1つの問題だと思い、私達は、この2つの問題を分けて実はやろうと言うことで、そういう人達が2つに分かれて活動しています。

1つは、コミュニティリーグと呼んでおります。これは、地域の問題をやっつけよう。ですから、アドバイザーを60名位養成しました。わずか3年位ですね。10万事業所の方を立ち向かう人たちは、実はこれも色々活動中です。また後ほどお伝えしたいと思います。

■吉田コーディネーター：

今度は具体的にどういうことをなさっているか、その特色、会員の活動の特色とか、会員の中でこんな面白いことをしているよとか、是非これは皆さんに聞いて頂き真似して頂きたい、世話して頂きたいという様な活動状況なり、そのメリットや社会貢献などの



内容、あり方など、ご紹介頂けたらと思います。

●佐藤 和文 氏

95年にシニアネット仙台を立ち上げてから多いときで600人位の会員がいました。今は400人位だと思います。仙台市の一番町という中心街のオフィスビル8階に自前のオフィスをワンフロア借りて、そこが拠点になっております。「サロンわいわい一番町」という名前を付けています。

この拠点ができるまでは、事務所もいろんな所にあつて、歴史を振り返ると私も涙が出そうになる位いろんなことがありました。アメリカにはシニアセンターという施設が全米各地にあります。NPOが運営していて、高齢者が社会的な活動をするための情報と交流の拠点になっております。NPOが活発でないところは、行政がお手伝いしているということもある様です。とにかくシニア世代が社会的にアクティブになれるような環境として全米に存在しています。

取材やNPOの調査でアメリカへ行った時に、全米にあるシニアセンターの仕組みを見て、日本に絶対作らなくてはならないと思いました。わたしが熱に浮かされたように言うもので、周りの仲間が動いてくれて、つうに実現したのが「サロンわいわい一番町」です。

ここはボランティアが交代で運営しています。この種の施設を運営するには人材の確保その他でかなり苦労します。幸いなことにそういう事の意義、つまりNPOなりシニア世代が支える場所を自前で運営するという理念に対して、ご協力いただける方々が現れるおかげで、今日まで活動を継続できています。

シニアネット仙台には、さまざまなテーマの「活動チーム」があり、「サロンわいわい一番町」が重要な活動拠点になります。私自身は新聞社でインターネットの仕事をしていますが、シニアネット仙台の理事という肩書きとは別に、シニアネット仙台の実践の現場でITに関する事をずっとやってきました。「シニアのためのパソコン教室」も多くの方々がボランティアでかかわり、発足直後からずっと続いています。

パソコン教室とは別に、PCやインターネットのスキルを身につけた方々のサロン、話し合える場所を作ろうと呼びかけて「PCサロン」ができました。月2回必ず土曜日に集まってお互いの勉強、研修をやっております。そういうサロン作りにも関わってきました。

そのサロン作りとかシニア世代のシニアのITの活用方法について、サポートする仕組み自体はアメリカのシニアネットさんにだいぶ世話になりました。ある財団の資金を頂いてアメリカのシニアネットとの交流プロジェクトなどもやりました。その一環の交流プロジェクトで、アメリカのシニアリーダーに、日本に来ていただいてフォーラムをやったこともあります。

今現在の活動状況については、明日、副理事長の緑川さんの方から話があると思います。とにかく色々なことをやってきまして、文化的な交流の仕組み、それからちょっと、何だろうと思われるかもしれませんが、高齢者というのは年と共にどうしても内に閉じこもってしまいがちなので、この高齢者を街の中に引き出すためのプログラムを展開しているのがシニアネット仙台です。

プログラムの一つに高齢者の健康マージャンを取り入れて活動しています。これは非常に人気があります。マージャンを楽しむため友達に会いに街に出てくるというライフスタイルを少しずつ実践しているわけです。高齢社会、高齢化問題の解決ぬつながら一つのプランを提案しているということになるのではないかと考えています。

この様に情報とかIT特化型ではなく、NPOとしていろんな活動をしています。それだけに間口が広いものですから、それぞれの活動チームの抱えている問題が、1つ1つ独立したNPOの問題と違って良いと思います。そうしたものを全部組織としてきちっと把握をし、一つのチームとしてNPO法人

として纏めていく力量というのは、企業の相当のスキルを持った人でも簡単ではないと私自身は思っています。

特にボランティアの場合、お互い正直ベースのお付き合いですから、気に食わないことは気に食わない。いろんな目的を持った方々を1つの組織として纏めていくということは、シニアネット仙台の活動が多彩であり、奥の深さとか活動の中身も色々ありますのでそれを一つにまとめる事務局それから理事会は、非常に苦勞しているのではないかなって思っております。

私自身では、10年運営の側でやってきましたが、一旦頭を冷やして高齢化問題とかNPOとかシニアネットとかもう一度見つめたいと思っています。今、普通の会員として、シニアネット仙台に参加しております。シニアネット仙台が抱える問題は、皆様のところと同じようにいろいろです。少しずつでも一つひとつ解決していく意外にありません。

■吉田コーディネーター：

今の話で一つのキーワードは情報ITのスキルアップに特化したものでない、勿論それもするけれども、それぞれが独立的NPO的問題を扱って広く公共的なサービスを展開していると、こういうことじゃないかと私は理解しました。

●佐野 逸朗氏

先ほど300人の所帯だということまでお話ししましたが、平成15年にNPO法人に衣替えいたしました。

この際、半数近くいるパソコンを持っていない方々をどうすべきかいろいろ話し合いの結果、基本的にパソコンを持っている人を会員の条件にしようということになりました。その結果、会員は現在の200人になりました。約30%が女性です。

活動の中心は5年間続いている盛岡市の西部公民館でのパソコン講座です。受講者のレベル、スピードに合わせた指導の講座は大変評判がよく、口コミで周辺町村での講座実施に結びついているようです。

また、都市部のデパートは郊外型大型店の進出で苦戦を強いられております。そこでデパート側に「店内でISNの仲間のパソコンのスキルを生かすことを考えませんか？」と働きかけ、デパートで定期的に「パソコン何でも相談会」を開設しました。

デパート側では市内にある他店舗でも一緒に実施してほしいとのことでしたが、我々の方の講師、サポーター体制の問題もあり、まず一ヶ所で成功させようということで継続しております。

昨年からは、「デパート友の会」の事業として展開させていただいており、友の会の機関紙で募集していただけるため人集めの苦勞がはぶけ助かっております。

この事業も小金持ちの高齢層の集客に役立っているのではないかと考えておりますし、企業にとっても地域貢献活動と位置づけていけるのではないのでしょうか。

一昨年からは、盛岡市内の小学校のパソコンクラブで先生のサポートをしております。

当初、パソコンクラブということで課外授業かと思っておりましたが正規の授業でした。4、5、6年生の総合学習ですが、忙しい先生方の補助として手伝っております。

家に帰った子供たちが「今日、おじいちゃん、おばあちゃんからパソコン習ってきたよ」とお母さんに報告してくれたおかげで、PTA教養部から「私たちにも教えて～」と声がかかり、平日の昼に子供たちのパソコン、ソフトを使ってお母さんたちの講座を設け、はがきづくりなどに挑戦していただきました。

この講座が学校では三世代交流となり、家庭でもお父さんも含め会話促進剤にもなっているようです。

ところがこの人気の授業ただいま中断中です。と申しますのは、担当の先生が転勤になり、後任にうまく引き継がれなかったのが原因です。子供たちやお母さんたちから「なぜ今年はやらないの？」との

声が出ているようですので、来年は再開されると思います。

多くの高齢者サークルの悩みのタネは事務所の確保だろうと思います。数年前、県から「中心市街地の空き店舗を活用しませんか」と話がありました。経産省から補助金が出る事業のようですが、3年間の時限つきです。

「4年目はどうなるんですか？」の問いには答えが返ってきません。こんな役所仕事に付き合っは大変ということで、現在は印刷会社さんのスペースを提供いただいております。

印刷会社さんを活動の拠点にさせていただいていることから、新たな展開が開けてきました。

自費出版している著者を中心に地元著名人を講師に「文化サロン」を実施しております。テーマも地元の歴史や山の草花など多方面にわたり、毎回、4、50人から多い時は100人近い時もあり、いまではISN発の文化事業としてすっかり定着しております。

また今後の事業としては、県庁の入り口にあります「県民室」を有効活用したパソコン講座をやろうと考えております。現在、事務局長とIT事業部会長に県の担当者と検討していただいております、新年度早々には実現できるのではないかと考えております。

ご紹介した事業は、いずれもISNから行政や企業、学校に呼びかけて実現したものです。つまり、こちらから企画、アイデアを提案していくことで、われわれ高齢層の活躍のグラウンドはいくらでもあるのではないかと考えております。

そしてこれらの社会貢献がわれわれの生きがいにも結びついていくのではないかと考えております。

●砂川 正男氏

ハイサイネットは、まずテーマ、キーワードは常に楽しく、ということです。楽しくないと止めよう、難しいことは止めておこう、自分の出来ることからはじめようじゃないかという事です。テーマとして常に楽しくという事を当初から掲げております。活動の柱というのは2本あります。

1つは、先程申し上げたパソコン講習会。これは18クラスと申しましたが、3、4にまたがって展開しております。大体1クラス20人、上級クラスになると15人、アドバイザーコースになると5～10人です。

もう1つの柱が、友好交流です。これは、ハイサイネット内の交流もやりますが、出来るだけ県外の皆さま、それから海外の皆さんとの友好交流です。これまで海外については、まず台北のシニアネット、ソウルのシニアネット、ハワイのシニアネット、今後、いろいろな状況、把握情報をとりながらやりたいと思っているのが上海のシニアネットとの友好交流です。県内外、それから海外と友好交流をやっておりますが、これはすべて自費です。今日この会場に沖縄サイハイネットメンバーは6人参加しております。パソコンを一つのツールとして、手段として、楽しい有意義な交流をどんどん進めていきたいと、そういう風に思っております。

実は、海外交流は、勿論お互いが行ったり来たりするだけでなく、インターネットでも出来ます。たまたま私は、数年前に南米に行った時にブラジルとかボリビアとか、それとかアルゼンチン、ペルーとか行った時に、たまたま沖縄県出身の移民の皆さんがいて、どうしても沖縄に行きたい、「何のために沖縄に帰りたいの」と聞いたら「沖縄のエイサが見たい」とそういうお話でした。

沖縄のエイサご存知ですか？ 全国的にエイサ、大太鼓、小太鼓をもって演舞していますから分かると思います。そういうで、生きている間に1度で良いから本物のエイサを見たい。90歳、95歳、100歳近い皆さんのお話を聞きましてね、お招きする訳にもいかない。そこで、たまたま市の情報を皆さんとお話して「エイサ祭りの中継」をやろうとそういうことで私も行政と一緒にエイサ祭りをインターネットで何とか流せないかとやりました。

そういう交流の仕方もあるということです。沖縄で一番大切にしている言葉が3つあります。

1つは「チムグクル」という言葉です。寛仁と書いてチムククル、心が大切に、心に勝る力はないのだ、心は大切なんだという沖縄の言葉。もう1つは「イチャリバチョーデイ」向き合えば兄弟という言葉があります。これは、ほんとに世界、国内でも結構です。交流やる時にすぐ親しくなります。すぐ打ち解ける、すぐその地域の皆さんと交流ができると向き合えば兄弟ですよという言葉です。もう一つは「ムチドタカ」命こそ宝である、命に勝る宝はない。とくに米軍基地などが沖縄にあって、いろんな問題があります、是非そういう命を大切にしたい。

そういう3つの言葉が有りまして、私共ハイサイネットでも沖縄のそういう大切な言葉を自分たちは身に付けて、それを実践していきたい。パソコンはあくまでも手段、ツールですから、その目的を明確にしていきたい。自分で出来ることは自分でやろう。

私共は、これまで長いこと地域や社会、職場でいろんな友人、知人のお世話になって、健康で定年退職を迎えたのですから、これからは社会や地域に恩返しだと運営は自分たちの力でやりたい、運営に関する補助は受けませんということです。ただ授業に関しては自覚しましょう。汗かいたものについては、その報酬として出しますよ、という考え方です。今パソコン講習会をメインで友好交流を柱にして頑張っておりますが、1クラスに20人クラスだと講師は、1人 サポーターが4人、サブサポーターが5人付きますから、講習会講座には平均して10人ぐらいは、講師、サポーター陣がいます。教えるというよりは、共に学ぼう、仲間としてお互いにいろんな事を提案して共にやっっていこうとそういう姿勢です。

■吉田コーディネーター：

パソコンと言うものが数計算したり文書書いたりするだけでなく、交流という幅を広げてスキルというものが形成されていくべきであるという所に繋がっていくのだろうと、今お話を聞いていて思いました。

●千品 雅彦氏

私が住んでいる和歌山県の田辺市というところは、人口8万5千人位で周辺の市町村を入れても10万人位の地方都市です。ですから、パソコン教室をやって人を集めてインストラクターになって頂戴ねという仕組みは到底出来ない地域です。

今、私ども団体で取り組んでおりますのは、一つは人を育てると言う意味でシニア情報生活アドバイザーです。これは、和歌山県下で私ども団体だけが養成団体という形で人数少ないのですが取り組ませて頂いております。それから二つ目にコンテンツを作らなければいけないということがあります、資格をとっても何か地域にあったコンテンツを作らなくてはいけない。コンテンツづくりについては住民ディレクターという考えを取り入れています。

さらに三つめになりますが出来たコンテンツを発信できる場所がないといけません。これもネットで検索して頂ければ出てくると思いますが、インターネット市民塾という仕組みがございます。その仕組みを利用して作ったコンテンツを発信する。地域情報化の道具という言葉が適切か分かりませんが、私どもは、これらを三点セットで限界集落に出向いて行って、その地域が壊れないようにコミュニティを作ることに取り組んでいます。

シニア情報生活アドバイザー制度の50歳以上の云々は外してシニアの方と一緒にやれる気持ちがある人なら、どんどん皆でやろうよと言う形で取り込んでいます。基本的に私たち団体は地域情報化を進めようとミッションで取り組んでおりまして、小さいながらも、そういうことをやっっていこうとすることでおります。

●山本 浩一郎氏

皆様にお渡しした資料の中に、シニアSOHO横浜・神奈川ニュースが挟み込んであります。1枚のカラー版で、「シニアの地域活動、企業、就労支援を薦めるNPO働く特集」と書いてあります。年4回発行しているニュースです。先程申しましたように大きく分けるとシニアネット型と、市民活動を進めるための活動と産業支援を進めるグループと二つ、実はある訳です。

人数比はだいたい6：4位になっています。これは、名前のとおりもともとシニアSOHO三鷹のメンバーで神奈川県在住の方が神奈川でも作ろうと言って作ったものです。見本的なモデルは、三鷹のものです。各小集団が自分たちの自立的な仕事をどういう風にするか決めて、どんどん仕事を立ち上げていくという形です。

なぜ二つあるかということです。シニアネット型では私どもでは、コミュニティリーグとよんでおります。この中に小集団が幾つかあるのです。市内に4つの教室を持っております。自前の教室2つ、それから他の団体とタイアップしたものが2つ、これは行政の方とそれから商店街、電気屋さんの応接スペースを活用して、ここでパソコン教室や色んなことをやっています。シニアコーディネーター60名です。それからエールカード地域情報化サポーター、これは横浜市は独特で作っておりますライセンスカードというのがあります。認定をうけたらそこに渡す。例えばシティガイド協会、横浜港の案内なんかをする人達です。私どもは、このIT地域支援をする地域情報化サポーターということを請け負って、簡単な一日だけの講習なんです、これでどんどん広げようとしております。

これは、シニアアドバイザーのいわば裾野を広げようとしておまして、IT達者なひとがいる訳ですから活用して吸収するための一つの仕組みを作ろうとしています。そして、ある上級にいけばシニアアドバイザーの方に入って頂く、という様なことを作ろうとしています。まだ4年目の団体ですから、これからそういうことをとり入れて進めていくところです。

もう一つは企業就労支援を進めるグループです。横浜市の経済観光局とタイアップして団塊の世代の就労支援の場を作るという事でこれをやっております。これを横浜市の企業とタイアップしながらこの中で働いてもらうということです。横浜市の物造り企業というのは減ってきております。減ってきているけど残された企業というのは、独特な独自の技術を持っている、強い企業が残っておる。この人達もやはり人不足です。特にキャドは、なかなか人不足で採用は出来ない。私どもは、それを教えて、また、それにお手伝いをする様な形をとっておる、ということであります。

ですから、かなり全方位的な、方向をとって進めようとしているところです。横浜市はボランティア大国、物凄く沢山の団体があります。18の区があるのですが各々区に沢山のボランティア団体があります。そういう所とタイアップしながら、昨年度私共だけでなく横浜市を如何しようか、どういう課題があるのだらうとこれの徹底的な調査をしようという事で横浜市民の郷土未来塾というのを一年間やりました。こんな中で例えば人口問題研究所、国立人口問題研究所の教授を呼んだりし、福祉のプランナーを呼んだり、専門家呼んだり、そうしながら勉強して参りました。そして、どういう方向であるか決めながら進めている所であります。この中で一つ、二つグループがあると言いましたが、なかなか話が合わないところもあります。方向がなかなか一致しないところがあります。

ですからわたしは板挟みで困っている所です。しかし、この二つがあって良かったということが最近起こりました。これは、日本経済新聞にも載ったのですが、経済産業省が全国の学校のパソコン1400台以上にLinuxを搭乗する。オープンソースプロジェクトこれにシニアのNPOも初めて活用すると、四つの会社と一つのNPOを採用するということが発表されました。

これを提案したのは、コミュニティグループです。今てんやわんやなんです。後援に経済産業省と書いてありますが、余り中身を、お話をすると考え直そうと思うと困るんですけど、これは、会社を興す規定ですから、就業規則から賃金規定から全部提出しろ。皆さんの所で賃金規定ございますか、時給い

く、この仕事は時給いくらと全部提出しなければならないのです。これは提出したのですが、大変な話です。就業するときもいわば在宅勤務です。社員が在宅で勤務するのと同じレベルを求められます。今システムを作ってやっております。

普通はタイムスタンプを押すわけです。在宅でやるから、それをどういう風に立証するか、テレワークということです。企業でもテレワークが始まっております。そういう問題、だから今日、宮城県その他、行政の方、どんどん協働でやりなさいとおっしゃっておりますけれど、実態は大変なんです。

私どもがここまで来ると、まさに富士登山ですと5合目以上だなあと、かなり大変青息吐息しながら、実はやっています。余り基盤が固まっていないから、そう言っているのかも知れません。これから大変なところへ入ってきているような気がします。

■吉田コーディネーター：

それで、大体どういう事を日常なさっていてどういう成果が上がっているかということが、概ね皆さんの中で理解がなされ、共通の考え方として持たれたと思います。

今、そういう状況出来てきたことに対して、これからの可能性を一つ教えていただきたい。どういう発展の可能性があるのか、まあ、勿論、話を聞いていてソーシャルキャピタルと云うか、社会の基盤として不可欠な役割を果たしておられるというのが情報化社会とか政府のIT戦略とか考えるともう十分根付いてきたなあと思うのですが、一方で例えば、そういう考え方を継続させていくリーダーを次々生み出していかないと続かないということが一つあると思います。

人材育成とか言う話がさっき出てきたと思うのですが、継続性とかそういう面で、やっぱり、やり繰り大変じゃないかなあと思うのです。もう一つは、そういう継続性を考えた時に、NPOとしてのシニアネットと原点としての楽しいことをやりましょう、仲間づくりに一つの価値を見出しましたという様な成功を事例的ポイントと日本のNPOソーシャルキャピタルとしてのあり方としても少しずつ出てくる所も出てくるんじゃないか、それがシニアSOHO横浜・神奈川さんみたいにツーリーグ制でそれぞれの方向性を歩むと、ほのぼのとした部分と経済構造きちっとして生産に見合った社会貢献的公共的事業サービスをすると言う所と、あると思うのです。

もう一つは、行政との連携とか地域の自治体との連携の話が出てきたのですが、シニアネットが何処までこう積極的にやれるのか。岩手さんが提案型というのがよるしいという様なある種の政策提言していくような事もあるかと思えます。そういう時に例えば中間支援組織という名前が、今どき出てくると思うのですがそういうものにシニアネットはなり得るのか、シニアネットとの間に挟まってそういうものを機能させていくと言うことが起こり得るのか、或いはすでに起こっているのか、そういう話があるんじゃないかと思うんです。そのあたりについて未来と課題という事でお願いします。

●佐藤 和文氏

非常に難しいと思います。私自身はNPOというのは、今、社会的に脚光をあびているのは法人格を持っているNPOです。それはここ10年の話であります。これからの10年を考えると、法人格を持たない任意団体としてのNPOを忘れてはいけないのだろうと思っています。ですからNPOと行政との連携とか、先程県の課長が協働と言うことをおっしゃりましたが、法人格を持ったNPOとだけという話だけでないストーリーをもう一回作っていくべきだと考えています。

シニアネットという社会運動が、今現在どこまで来ているのかという評価する指標がありません。それぞれ自分の胸に手を当てて、自己評価することは出来ますが、それだけでは足りない。シニアネット運動全体の評価と今後の展開を、社会情勢を踏まえながら議論するための指標がほしい。それがあれば議論の出発点になるはずですよ。

残念なことに、それを私は持っておりませんので、ここに来る時に、グーグルのロボットさんと遊んでみました。グーグルの検索エンジンは、キーワードを入れると、ヒットした情報の件数が数字が出るのをご存知ですか。そこにシニアネットと入れてみると、実は、検索結果として39万9千件と出ます。これは、どういう事かと言いますと、ネット上に「シニアネット」という言葉が含まれている情報の件数です。実際に全国のシニアネットの活動が盛んにならないと、ネットの世界にも、その記録は反映されません。この数字を見る限り、シニアネットは、全国各地で活動しており、ネット上でどんどん情報発信していることを感じます。一つの指標になるのではないのでしょうか。

この検索結果の39万9千件がどんな数字かといえば、たとえば「河北新報」というキーワードを含む情報は37万6千件でした。全国のシニアネットの情報発信にわずかに負けているのです。全国のシニアネットはネットの世界でも相当認知されていると言っていると思います。

今後、どうしたら良いかという、情報化、ITを中心にシニアネットを考えるのであれば、一つは、団塊の世代も関心をもつようなある種の専門性を活動の中に取り込んでいく必要があるだろうと思います。我々シニアネットがいろんなパートナーとタイアップしながら出来るかどうか、それをネット上にアピールしていくのが第一歩だと思う。もう一つは、私の出身母体であるシニアネット仙台のように、その関心の領域を広げていく必要はあるのかなのか、ということも重要なポイントになります。

その二つに同時に取り組まないと、多分、皆さまの所もそうだと思いますけれども、団塊の世代が本当に我々のフィールドに入ってくれるかどうかという点で、早晩、相当厳しい状況に向き合うこととなります。これは私の言葉で言うと、シニア世代が自己実現し、デジタル格差と戦っていく必要があるということです。それがシニア世代が中心となるNPOの使命だと思います。NPOのフィールド自体、シニア世代の関心をどんどん広げるように機能することを期待したいのです。

■吉田コーディネーター

関心を広げていくという話が出たので、理解の確認ですが、専門性を活かしていくような論点が必要と言う事ですか。

●佐藤 和文氏

ITサポートなどの分野で専門性を付加していく論点が必要と同時に、我々NPOとして社会的な支持を受けていくために、ITだけでいいかということです。高齢社会というのは、さきほど申し上げましたように非常に複雑な多様な問題を抱えております。そういうことまで入り口を広げていきつつ、いろんな人の関心を集めていくということも、ひょっとしたら方向かなと思います。

■吉田コーディネーター

それは、シニアネット仙台としては、そういう方向性を取っているということですね。

●佐藤 和文氏

最初からそうなのです。NPOを運営するために、組織のマネジメントひとつとっても非常に難しいという現実がありますが、シニアネット仙台は発足当初から高齢社会全体に向き合うのが理念でした。

●佐野 逸朗氏

組織を立ち上げた時には、岩手県立大の小川さんという先生に大変ご尽力をいただきました。その頃に思いをはせると、なにせパソコンの知識のない軍団でしたので大変ご苦勞をいただいたように思い出します。

もともとは高齢者大学をとおした仲間づくりが中心のサークルでしたので、今年、組織替えをしまして再出発したところです。

元々仲間づくり活動が原点ですので柱を「交流部会」と衣替えし、一方ではNPO法人としての財務の問題がでてきましたので、“稼ぐ”部門として「IT事業部会」を設け、二つに大別いたしました。

事務局長は日々財政問題に頭を痛めておりますようですし、IT事業部長も講師体制の整備、思うように育たないサポーター等、それぞれに悩みが絶えないようです。

思うように収入が伸びず、NPO法人として財務基盤を確立することは容易でないようです。NPOという冠が重く頭にのしかかり、重石を載せられたような状況で思い切った活動に踏み切れない部分もあるのではないかと考える時もあります。

うまく事が運ばず、何のための組織だろうと自戒する時もありますが、そんなときは原点を忘れるべきじゃない、楽しくなければ地域貢献もできない～と考え、身の丈にあった活動こそ大切なのかなあと考えたりしております。

一方では、優良企業が豊かな横浜の山本さんの発表のような地域がうらやましくもなります。われわれは身の丈から抜け出すことはできませんが～。

ところで、皆さんの地域でも「少年の船」や「青年の船」、「婦人の船」、「高齢者の船」なんてありませんでしたか？当時、私も講師として乗船させていただきましたが、いまではそのすべてがなくなっております。

県の担当者の言葉は「財政難で～」。そうなんです。悲しいことに行政の事業はカネの切れ目が縁の切れ目なんですね。お役所は事業がなくなっても職員の数は減りません。何も考えないでただジッと冬眠してるんでしょうか。

さきほど紹介させていただきましたISNの事業のすべてが、われわれISNから提案して実現した事業です。

つまり、われわれから積極的に行政に企画やアイデアを提案していくことによって、住民サイドに立った事業も展開できるわけですし、行政もシニアネットの豊かな経験と知恵を活用することによって、大きな金をかけずに政策効果をあげることができるということをもっと知ってほしいと思います。

高齢社会のいまからが、シニアネットが地域活性化の先導役になれる絶好のチャンスじゃないでしょうか。

●砂川 正男氏

シニア情報生活アドバイザーのプレゼイテーションで、おもしろいエピソードが出て来ているので紹介します。今までおじいちゃん、おばあちゃんという事で、隅に追いやられていた。ところがこのパソコンをやってシニア情報生活アドバイザーを受験することになった。それまでは、初級、中級、上級ときたわけで、勉強してきたためにアメリカにいるカナダにいる孫、甥っ子とか姪っ子とかとメールでどんどん写真も添付してこれができるようになったと、本当に楽しくてしょうがない。パソコン講習会に参加してよかった。そういう本当に嬉しくてしょうがない、もう止められない。このシニアネットからやめないで頑張る、楽しいというエピソードが出てくるんです。

私が申し上げたいことは、生活に役立つものであるかどうか、もう一つは、趣味に活かせるかどうか。これは、非常に大切なポイントだと私は思って皆とお話したり勉強したりしています。

将来の展望としては、一人ひとりが、沖縄県内は、まだまだ生活に役立てる、自分の関心に役立てる視点が行政として欠けていると私は思っております。情報関係の条件整備、通信料の低減、そう言うことを、大分政策的にやっていますけれども、実際、県民の生活になっているのか、役立っているのかとなると、そういう指導書があまり見当たらない。そういう指導書育成シニアネットというのは、これから益々生活の役立つ情報として医療とか緊急時の備えとか、いろんな面で絶対必要だと私はそう思っています。

●千品 雅彦氏

先程佐藤さんがおっしゃったと思うのですが、今までの10年って自己実現に挑戦するというような感じの10年で、分かり易い仕組みのシニアネットが作れたのではないかと感じています。私は1947年生まれの団塊世代の真っ只中でして、これからシニアネットに足を踏み入れるのといわれると、自分でまだまだ躊躇しているところです。私たちが、自分たちの団体の中で活動している事で、やってゆけるかなあと思っているのは、先程宮本明子さんという方がホームページの中で紹介していた紀州の金山寺味噌づくりです。自分の家で作っている味噌は、「こうやって作っているんだよ」というコンテンツです。このようなコンテンツを団体のホームページに幾つか挙げていますが、こういう仕掛けや役割を持った人を引っ張り出したら金メダルあげるよ、というような動機付けしていくと気があった人は巧くやってくれるんじゃないかと思えます。私の住む地域性ですが、そういう所から少しずつ団塊の世代の方々に係わっても貰えるように出来たらと思っています。

●山本 浩一郎氏

これは私見ですが、やはり、自然の自給関係で決まってくるんで、こうだこうだとなかなかいえないのだなあと、パソコンを教えることについても一般的にやられていることをまたやってもなかなかお客様は来ないという問題があります。

ですから、これから見つけていかななくてはならない、実はここが重要だという事です。そこが皆さんの心に響くんだと、ここを見つけていくことだと思います。例えば、IT以外でも取り組んだのに、リホームというのがあります。NHKの「おはよう日本」で私どもの団体が紹介されまして6時台の早い時間で紹介されたのです。事務所オープンして9時からじゃんじゃん電話が鳴り出しました。

これはリホームについてでなくて、パソコン講習について放送されたのに、リホームという字がたまたま一字入っていたので、それでもってリホームだけボンボン電話が入ってきたのです。リホームの問題はよっぽど困っているのですね。

そこで、私どももリホームに取り組んだのですが、わずか半年か1年位で続かなくなりました。一つはもともと元手、資材費が必要なのです。そういう問題がクリア出来ない。専門的な技術もいるのです。新しい需要、潜在されている需要をちゃんと見付け出すということは、これは、そういう目で見ないと、これから先続かないんだろうと思っています。

今、先程お話ししたオープンソースを枠の中に入れていくという話を日経産業に出たらあちこちから問い合わせがありました。俺もやりたい、地方のNPOからぜひやりたいんだと。一緒に協力してくれ、という話もありました。東北地方中心に六つの高等学校のサポートする、例えば、福島県立高等学校、福島県立聾学校、などです。わざわざ私どもがやらなければならないかどうかという問題もあるんです。とにかく手を挙げたのですが、これからは、専門的な知識でもってやっていくという手もあると思えます。

私どものオープンソースについては、現役の会社の人たちとタイアップしてやっております。現役の正しい知識を入れないと出来ないのです。そのための工夫もしています。やむを得ないと思えます。だんだん難しくなってくるという感触です。

■吉田コーディネーター

パネルディスカッションの纏めとしては、今お話を聞いていてICTというか、そういう物多様なものを扱うシニアネットである。その幅をもっともっと広げていった方が良いんだと、いうことです。極端に言ってICTを使わない様な人達のケア、そういう人達の活動の支援とかテーマというのを充分取

り入れていくべきだということはあったが、一方、そのものが基盤化していて効率良いネットワーク活動していくことは不可欠であるということですね。

ひょっとしたらシニアネットの第2ステージが見えていてWeb2.0という言葉に対応するような意味でシニアネット2.0なのか分かりませんが地域活動のプラットフォームになっているという事には違いない。

その方向が、横浜シニアSOHO、神奈川さんの言葉を借りるとビジネス的方向と、コミュニティ的方向の二つに分かれるのではないかと。その二つに分かれるといういい方はぴったりくるかどうかは、まだ見えてない所もありますが、いくつかの方向性を持って地域活動のプラットフォーム化をしていく事になるのではないかと思います。NPOかどうかというのは、恐らく私の解釈ではそういう方向性の選び方によってNPOが合理的である場合、そうでない場合も、あり得るかもしれません。

<質疑応答>

[質問]

団塊の世代の人をどう取り込んでいっているのか、あるいはこれから、どういう活動をしたらよいのかという事をお聞きしたいと思います。

[山本 浩一郎氏]

就労支援の相談所を開いております。団塊の世代で就労支援に来る人の声を聞くと、早期退職をせまられて非常にお金に困っている人達です。ですから、ここ2~3年に就労施設を自分達の手でつくり吸収したいと思っていますところ です。

[佐野 逸朗氏]

平成12年発足当時入った方は、かなり高齢になっているもんですから、退会する人が目立っております。一方、新たに入会していただく人も多いのですが、この方々はスキルの高い人が多く助かっております。質問がありました団塊の世代を仲間に取り込むことは大変のような気がします。価値観の多様化した時代の方々ですので、われわれが期待するような形で入会してきていただけないような気がします。われわれの努力が足りないのかもしれませんが、会の高齢化が進むのを心配もしております。

[質問]

シニアネットをオンライン上で研究している団塊世代の一人です。皆様のクラブシニアネットにおけるWeb上の情報、自分達がどんなものを出しているのかと言うのは、必要なことだと思います。この宣伝について、例えばテレビや地方の新聞の活用、またWebサイトは必要ないのか、これについてお聞かせください。

[佐藤 和文氏]

実は、シニアネット仙台のWebサイトは、去年あたりから団塊の世代の方が中心になって頑張っています。アクセシビリティの観点でアクセスしやすいサイトができたと思います。それまでのサイトは、私がボランティアで作り、運営していましたが、古いサイトは「アーカイブ」の形でそっくり残し、全く新しいサイトを作ったのです。

シニアネット仙台のサイトは、現実に行われている活動を確実にアップしています。Webを使ったNPOの広報という意味では、恐らくこの10年相当力を入れてきた事例なのではないかと私自身は思っています。

[砂川 正男氏]

沖縄ハイサイネットは、コンテンツといいますか、ソフトをずっとあるグループにお願いして開発しています。現在もまだ途中ですけど、3年位かかっています。それ以前は、Webサイトは余り重視しなかったの、今、新しいソフトとか新しい仕組みで展開しようとしています。実験中です。

[山本 浩一郎氏]

わたしたちが一番重要視しているのは、シニア情報生活アドバイザーの広報です。これをネットに出す。これが、実は受講された方ほとんどが私どもの会員になるのです。神奈川中の人達が見てやってこられるんです。会員獲得の最重要事項です。



ケーススタディ I

シニアライフを生き生き楽しく

五十嵐 光男 氏

NPO法人会津喜多方シニアネット“きてみっせ” 理事長

ただいまご紹介いただきました喜多方シニアネットの「きてみっせ」の五十嵐です。

今まで先生方のお話をお聞きしまして、私どもが言いたいことお聞きしたいことが総て出揃ったかなという感じです。

先程から方言がでておりましたが会津では「きてみっせ」は方言です。「来て下さい」、あるいは「来て見てください」という意味で常用されております。

最初に私たちが活動しております喜多方は、ご存知の方もおられると思いますが、簡単に説明させていただきます。福島県は東西に長い県であります。その北西部に位置しているのが会津です。その中でも会津の北にあるということで以前は北方と呼ばれておりました。喜多方市は平成18年1月4日 1市2町2村が合併をいたしました。私どもが住んでいるところは中央に阿武隈山脈、西の方には越後山脈、北の方に飯豊山という山があります。山の中に囲まれた盆地です。気候としては大陸型気候です。夏暑く冬寒いということで、四季の移ろいもいろいろあります。

いきなりSLが出てきますが、春になったときの桜の様子です。このSLはずっと以前に宇都宮から米沢駅と言うことで鉄道を通そうという計画がありましたが、現在通っておりません。いろいろ戦後の混乱の中でその計画は挫折してこの機関車が一部走っていたのですが、ごらんのように記念品として残されております。ここ3kmばかり鉄道跡に枝垂桜が咲いており、新しい喜多方の観光名所になるのかなと考えているところです。

雄国沼という沼が、喜多方の東の方にあります。磐梯山系の一つにあります。みほが嶽という山があ

りまして、大昔噴火をいたしました。その火山の跡カルデラであります。そこを訪れる市民の方や多勢のみなさんにここはミニ尾瀬、尾瀬をちいさくしたようなものであろうといわれております。

喜多方というのは雪が降ります。積雪量で約2m積もります。そのためまるで穴倉に入ったような気分で今まで我々は生活していたのですが、喜多方市はいろいろと目覚めましてこれを逆手にとってイベントをやろう今はラーメンフェスタ、またいろんな行事が行われています。

喜多方にはいろいろな産業があります。その中でもごく一部のものとして飯豊山の伏流水を利用した造り酒屋さん、それからおいしい喜多方ラーメンそれを作るもとなるすべて水かなと思っておりま



私たちの活動のまち 喜多方市



す。

どこでも同じだと思うのですが財産を守るため、火災から守るためあるいは収穫したものを貯蔵するという意味で造られた蔵がたくさんあります。最近は観光客も増えています。

このように私たちの生活は暗かったのですが、去年合併して人口が増えました。もとは35,000人合併になりまして56,000人くらいになりました。これは国勢調査平成17年の数字であります。現在は人口がだんだん減りまして53,400人という感じで人口が減少しております。

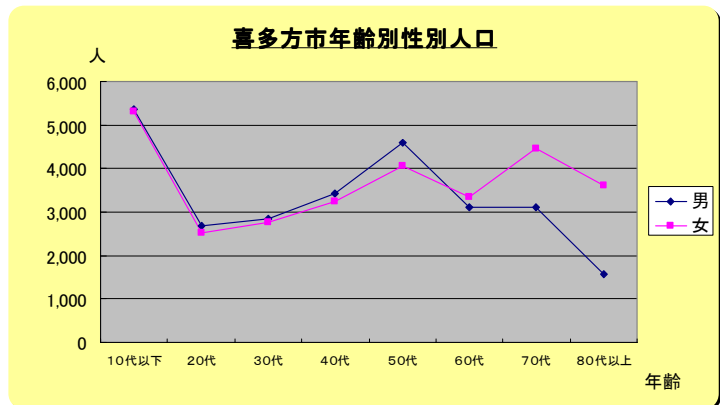
人口の推移を書いたものです。ごらんのように20歳代になりますと人口が流出してまして、本当に寂しくなります。悲しいかなこれはどうしても止められない感じがあります。

我々の生活している喜多方をご紹介いたしましたけれども我々がずっといろいろ経験して育ててまいりました。戦後の急速な経済発展に翻弄されて、貧乏からはじまりましていろいろな贅沢を経験いたしました。

そして高度成長のもとに若い人達はIT産業パソコンだということで簡単に乗り移りましたが、我々はそのことをできなかったのが実情であります。それで何とかしてそれを克服したい、我々が取り残されてしまいます。

ということで、いろんな人が15、6名くらい最初集まりまして、それが最初であります。それは平成12年3月から6月にかけてシルバー人材センター主催市の商工会議所、(株)イー&アイ協力のもとパソコン講習会が開催されました。この時が我々がこういうことになるきっかけであります。この様にしてやってきました。これが終わりました。終わりましたらじゃあどうしようということになりました。折角ここまでやってきたのに、我々ですから習う後から忘れる。10個習って3個覚えたら上等かな、そんな感じでございまして、このままでは何ともならないだろう。じゃあ何とかしようじゃないかということで話がまとまりました。これから何とかしようとなるわけであります。折角一生懸命に勉強したのですからこのままでは忘れてしまう。学べる方法がないのか、学べる場所がないのか、もっと勉強したいのだ。みなさんの声が高くなってきましたということあります。そのときにはじまりましたのが、前に習った方にDMをおくりまして、どうだろうやってみませんか、じゃあやってみましょう。15、6名の方が集まったのですが、まず場所がない、先生もない、困り果てまして、最初にパソコン

寺子屋を立ち上げました。パソコンはいままでみたいがありません。みなさん3人に1台あれば上等ということでやってきました。会員の中に篤志家な、きとくな方がおりました、会場は私が貸そうということで会場をお借りしていました。1年くらい経ちまして突然ある事情でお貸しすることができませんということになってしまって我々も非常に困り果ててしまい、会場はどこにしよう、どれにしよう、散々苦勞しまして、パソコン講習会は買った場所でなされるのが通常であります。ところが会場がないものですから、公民館をお借りして講習会をやりました。畳の上での講習会こんなことも珍しいのかなと考えその当時の苦



「パソコン寺子屋」を設立

平成12年10月
自主的なシニアの声
から寺子屋を設立。

講習会受講の方に
DMを送り会員募集。

パソコンは、持寄り
会場はメンバー提供
の部屋。



労がしのばれます。

喜多方市にも相当立派なパソコン教室があるのです。今はなくなってしまったのですが、市の方に会場を貸してもらえませんか、NTT さんにも話をしました。交渉いたしましたその回答は、個人的な団体には貸せませんということです。考えてみますとこれは確かにそのとおりだと思います。いわゆる得体の知れない団体、個人的な団体に貸すことができない。そんなことでいろいろ思っていました。じゃあ認められる団体になったらいいじゃないかという単純な発想であります。じゃあどうしたらいいのかと考えまして、NPO にしたらどうだろう。今考えますと非常に単純で浅はかなであったかなと考えております。それではどうしたらいいのか、よし NPO にしましょう。総会の席上において提示し NPO に向かうわけです。平成14年9月30日認可を福島県からいただきました。4月16日からこれが素人なものですから、申請書いろんな書式、定款、組織そういったものが作れなくて県庁に何回もお邪魔しました。今考えて思いますと大変だったなとかんがえております。何とか6月の半ばぐらいにはこれで大丈夫かなということで6月30日に正式に申請をいたしました。以来3ヶ月閲覧が必要であるということでもあります。9月30日正式に認可が下りました。10月1日登記にその間1日で登記ができませんので、その前にあらかじめ法務局の方へ相談いたしましたしてどういうふうにしたらいいのでしょうか。法務局としてはただ書類を受け付けるだけなのです。例えば司法書士に相談してちゃんとしてくださいといわれましたけれども、お金はない、何もない、手もない、いろんなことがありまして結局法務局の方におねだりいたしましたして、いろんな書類をめぐり協力してくれました。ようやく9月末でしたかこれまでにいただいたの目途がたって許可がとれるとすぐに登記をかけました。めでたく NPO の誕生になった次第です。

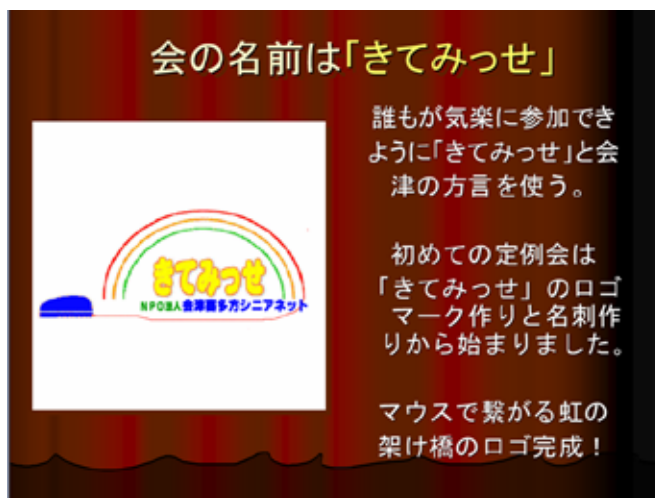
最初にどうしよう。ロゴマークを作ってみようということで作りました。これがロゴマークであります。これは誰もが気楽に参加できるようにということを考えております。これを以ってマウスで繋がる虹の架け橋にしようじゃないかという非常に発想がよかったかと思っています。これは私の考えでなくみなさんの考えでロゴマークはこれでいいだろう、ロゴマークが決定いたしました。

次に、喜多方市の方にもお願いいたしまして、有志の方に仲立ちをしていただき、市長さんはじめお世話になった方々をお招きして祝賀会を目度く行いました。いろんな方と名刺交換しお知り合いになりました。

平成15年それからまもなく喜多方に初めてのシニア生活情報アドバイザーが誕生いたしました。これはニューメディア協会の村岡様、伊藤様にたいへんお世話になりました。私どもがやることになったのは夏7月だったと思いますが、暑い盛りクーラーもない場所大体インターネットが繋がっているところが少なかったので結局隣り町にありました場所をお借りして、クーラーがないため大汗をかきながら勉強をし5名が誕生した思い出に残っています。

それから16年さらに4名の若い新進気鋭の方が試験を受けまして誕生いたしまして合計9名です。先程からお話をお聞きしておりますと何十名というアドバイザーがおられる中で今年は年末までには何とか5、6名のアドバイザーを作ろうと考えております。

学ぶということの一つあげてみました。アドバイザーとなることで定例会を持って木曜日と土曜日だいい1、2、3、4各週行っております。これはいろんな意味で木曜日にそれぞれのコースに合わせた中



で開催しております。

年間的にはどうしても会に参加できない方には短期的な講習を行っています。

講習で使用するパソコンは、頂き物です。使用済みパソコンデスクトップ2台無料で最初いただき次にノートパソコン5台をいただき非常にうれしかったです。持って歩けるわけです。会場が変わったとしてもパソコンを持っていけるので非常にありがたかったなあ、ありがとうございます。

入会者案内書も作成しました。あなたはどのコースに入りますかどれがいいでしょうか、私電源を入れたことがないです。電源が入れたことはあるのですが分かりません。いろんな階層の方がおられます。その方に合わせて入会していただけるように作っています。

一応勉強するばかりではないだろうということでコミュニケーションを図りたいということで遊ぶということをやっています。花見、趣味といういろんな方面でやっています。喜多方は桜が有名であります。花見をやっています。

また、写真撮影会を兼ねましてピクニック。雄国沼というところへ行きました。これがまたひじょうにさわやかな空気でございます。夏はいろいろ高山植物が咲いております。

よその団体様との交流のお話をします。今日ここで行われておりますフォーラム3年前も確かここであったと思いましたが、このとき私はお邪魔

できなかったのですがうちの会員が何名かお邪魔しまして交流会の席上名刺交換などをおこないましていろんな方とお知り合いになりました。その中で白石蔵王シニアネット様との懇談も持たれ、白石市蔵王様から交流会をやってみませんかとメールをいただき、じゃあやりましょうということで交流会を開きました。白石蔵王様から喜多方を訪ねて来てくれました。農家の蔵を改良したラーメン店があります。この中でラーメンを食べながら交流会が行われ、終わりましたから隣の町にあります「ひめさゆり」という珍しい高山植物の群生地を見ていただきました

今度は白石にぜひ来てくださいと誘われました。11月にお邪魔いたしました。非常にお世話になりました。白石城の中で交流会が行ないました。この白石城歴史に富んでおり我が会津とも関わりが深かったとの話を聞いております。特別の思い出がありますのは城の中で行われたお茶会参加して非常によかったと聞いております。帰りは蔵王のお釜を見せてもらったのですが天気にも恵まれ非常にきれいな釜をみることができ今でも忘れることができません。

翌18年になりましてシニアネット東京様からも同じようなお誘いがありました。臼倉登貴雄先生がおられまして、その先生が時々喜多方にお出でになるものですからじゃあ旅行のときは喜多方に行ってみようという話がありまして快くお受けいたしました。シニアネット東京様との交流会もなされています。

先程と同じように今度東京へも誘われまして交流会の前に講習会をやりました。アニメーションの講習会を受講いたしました。私なんか頭悪いほうなので覚えきれなくて帰って来ましたが、講習会を受け一同感激したそういう思い出がございます。

これから我々も折角資格をとらしてもらったのでございますので、何か地元に戻元できないものか、みなさんがそれぞれに話をし、意見を聞いたりした中で講習会を開いてみよう。そういう風になってきました。最初に高齢者生産活動センターが喜多方にあります。いわゆる退職された方々が自分の趣味を生かしたいということで、この生産活動センターの中でいろいろ勉強されているいろんなクラブがあり



ます。盆栽、陶芸いろんな方がいます。その方々に話をかけましたらパソコンをやってみませんか、まあいいでしょう。パソコン教室を開きました。これは私どもも骨を折りまして、さすがいろいろやってくれる方なので覚えもよく、上手でスムーズに講習会ができたこと記憶しております。

こんなことも協力いたしました。市役所から依頼を受けまして市役所の職員の中でも若い方は勿論問題なくできることの話だったのですが、年配の方はパソコンを習うということができませんか、お金はないですよ。まあいいでしょう。こういう立派な方を相手にしまして週3回2時間やりました。これは2回だったか繰り返した記憶があります。ですが市の職員だけありまして、我々がいう Word、Excel だけではありません。かなり高度な内容を勉強していただいたと思っております。

「企業家精神を育成する教育」これは商業高校において前回もなされている生徒のみなさんがいろんな企業に出向きまして実際に社会を経験、体験してみようというような商業学校の方針がありまして、私どもに相談がありましたのは、この子供達はパソコンを勉強しています、お宅へ伺わせてくれませんか、それをちょっと使ってみてください。そういう話がありましたので4月から今11月最後には2月に向けて発表するまでいろんなことをやっております。この商業学校の生徒は我々の試験的を対象にホームページを作ろうとしています。我々もどのようにしたらよくできるのか、私だったらこういうふうにしたいです。こういうふうにしたらいいのはいうことを提案してくれる予定であります。

こんなことがありました。平成15年5月喜多方市役所から依頼を受けまして、喜多方市の観光に関するホームページが沢山あります。商工会議所、町の観光課いろいろあります。これとは違った意味一つ作ってくれないかと話がありまして、これは総務省お金をいただいて、市のほうではじゃあ家のほうでやってみないかから始まった事なのですが16年1月30日に何とかしてくれとこれから始まるわけです。我々がプロデュース、取材、写真加工、ビデオ編集、地元企業であるイーアンドアイサーバー管理、CGI、デザインをやっていただき、市のほうでは総体的に契約をしていただいた。三者一体となって「まるごと体験喜多方」というホームページが3月31日頃には出来上がって市のほうにお渡しするというところでございます。

これはこのときにホームページを作るために我々がみんなで打合せしながらホームページを作るという方向で取材しました一環であります。

隣町の大和町のところで秋祭り。そば寿司の挑戦。去年は子供達とお母さんが一緒に作りまして長さが31mくらい長いそば寿司が出来、今年は32mぐらいに挑戦しようとしてやりました実際に出来たのが32.4m出来上がったときにはさすがに凄いなと思った経緯があります。

さきほどからいろいろ話をしておったのですが、私がこれからみなさんに聞いて欲しいなと考えることは今までの話の中で出てきていると思います。今更ながら我々みたいなものが申し上げるまでもないでしょうと思っているのですが。

我々も6年目を迎えてやはり一つの転換期であろうそんなふうに思っています。これからどのような方向性を見つけていけるか、パソコンの進化に伴う機材の充実、私どもはまだMEで頑張っています。それではもうこれからはもう対応できない。そういったものに対する問題がございます。そして我々のように情報社会化の弱者喜多方は53000人おります。我々は会員25名卒業された方も50名おりますが、そういった中でどのように対処していったらいいのか、今までの先生方の話の中で出てきたかなと私は考えており悩んでいます。先程のように本当に地域の中で役に立つのはどういうことなのだろう。これから我々は真剣に模索していきたい。今日ここにお邪魔したのは生きた方向性を見つけて帰ろう。先程からみなさん先生方の話を聞かせていただきました。そんなところでつまらないところではございますが発表にかえさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

ケーススタディ I

シニアライフを生き生き楽しく

齊藤 正五 氏

シニアパソコンアドバイザーネット 会長

ただ今ご紹介いただいたシニアアドバイザーネットの齊藤でございます。

私はプロフィールに書いておりますけれども宮城県生まれです。ただ仙台市ではなく古川市の生まれです。古川に生まれたといっても、生まれてまもなく北海道に渡った訳ですからほとんど北海道、道産子と言うことになります。それにしても故郷に戻ったような気がして何かワクワクしているところでございます。この度は、私どもの拙い活動にもかかわらず、このような発表の機会を与您いただき誠に有難うございます。

すばらしい活動をされておられる皆さんにとって、参考になるかどうか判りませんが、与えられた時間お話をさせていただきます。

まず私どもの団体であります、シニアパソコンアドバイザーネット（略称 SPAN）の発足経緯であります。平成15年10月、この会場にも来ておられる、厚別東パソコンクラブの佐藤克也さんから、「ニューメディア開発協会が進めている‘シニア情報生活アドバイザー’の資格の養成団体を立ち上げないか」との提案がありました。

私もこのことには、即座に賛同いたしまして、アドバイザー仲間数名と共に、札幌で唯一の養成講座実施団体「札幌SILAクラブ」を発足しました。

その後、ニューメディア開発協会に対して養成講座実施団体として申請作業を行い、同年12月認可されました。

その後、養成講座の実施が進むにつれ、会員として「シニア情報生活アドバイザー」の資格取得者が20名を超えるようになりました。

そこで養成講座だけでなく、地域でのサポート活動など、新たな活動を目指し、平成17年1月、名称を現在の「シニアパソコンアドバイザーネット（略称 SPAN）」に変更し現在に至った次第であります。このシニアパソコンアドバイザーネット名称の意味であります。31名の会員が全員「シニア情報生活アドバイザー」資格所持者であることと、会員それぞれがその地域でのシニアに対するパソコン活用のアドバイザーであり、それらが連携しながらアドバイザー網（ネット）として機能しながら発展して行きたい・・・との願いから「シニアパソコンアドバイザーネット（略称 SPAN）」と名づけました。

活動の項目としては次の4項目に分けることが出来ます。

- ①養成講座⇒6回開講、27名養成（現在7回目開講、3名養成中）
- ②会員のスキルアップ勉強会（パソコンサロン）⇒6回／年、会員が交代で得意分野の講師を担当。会員の貴重なコミュニケーションの場としても定着しています。
- ③会員による、地域パソコン教室での指導ボランティア



④個人宅への訪問サポート

以上であります。まず①の養成講座についてですが、その内容については、既に皆様がおやりになっていることから、特にお話することはありませんが、その推進上、私どもが腐心していることとして、受講者の募集であります。

団体発足時にはそれを機に、団体発足をPRしようと、北海道において一番読まれている「北海道新聞」を訪れ記事にさせていただくことをお願いしました。

その結果、平成16年1月18日の札幌版に札幌SILAクラブ発足記事を掲載して貰うことが出来ました。さすがにその効果は即表れ、1回8名の募集に対して3回目までの予約を受ける状態でした。

このことから、こういう資格に対するニーズは潜在的には多くあることを痛感させられました。

しかし、何らかの募集広告・宣伝をしない限りその需要を掘り起こすことは難しいことも分かりました。

もともと私どもの団体には、募集広告に使う財源もありませんので、試行錯誤を重ね、現在は購読数10万部ほどの地域紙への募集広告のみで、2~3名の応募を受けながら実施している現状であります。

従いまして、この養成講座においては、多額の募集広告費が使えない状態の中にあって、日頃パソコン活動で接触している人の中から受講者を募ることも大切ですが、更に当資格への潜在需要をいかに掘りあげるかも大事であり、今後の課題になっていくものと思います。

②パソコンサロンについて

私たち「シニア情報生活アドバイザー」は、一口で言えば、シニアの方たちにパソコンを活用して、楽しんでもらうことを願って活動しています。

したがって、「シニア情報生活アドバイザー」であります私たち自身も、パソコンを活用して、楽しむことが大事だと考えております。

そのことから、名称も敢えて勉強会のイメージを無くし「パソコンサロン」としてあります。

開催は、2ヶ月に1回（2月、4月、6月、8月、10月、12月の年6回）定期開催しております。

ただ、12月は時節柄、忘年会を行っております。

会場は、白石区にあります、札幌市が運営する「札幌市市民情報センター」を使い、各自が自分のパソコンを持ち寄ったり、会場のパソコンを使い、回毎に会員がそれぞれ得意のテーマを取り上げ、交代で講師を務めたあと、自由懇談として、情報交換、トラブル相談などで会員同志が楽しく語り合う場として役立てております。

今まで取り上げたテーマの1例としては、ホームページやブログの作成、Vistaについて、IE7を使う、フリーソフトの利用、フォトストーリー3、リモートアシスタント、Photoshop Elements、動画の作

シニアパソコンアドバイザーネット (SPAN)の活動①

養成講座⇒6回開講、27名養成（現在7回目開講、3名養成中）



SPANの活動②

会員のスキルアップ勉強会（パソコンサロン）⇒6回/年、会員が交代で得意分野の講師を担当。



「高齢者パソコン教室」の様子



成など出来るだけ皆が楽しめるものを選んで実施しています。

今後も、会員同志のコミュニケーションの大切な場として、続けていきたいと思っております。

次に③の地域パソコン教室での指導ボランティアについて報告致します。

私が住んでるところは「もみじ台団地」と言いまして、札幌の東端に位置し、札幌の副都心として開発された「新札幌」を中心として、多くの市営高層アパートやマンション、個人住宅が並ぶ広大なベッドタウンです。

現在、この地域では、若い世代は就職、結婚などで地域を去るため、極度の高齢化が進んでおります。人口が18500人ですが、そのうち4000人くらいが65歳以上を占めております。

地元自治体としても、高齢化した地域をいかに活性化するかいろいろ腐心をしているところであります。

その中であって、高齢者が自らの生活の中に、パソコンを楽しく取り入れ豊かな生活を送ると共に高齢者同志がパソコンを通じて交流の輪を広げることも活性化の一つになるものと考えます。

私たちの活動が、それらのことを促進する一助になることを願って、地域のパソコン教室での指導ボランティアを行っております。

この教室の発足であります・・・

平成15年、その「もみじ台団地」の「町づくりセンター」（一般に区役所の出先連絡所と言われている）が、地域の企業から使用済みパソコン（Windows 95）を寄贈されました。

これを何かに利用出来ないかと考えたのが「高齢者パソコン教室」です。

そして現在、地元の社会福祉協議会主催として運営されております。

始めた当時は、講師として私の他に、社会福祉協議会が呼びかけた地域のパソコン経験者（無資格者）により活動しておりましたが、その後SPANで実施している「シニア情報生活アドバイザー」の養成講座からの資格取得者輩出に伴い、それらの人たちも次々とサポート講師に加わりました。

その後、指導に参加しておりました地域のパソコン経験者（無資格者）の方たちは、高齢化などを理由に徐々に辞めて行かれました。

ただ一部には「パソコンが出来る」だけで参加したものの指導すると言う経験や知識が無いため適切な指導が出来ず、時には受講者とトラブルになることもあり辞めたケースもありました。

この様なことを鑑みます時、現在私どもが進めてる「シニア情報生活アドバイザー」の養成講座の中で学ぶ、講師やサポートのやり方がいかに大切なことが分かります。

そのようなことから現在は指導技術を身につけた「シニア情報生活アドバイザー」資格者が7人中5人を占めるに至りました。

この「高齢者パソコン教室」は当初は毎週火曜日と木曜日に初心者各15名づつで3ヶ月（各曜日11回）を1期として、年間4コースを行って来ました。

内容は「マウスの使い方、ワードによる文字入力、エクセル、電子メール、ホームページの閲覧」などです。

平成16年になりまして、交代した町づくりセンター所長がこの教室には大変理解を示していただき、私達の提案により、ビデオプロジェクターを始めLAN構築用品、パソコン保存棚など次々購入していただきました。

また更に所長の意向により新たに中級コースを設けることになりました。

中級コースでは、パソコンを応用して出来ることの中で比較的人気のある「デジタルカメラの扱い方と、撮影した画像を利用して画像修正・加工、ホームページ作成、ブログの作成」などを取り上げております。

画像などを扱うとなると現用のWindows 95では力不足ということになり、Windows XPを10台と中級

コースに必要な各種ソフト、講習用消耗品（CD-RW、印刷用品など）も購入していただきました。このような、主催者側の理解と行動を引き出すためにも、やはり日頃関わっている我々ボランティアの役割としてのアプローチなどが必要ではないかと思っている次第です。

このような経過を踏み現在は、毎週火曜日は初級コースとして10名、木曜日は中級コースとして10名を対象に3ヶ月11回を一期として開講しています。

受講者は、現在まで延べ432名が受講しており、初級コースでは、募集都度2～3倍の応募があり毎回抽選をしている状態です。

中級コースの方は、パソコンの基本操作が出来る方とデジカメに興味がある方のみ限定しているため、ほぼ10名以内に納まっています。

各コース共最終日には、アンケートを書いていただき、1時間ほど懇談会を行っています。

この懇談会では、講習を受けた感想と今後のパソコン利用の抱負を語っていただいております。

その1例として

1. このあと孫とのメールが楽しみ。
2. デジカメとパソコンを楽しみたい。
3. 子供が置いていったPCだが、何とか使えるようになった。
4. 子供から教わろうとしても喧嘩になるが、ここでは親切に教えてもらった。
5. 有料のパソコン教室に20万円かけても覚えられなかったことが、無料なのにこの教室で理解出来た。・・・など私たちとして大変嬉しいお話をいただいております。

なお、懇談会では、何時の頃からか受講者から講師陣への感謝を込めて、受講者が自主的に費用を出し合い、飲み物やつまみなどが用意されるようになり、更に和やかな懇談会として定着しております。

その他にこのパソコン教室では、卒業された受講者のアフターフォローとして、教室開催日には別に、月2回（第1、2週の火曜日10：00～12：00）「パソコンサポートルーム」を開いており「パソコン何でも相談」を受けております。

ここでは、現在各自がPCを使ってやっていること（例：年賀状の作成、趣味グループの案内状作成、名簿作成など）について、自分のPCを使い、サポートを受けながら作成を行っております。

また、PCの不調に対するアドバイスも行っており、時には相談のため大きなデスクトップPCを持ち込む方もおります。

この「サポートルーム」も毎回好評で、時には10名の席が足りなくなることもあります。

また、受講者には、講師陣の名簿をお渡ししており、後日メールや電話、あるいは受講者宅への訪問のサポート依頼もあります。

以上が「地域パソコン教室での指導ボランティア」の状況でありまして、今では地域の活動としてすっかり定着しており、住民に広く知られることとなっております。

次に活動④の「訪問サポート」について報告致します。

当「シニアパソコンアドバイザーネット」の「シニア情報生活アドバイザー」養成講座で次々資格者が誕生するにつれ、新年会、忘年会、役員会など集まる機会がありますが、その席で話題になるのは、それぞれ地域での活動と共に出てくる意見として「折角取った資格を生かす場が少ない」とのことでした。しかし、実態としては、その他の地域でも先ほどの教室のように抽選をするくらい、パソコンを覚えたいシニアの方は潜在的には大変多いものと考えます。

そこで、サポート活動の中で比較的簡単に活動できそうな「訪問サポート」を進めてはどうかと考えました。

そのためにはまず潜在している要望を掘り出すためのPR活動が必要です。

現在のところは次の方法によっています。

- ①札幌市市民活動サポートセンターに登録、同ホームページに掲載。
 - ②厚別区の市民活動団体紹介誌「あつべつ街ネット」に登録掲載（毎年1回発行）。
 - ③広報誌（広報さっぽろ 厚別区版 2006年6月）による団体紹介
- その結果、逐次サポート依頼があり、平成18年6月～平成19年9月までの間延べ22回実施致しました。

実施方法としては・・・

1回のサポート時間は、パソコンのトラブルの場合でも、大体2時間あれば解決又は解決方法が明確になると思われるので1回2時間までとしております。

ワードを覚えたい、ホームページを作りたいなど長時間必要の場合は、本人が目標どおり習得出来るまで何回でも訪問しております。

なお、金銭面では基本的にはボランティア活動ですので無料ですが、交通費など活動の実費として、1回それぞれ対応者と同じ区内は1000円、市内の他の区は2000円をいただいております。

対応は、依頼者の最寄の会員、又は内容に対して得意とする会員が対応するようにしています。

この活動は今のところ実験的に手探り状態で行っておりますが、PR方法を工夫するなど、ノウハウを積み重ねながら徐々に実施地域を広げて行きたいと思っております。

以上私どものシニアパソコンアドバイザーネットの活動の一端を述べさせていただきました。

今後も皆様のご指導をいただきながら、研鑽努力をして行きたいと思っております。

ご清聴有難うございました。

ケーススタディⅡ

シニアの想いを様々な形で実現

① シニアネットはIT普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています

塩見 信雄 氏

NPO法人シニアネットひろしま 理事長

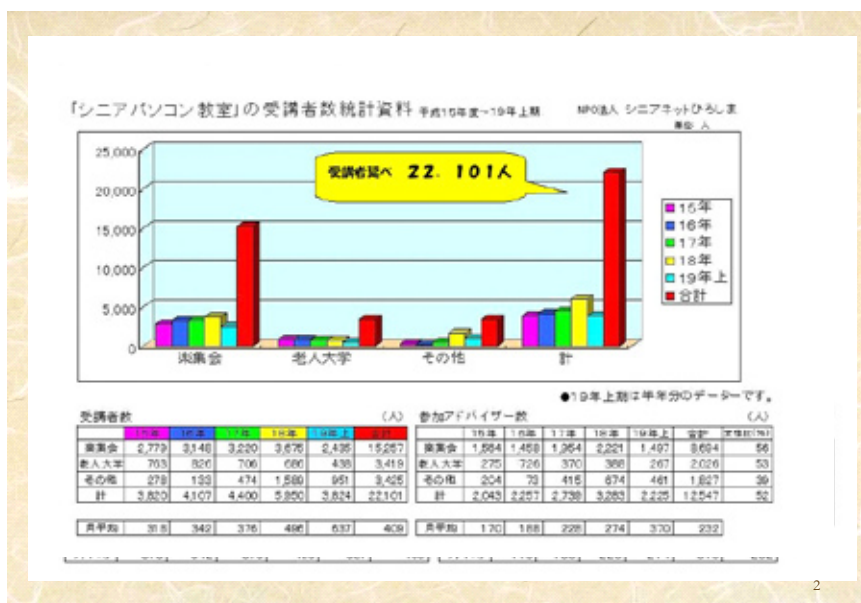
おはようございます。

私は広島からやって参りましたシニアネットひろしまの塩見と申します。

「シニアネットはIT普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています」という表題が私に与えられたテーマです。私は介護保険の関係の仕事をしています。シニアにパソコンを教えたり、シニアの方と一緒に行動するという事は、シニアの方が元気で無いとこんな事は出来ませんよ！病気をして寝ていらっしやるとパソコンどころではありません。私の願いは、シニアが病気にならないように如何にしてその情報を、皆さんに教えていただけるか、取っていただけるか、収集していただけるか、こう言うことは凄く大事な事じゃないかと思うんです。パソコンの技術があることも確かに大事なことです。現在 70 億と言われるデータの中から健康に関する情報を取っていただくことも大事です。



私たちがシニアの方々と一緒にパソコンの勉強を始めて、9月末現在で広島市を中心とした近郊の都市の受講者の方が、22,101名となりました。これは凄い数ですが、この22,101名の中には初級それから上級というようにステップアップ、応用班、ホームページ班とかいろいろ作っているのですが、ステップアップした人間も入っているの、実際にパソコン教室を習っている人という、大体1万5～6千人です。だけど、受講者の数としては22,101人これです。



これに対して、シニア生活情報アドバイザーの資格を持った人達は我々のグループには現在142名おります。この人達がこの22,000人に対して、お手伝いをしているということです。だいたい平均しますと1.6人に1人の割合でアドバイザーがお手伝いをする、アシストするということです。

私のところでは、「アドバイザーの社会的認知を保証するため」19年6月、今年の6月にニューメディア開発協会にお願いしまして認定証に「公益法人認定」ということを記載していただきました。皆さんお持ちのアドバイザー認定証の左上に「公益法人認定」の6文字を赤字で書いていただくことにしました。

ニューメディア開発協会の方のご努力には深甚の敬意を払うのですが、これは何のためにこの「公益法人」を作ったかということです。公益法人というのはもともと、NPOも公益法人ですが、税金が免除されております。我々も公益法人ですが、ニューメディア開発協会も財団ですから、勿論公益法人です。公益法人で私達の本当の願いは「経産省認定」くらいが一番良かったんですが…。

何故こういうことに固執するかと言うと、アドバイザーをしようとする者を社会的に認知していただくためには、どうしてもああいう言葉必要ではないかということからです。社会的に認められない、認められないということは私達の努力が足りないということの裏返しになります。この「公益法人認定」とい6文字を入れる事により、いろいろとPRしていこうという事です。

この公益法人認定をいただきましたら、この認定証を早速持ちまして、広島県知事、それから広島市長、広島大学、市立大学と、世の中でいう有数なところにこの公益法人の認定をいただきましたよとご挨拶に行きました。

そして、もう一つの狙いがあるのです。それはアカデミックパック適用による安くソフトを買えるような方法を考えました。ところが皆さんご承知のようにマイクロソフト社が認定しているアカデミックパックというのは、教育機関に限られてリスト表が出来上がっております。この機関とこの機関はアカデミックが適用になるということです。ですから27,000円のソフトが一万数千円の約半値で買えるわけです。この公益法人認定というお墨付きを持って行くと少しは割り引いていただけるのではないかと、欲っばいところがありましてね。まあいろんな行政やら大学を廻ると併せて、実は市内有数の量販店にも行きました。

量販店へ行ってちょっと驚いたんですが、実はあんたたちが来る前に十数社が既に何とか割引販売してもらえないか、と行って来ていることでした。あんたらちょっと、そう言う事であれば何ぼ二万人かも知れんが、そう言う意味でのPRなり諸活動が少し手遅れだと逆に怒られましてね。しっかりしなさいよ！もし指定が欲しいのならもうちょっと早めにやらないと、世の中はそんなに待ってくれませんよ。というようなわけで、まあ店長を良く知っているから、そんな話になったと思うんです。これも驚きの一つです。我々も努力が足りなかったという反省です。

ところが、この仙台に出かける数日前にその量販店から色よいお話が頂けそうであります。ソフトに限り、全てではないがそういう風な適用を検討してあげようかという温かいお話を承り今喜んでおる次第です。

実際アカデミックパックをご使用の方いらっしゃるとは思いますが、一万～一万五・六千円で約半値ですよ。例えば、パワーポイントの例で言えばoffice 2007で言いますと27,000円くらいが13,000円くらいですから、もしそうなればシニアも喜ぶし、ますます一生懸命勉強しようと思う気になるだろうし、この「公益法人認定」をもらって良かったな一という事です。

それから大学の方でも、いろいろな諸活動と社会活動するのに、NPOの力を借りたいというお話もありまして、この「公益法人認定」の六文字が、今から少し日を浴びてくるのではないかと思います。

なお、私が付言するのも恐縮ですが、この「公益法人認定」という言葉を、いま全国の皆さんがお持ちの認定証にどのように表現されるかということは、協会の内部でご検討されるんだそうです。

いま広島だけがこれを持っていますから、後の事は知らんとそんな事では申しませぬので、後の事についても私どもの方から全国のアドバイザー、いま2,800人いるそうですが、その方々にも公益法人認

定が出来れば、恩恵に浴すると良いと思っております。

3番目ですが、IT普及活動をシニアにやっているんですが、何故受講生が22,000人になったかということをご説明します。ストーリーとしては、効果1から効果6まで展開しております。先ず効果1です。

「理念をしっかり持つこと・NPO法人設立の目的」を我々自身がしっかり持つことです。理念がぐらぐらしたのでは話になりません。役員を含め会員にも、勿論アドバイザーにも理念をしっかり持つこと。高齢者対策基本法というのがありますが、「高齢者対策基本法」の第1条に精神はこう書いてある。

あの人年寄りになったから、あんな70になった80になったからもうそろそろ余命とか、もうそろそろ駄目かなとか、そう言うことが世間で良く口に出ますけれど、私はそういう単に年を取ったからという事だけで、比較差別してはいけない精神がこの高齢者対策基本法です。この法律は高齢者というのは生活者の知恵であり、我々の先輩であるという事から高齢者を大事にしている。高齢者というのは我々の捨てがたい先輩なんだという気持ちで接して行こう、この精神をしっかり持つということです。

生活情報を得るのにパソコンが一番良いという事です。70億のデータがあるんですから。今までありました現代百科とか、いろんな分厚い3,000~4,000円もするような本が出版されて、生活情報としてありましたね。あれ全部廃止になりました。

インターネットが出てくれば、インターネットに勝る情報源はありません。ああいう印刷物では、もう古い情報となるので、あれが時代の移り変わりを示しています。インターネットで「健康」という情報を取ったら、莫大な情報が出てきます。例えば、胃癌というのをやれば出てくる、糖尿病、認知症とやれば出てくる、という事で非常に役立つ情報になっております。パソコンが出来る、出来ないによって生活への潤いが全く違うこととなります。

効果2です。

我々いくら踏ん張って来たって、世の中の安全と言うものをしっかり関連付けて行かなければなりませんので、私は特に行政におもねるつもりはありませんが、行政と企業とこの間のパイプをしっかり構築するように、私は努めているつもりです。そのために、シニアネットを立ち上げる前から行政が計画する、いろんなセミナー、講演会、講座とこういうものには、真面目に欠かさず出ました。40数回出ました。

そうしますと、どういう事が起きるかという、あのおじさんまた来ているよとこうなるんですね。

それはそうです、毎回出ているのですから。特に介護保険が始まる寸前には一月に1回位の割合で、講演会だ、やれセミナーだと、行政が計画します。その度に必ず覗くんです。

そうすると、机に並んでいるいろんな資料を配っている担当者の皆さんと仲良くなりました。やあ、やあちゅうもんです。このやあやあが後々、NPOを設立するときに、非常に役立ったんです。何とか局長とか、〇〇部長とかおりますよね。そう言う人も大事な存在なのですが、実際に事務方の若い方、女性も含めて若い人達、こういう人達と知り合って、裾野を広げておくと非常に役立ちますね。塩見さん、今度こんな資料が出るんだけどあげようとか、こうすると非常に役立つのですね。今でも私はこ

効果2. 行政・企業との協働の効果

- ・NPOという法人の社会的価値
 - ・シニアに関する法制度、社会の動きを知っている、これが評価につながる
 - ・実現できたのは：以前から行政主催の講演会、セミナーには**必ず出席**、担当者を知る、担当の組織と業務を知る、市民委員に**応募し委嘱を受ける**、社会問題に精通
- NPO法人化の効果、男女共同参画社会の実現に応募**
IT講習240人・ITリーダー講習800人を受託

【効果】19年6月 ニューメディア開発協会がアドバイザー認定証に「公益法人認定」記載承認

ういう人達と交流を欠かさず続けております。

次に男女共同参画の実現なんかもそうです。今年は男女共同参画社会広島大会というのが広島で行われ、3,000人の女性の方が集まりました。この女性のパワーって凄いですよ。3,000人の大半は女性で、その女性が集まって何を標榜なさるのかなと思って、最後の日に私は見学させていただいたんです。要するに過去、官庁とかに採用されるキャリアとか、そういうものに採用される学校の先生、校長先生そういうものに女性の力を少し高めて行こうと、こんなお話だったんです。

女性がどんどん男性を凌駕するような知識と見識と行動力を持っていただけたら、私はもっともっ女性の力が出てくると思う。現に、女性のエネルギーというのは、相当なものです。やっぱり、女性を大事にしていくということが、男女共同参画の基本でないといけないと思います。

次に効果の3です。

受講者の集め方です。受講者いらっしやい、パソコン教室にいらっしやい、こういう集め方なんです。この集め方の時に実はこれが非常に役に立ったんです。広島市の場合は市の広報誌を月に2回、1と15の日に出していますが、そのときにパソコン教室の開催と生徒募集を、この広報誌でやっていただいたんです。市の会館に40台のパソコン(XP)が配置している教室があります。その教室で、例えば今月と来月はワードをやる、次の月はホームページやるというような事を、市の広報誌でお知らせをしてくれるのです。

私たちが一番ありがたいのは生徒を集めたり、宣伝をしたり、そういう苦勞がないことです。苦勞がない事をいい事にして、サボってはいけません。市に対する感謝の気持ち表れとして、集まって来てくれる皆さんに対し、第一戦闘部隊として時には玄関まで受講者の方をお迎えします。これが受講者に凄く好印象を与えています。玄関の入り口で「お早うございます」と、声をかけてご覧下さい。すごく、そこで親近感が生まれます。

「パソコン教室に来られた方ですか?」「そうですヨ」「一緒に行きましょう」と一緒に歩いて行って、受付すると、そこでわずか1分か2分、この間でコミュニケーションが図られる大きな境目になるように思います。こういう事がときどき新聞に出たりしてありがたいんです。

つまり受講者が主役です。主役は我々ではないと。企画担当の側からいと主役は自分たちであって、来ていただける人は脇役と思いがちですが、僕らもそうした時代がありました。反省してみて、矢張り主役は受講者の方だと、こうしっかり思いました。

ですから、我々の意識は主役は受講者の方、だから受講者が一番大切という、こう言う感覚で行っております。

現在、市の会館を利用したものの他に、16箇所パソコン教室等をやっております。その中で、介護施設内でも実施しています。介護施設の受講生は外には出られませんので、私たちの方から出かけて行ってパソコンを教えるように頑張ってみようという事になり実施しています。広島に480室ある有料老人ホームがありまして、そこで毎週火曜日にやっております。

基礎班と応用班の2班、今現在10数名の方が自室から勉強のために下の階に降りてこられます。パソコンをどうするか。幸いにして企業から譲っていただいた物を、リニューアルしてそれを使って、LANを張ってやっています。そこで、我々大反省です。

介護施設内でパソコンをやらせてくださいといったまでは良かったんです。今から3年前を思うも、赤面の至りです。持っていたパソコンは10数台あったんですが全部がWindows98だったんです。98はカレンダーのウィザードも葉書のウィザードもまともに出てきません。クリップアートも貧弱そのもの、こんな物で教えられるかという話になりますよね。介護施設の中にもパソコンに詳しい人がおりました。入居者の方の中にも、あんたらが持っているのは98かという事で、いまごろ98なんかでやっているのかといわれまして、これはなるほどもっともだという事になりました。なけなしの金を投資

して、1台ずつステップアップし、今全部で16台のパソコンを持って、そこに置かしてもらっています。16台は全部XPです。

非常に喜んでいただいております。現実には介護度が良くなっている方も数名いらっしゃいます。介護度、3が2へ、2が1になって、あんまり介護度が下へ行くと施設を出なくちゃいけないのでは、という心配もあるほどです。その辺は介護の施設の方々、お医者さんの方に相談しながら、確かに動かなかった右手が動くようになった。これも事実です。私も現実にはその方々とお話して、そういうメリットもありますね。

効果の4。

「受講生の印象と評判・口コミ」これが隠然たる効果を持っているのです。

昔から、ある言葉の中にあのお医者さんは、こんな失礼ない方は叱られるかもしれないけれど、〇〇医者よ！ あんな所へ行っても、風邪なんか治らんよ。良くいう〇〇という言葉は省略させていただきます。〇〇ってありますよね。ちょっと頭の中で思い出していただいて、言葉は省略させていただきますが、この〇〇のお医者さんと噂されたお医者さんには、人は本当に行かないですよ。それから健康診断です。皆さんの地域でも健康診断のバスが来ますよね。あんな小さな画面で見ても分るわけがないじゃない。これが口コミです。

ところが今ITの世界で、小さかろうが大きかろうが写るものは同じと言うことです。あのバスの中のレントゲンの機械も相当な精度です。ところが各地域でご覧になってみてください。ほとんど健康診断に行っておられません。それはそういう古い古い言い伝えが脳を支配しまして、行くなら大きいところ小さい所は駄目ということです。これが口コミの怖さです。この口コミの怖さを打破しなければいけません。ですから口コミの怖さを打破するためには、口コミをうまい事プラスになるようにすれば良い。このプラスにするのが、先ほどお話しした玄関へのお迎えなんです。

それから傘を持ってくれば必ずたんであげるとか、スリッパは必ず自分達が出してあげるとかです。教室の中では必ずスリッパでなければいけないんですが、スリッパは自分で出すのではなく私たちが出してあげる。そして履いていただく、そして靴を中にしまっただけ。何番の靴箱ですよということも、ちゃんと言ってあげる。こんな小さな事ですがやっている。これが口コミです。だから、あそこは良いねと言われると、だんだん人気が出てくる、こんな事でしょうか。

効果の5です。

今度はアドバイザーです。アドバイザーそのものの、資質の向上をしなければいけません。アドバイザーも勉強です。アドバイザーもしっかり勉強しましょうという事でVISTAの勉強会も相当しました。だからうちのアドバイザーでVISTAを知らないという人は、ほとんどいない状況です。

確定申告が毎年あります。あの確定申告にご承知のe-Taxというものがあります。e-Taxを少なくとも我々はやってくつもりです。

e-Taxで申告すると、何と自分の所得税から5,000円控除してくれるんです。わずか5,000円でも、考えてみてください。境界線ぎりぎりのところで、5,000円上がるか下がるかによって、どんと税率が変わったら、これほど儲ける事はないじゃないですか。ですから私は税務署にお願いしているんです。もし5,000円で税率が変わる人が判るのであれば、教えてくれとっています。パーセンテージとして計算しますから、なんぼか所得税が安く収まればいい。これも勉強の効果です。

そして更に、就業規則並みのような事で、アドバイザー心得、これをだいたい20数ページのものを作りまして皆に配布しています。心得第一条、第二条で勉強してもらっています。

それから次に、准アドバイザーをご注目していただきたいのです。私共は会員が270名おり、140名がアドバイザーで後残り130名の方がアドバイザーではない方です。要するにアドバイザーを作る事だけが決してよい事ではありませんが、アドバイザーという制度があるなら、折角会員になってしまった

なら、アドバイザーを受けていただければ良いということです。

そこでアドバイザーをやろうとすると今日作って、明日というわけには行きません。やはり「養成講座」いう手順を踏んで行かないといけません。これはご承知の通りです。そこでアドバイザーでない会員の方に呼掛けをしました。皆さんの中でパソコンが出来て、アドバイザーとして我こそは教壇に立って、教えたいという人はどうぞ申し込んでください。と、いいましたら 10 数名の方が応募してくれました。

一般会員の 10 数名の方に集まっていただいて、意見交換会をしました。あんたパソコンがどの程度出来るの、どうのこうのと一対一で役員と話してもらいました。そうするとその印象がわかってきます。このぐらいのグレードの人、このぐらいのレベルの人というのが分って来ます。レベルを把握してこのぐらいのレベルの人というのをピックアップしたら、10 人程度の人に対してアドバイザーをやりましたという事で養成講座をやりました。

まず、我々アドバイザーだけのレベルで勉強会をしました。そうしたらその 10 人が我々レベルですから、10 人が 10 人とも我々のレベルの認定に合格しました。それで私達はニューメディア開発協会の認定証ではないシニアネットひろしまの認定証を作って配布しました。ラムネット加工になっています。ラムネット加工というのは、ホームセンターなどで売っています。ラムネット加工については調べてくれる人がいて、機械を 4 千数百円で買ってきてくれました。バシヤンと 10 人ほどに准アドバイザー認定証というのを付けていただきました。みなさん喜びましたよ！ この認定証を付けて人達が本番の教室では、アドバイザーの見習いとして付いてもらっています。

時期の熟した今年の 8 月からニューメディア開発協会の、本当のアドバイザーのテストを受けてもらうことにしました。こんな事でもめでたく全員が合格して、先ほどお話しした「公益法人認定」と書いたニューメディア開発協会のアドバイザー証を手にしております。これからもこの准アドバイザー制度を続けて行きたいなと思っています。

それから、インターネット灯籠流しです。8 月 6 日の原爆の日に実施しています。あの悲惨な原爆の惨禍がだんだん風化していますので、これを IT の社会と呼応して全世界から平和のメッセージをいただいて、灯籠流しとしてやっています。以前からホームページで、平和メッセージを受け付けていますがその数 700 から 800 になるんです。それをプリントアウトして灯籠に張り、皆さんのと一緒に皆で流す。そしてそれをまたホームページへアップして、皆さんに見ていただくというようなやり方をしています。世界各国から随分反響があります。



夜、灯籠流しをすると非常に綺麗です。我々も感激します。今年で 5 回目です。これは誰からも一円もいただいておりません。我々の収益の中からこういうものをやっています。灯籠流しは、木材で十字をしているだけの、真ん中に釘を打って割り箸が立っているだけです。一個 400 円です。高いなと思い、自分たちで作ろうかと思いましたが、何かいろいろ影響があるようです。そこで、400 円で買ってあげてみんなで出て灯籠に貼って流しております。

パソコン教室以外の活動では、アドバイザーと毎月、社会の動きという勉強会をやっております。

私がデータを作るのですが、来年4月から75歳以上の方の高齢者医療健康保険制度が出来ますね。このようなものを皆さんに教えてあげよう！ 皆さん方こうなるよ！ 今まで息子さんの扶養親族になっていて、健康保険料を払っていなかった人は、全部払わなければならなくなるよ、という話です。

それから、年末調整で一つだけ、今年の年末調整から対象外になったものがあります。傷害保険です。傷害保険は皆さん、いくら掛けております。火災保険

とか、あれよほどの金額にならないと3,000円で頭打ちです。その3,000円の金額が控除となっていたんですが、これが無くなるのです。そこでこの3,000円が先の年末調整で、税率が違ってくるのでこれも大きな話です。

2年前に65歳からの老年控除、58万円が無くなりました。このように高齢者に対し強い波が押し寄せております。それに対して我々は心構えをして、ちゃんと知っておかなければならないという事なんかを勉強しているところです。

パソコン教室以外の活動の一つに、「市立大州中学校との交流」というのがあります。これは大州中学校の生徒が、原爆の日に私達と一緒に平和の歌を歌ってくれる活動です。

次に大事な点は天災への備えです。危機感を感じるのは、例えば地震が起きると、何ぼパソコンが上手なスキルがあっても家の中のパソコン、事務所のパソコンは、壊滅的な打撃を受けて使い物になりません。電柱が倒れ、家が倒れたら自分の生命を救うツールは、携帯電話しかありません。メールが来、インターネットが出来る、常にポケットに入っている。常に自分と一心同体の行動が出来る、ということです。

子供達と現役とシニアの3大世代を考えて見ると、子供達と現役世代の人達はメールを全部携帯でやっています。ところが、シニアの人は携帯でメールをやっている人は数えるほどしかいません。そうすると何か危機が起きた時にシニアの方は大丈夫かな、という危機感が私にはあります。ですからシニアの方に、これからは全て自分の身が助かるように身の安全の連絡手段、携帯で使える通話メール、それからインターネットの救急回路くらいは確保出来るように、今後はITというものを少し変更した考え方しておかなければいけないというのが私の考え方です。

つまり緊急の時の携帯の使用です。ここで、ニューメディア開発協会と全国シニアネットワークへの提言をさせていただきたい事があります。それはお絵かきコンクールを上野の美術館でやったら面白いなと、どうですかね。皆さんの教室でも相当上手なお絵かきを描かれる方がおられるのではないかと思います。シニアの意識向上のために、全国お絵かきコンクール全国大会です。上野の森の美術館ぐらいを借りて、堂々とやって優秀賞には内閣総理大臣賞、経済産業大臣賞ぐらい出して、ニューメディア開発協会賞はずっと下の方で結構ですから、何か出してもらえないかと考えています。そうしたら物凄く意欲がわくと思います。最近はそのソフトに水彩画絵ソフトというのが出ております。これもそのうちの一つかもしれません。

最後は要介護状態の方へ情報伝達の方法です。要介護状態の方は特別養護老人ホームなんかをご覧になったらお分かりのように、介護度4から5の人は寝たきりの方です。そうすると意思も通じない、伝

達も出来ない、情報も教えられない、ということです。ところが来年4月から「高齢者医療保険制度」が出来ると寝ている方に対しても、年金天引きで保険料がポーンと引かれてしまうんです。そうしますと家族に連絡しても、家族から本人に伝える事が出来ない、手段が無い、目が駄目、耳が駄目ということになると、如何すれば良いんだという事です。一つだけ方法があります。何かというと骨伝道方式です。骨に響かせる、骨に電流を通して響かせる方法が現在あります。それを開発していただいて、昨日ここでご報告いただいた東北大学の先生方とちょっと意見交換をしまして、それは面白いプロジェクトでやって見てはということになりました。当大学でもそういう専門の先生がおると暖かいご支援をいただいたんです。けれど私はそういう方々に情報を伝えるのが、シニアネットの大きな使命だと思います。ですからパソコンに限らず、そういうふうなシニア全体を包み込むうねりを皆さんと一緒にやって起こして行きたいと思います。

ケーススタディⅡ

シニアの想いを様々な形で実現

②シニアネットは地域の歴史文化遺産を守り、 継承し、地域振興に貢献しています

野明 宏亘 氏

NPO法人ICP地域振興協会 顧問

ICP 地域振興協会の鎌倉で活動しております野明でございます。

広島の塩見さんですか、仙台が素晴らしい、仙台の人々が素晴らしいと言う話が有りましたが、私もそう思います。と、言うのも私の女房の出身が仙台ですので、ここは格別の土地でございます。今日ここに来て NMDA から誘われて嬉しい思いがしております。

昨日来、あるいは今の塩見さんのお話を伺うと、我々ICP 地域振興協会の至らなさを痛感します。そういっても、とにかく試行錯誤的にやるしかないということで、2001 年の設立ですが色々アプローチを試みてきました。挑戦してきたという事ではないかと思えます。

私共の ICP という名前ですが、以前は「知的協調参画型地域振興協会」と称していました。この 5 月に知的協調参画を止めよう、何だか舌を咬むような名前なので、ずばり ICP 地域振興協会という名前に変えました。

ただ、ICP という横文字ですが 2 つの意味が込められております。

I : インテリジェント (intelligent) 知的

C : コーポレイト (cooperate) 協調

P : パーティシペイト (participate) 参画

知的に協調して参画しましょうということですね。

私共のメンバーは約 60 名です。経験も専門も生き立ちも、色々様々な人達で成り立っています。皆な個性を持っておりますので一人だけでは出来ない。やはりグループを持って、その力でやって行こうという事です。

内部的には知的に協調してそれに参画することです。かつて戦後レジュームの脱却という言葉がありました。また、産、学、官、とか良くいわれますね。主要なセクターが日本をリードして来たわけです。今はそれに加えて、地域人としての民ですね。その民がもう一枚加わって、産・官・学・行政と知的協調的に、いろいろ調整・協同して物事を進めて行かなければならない時代に入ったのではないかと思います。この 2 つの意味を込めて ICP という名前をつけた訳でございます。

今、鎌倉は歴史文化遺産都市です。各地にもいろいろ誇るべき遺産はあると思いますが、特に鎌倉時代という一つの時代を確立した土地でもありますので、これを IT ベースでいろいろアプローチしてこれを継承し、次世代に伝えていこうという試みをしてきました。

様々なアプローチという事ですが、大きく 4 つのアプローチをしております。色々、様々なアプローチを試みて挑戦して来ているわけですが、何故こういう事に成ったかという、先ほど ICP に込められ

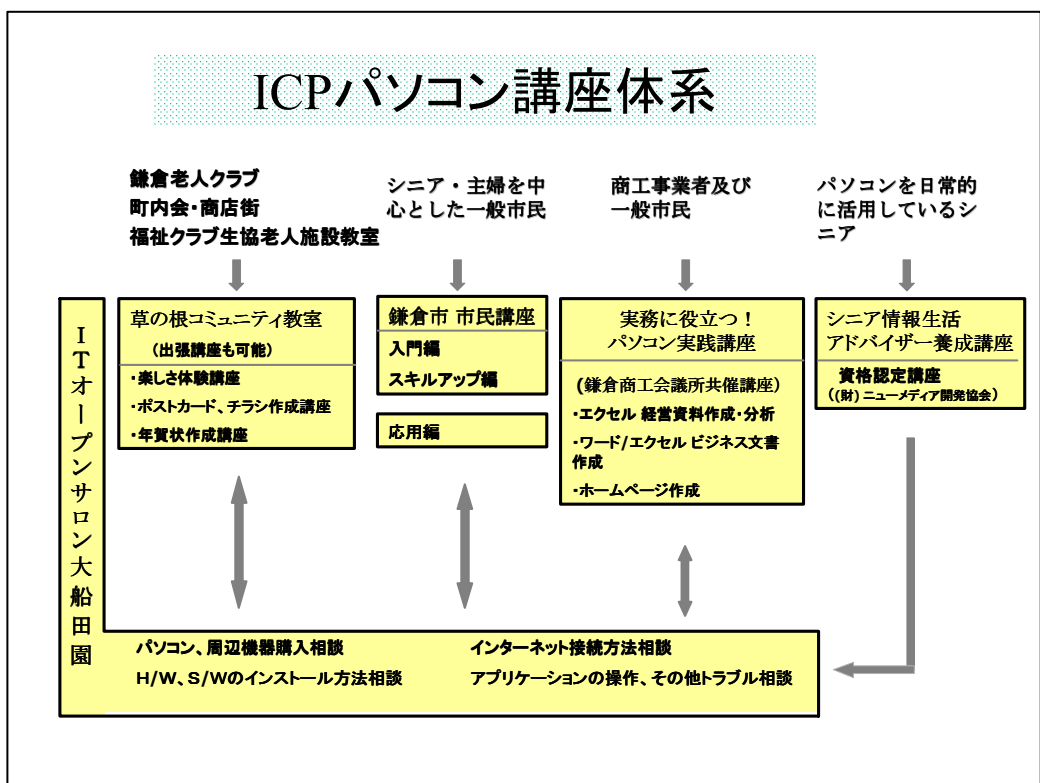


た理念という大げさですが、その思いはですねメンバー共通のわけでは

OBになっても、とにかく一定の社会貢献、一定の社会参画といいますか、一定でございます。現役の時ほどはそう全力投球は出来ないにしても、一定のそういう努力は出来の無いかと、そういう思いは共通なわけでは。俺はこうしたい、自分はこうしたい、といういろいろな考えの方の方がいるわけでは。その実勢にほとんど任せるといって尊重して、いろいろな部会を作りました。テーマごとに部会を作り、それぞれ勝手にいって語弊がありますが、そんな事やっていいの、大丈夫かとかかなり喧嘩諍々まさに摩擦の中で、しかしなんとか先ほどの思いを叶えようという事でやって来ているわけでは。一方ではそういうのも忘れて、飲み会をしょっちゅうやっています。楽しい会ではありますが、ときどき切れたり、喧嘩腰になったりということもあります。ただ基本的には思いが一緒ですので、そういう事も出来るわけでは。簡単にスムーズにこの会が進行しているわけでもありません。

私共のOBにはITに長けた人達が結構おりますものから、これをベースに、その利活用を含めていろいろ試みたのがICPのパソコン講座の背景です。最初は草の根コミュニティー教室ということで鎌倉市市民講座から出発しているわけでは。

いまは「実務に役立つパソコン講座」ということで鎌倉商工会議所と提携しまして、鎌倉商工会議所と共催でエクセルを中心とした講座を開催しています。鎌倉には3,000位事業所がありますが、そういう所にエクセルを普及しているという事では。「シニア情報生活アドバイザー養成講座」は私共としては後発です。



ただこれは鎌倉市の生涯学習推進委員会というのがありまして、そこの委託を受けてやるというものです。鎌倉市の広報などでもPRもしてくれますので受講者応募も順調に推移しています。120名くらい卒業生を出している状況です。「ITオープンサロン大船」という名称で、大船に事務所を持っております。そこでいろいろな講座のフォローとか、勉強会・研鑽会をやっております。最近ITカフェサロンが話題になっていますが、あれはサロンではなく個室型ですね。私共は無料で文字通りオープンなサロンで、楽しい研鑽会をやっております。研鑽・啓発活動について、お話しします。私共の経験だけでは時代に後れるという事では。新しい時代を生きる勇気を知ることでも大事です。同時に鎌倉というものの魅力も高めようと事で、いろいろな研鑽・啓発活動を行っています。

「鎌倉世界遺産登録啓発チャリティコンサート」、これはソプラノ歌手の雨谷麻世さんという鎌倉が育てた北鎌倉女学園を出て芸大に行った人のコンサートです。「NHK 藤田太寅氏時局講演」、NHK 解説委員の藤田さんの講演です。鎌倉女子大教授元教授で八幡義信先生というのは、親子さん2代にわたって、

鎌倉の国宝史蹟研究会というのを創立して 70 年経つのですが、その方が私共の副理事長でして、その方の講演会です。「よみがえる幻の中世港湾都市」という演題です。さらに私共の理事長の柳下和夫先生、日大大学院のベンチャービジネス・スクールの主任教授ですが「期待可能性のコミュニティビジネスと世界技術大賞」という題での講演です。そんな事で、あれやこれやとこの外にも大中小いろいろ研鑽会、勉強会をやっております。

次に「各種提案活動」についてお話します。とにかくいろいろ提案していこうということです。

3、4 年前のことですが、鎌倉市の「中世デジタルアーカイブ事業」ということで、経済産業省の「即効型地域再生コンソーシアム研究開発事業並びに（財）デジタルコンテンツ協会次世代デジタルコンテンツ製作支援事業」というような公募に応募しました。ただ残念ながら採択はされなかった、これも挑戦の一つです。

もちろん、鎌倉市にも私共が設立した当初にこれとほぼ同じ内容で応募しています。予算をつけたらどうかということでやっていますが、今のところなかなか予算は付きません。

鎌倉にかつて野村総研の研究所がありました、その跡地が鎌倉市に寄付されたのです。ところが今まで税金があったのが、固定資産税その他そういうものが無くなってしまいました。さてどう利用するかということで、数年前から私共としても跡地利用計画を提案しております。

さらに鎌倉芸術館指定管理者応募、まあ指定管理者制度というのは、最近法律が改正されて、こういう指定管理者制度が出来るようになってきています。私共の NPO 法人も応募できる、受皿主体になれるという事で、敢えて応募したわけです。

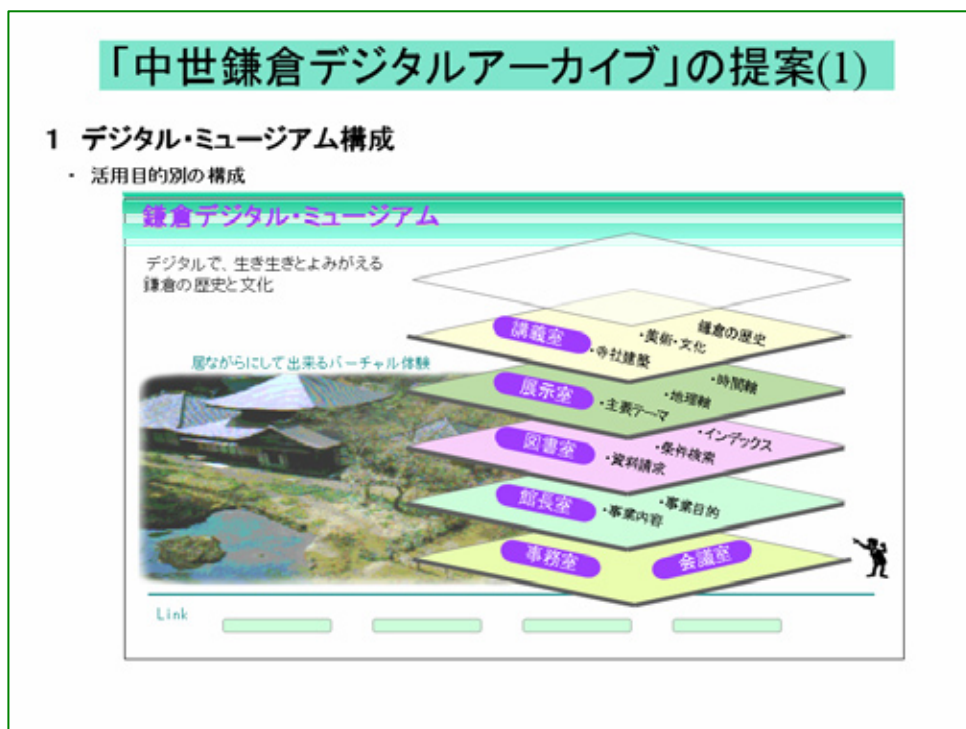
果たしてこんなのを請け負った時にやれるのかということで、散々揉めました。まあとにかく応募しようと、採択されたらまたそれなりの人材を集めたいではないかということで、応募しました。結果的にはサントリー・サブリスティ（サントリーグループ）に取られてしまいました。

次に、「中世鎌倉デジタルアーカイブの提案」です。

電子ミュージアムの構成という事で、これは一つのイメージ図です。いわゆる壮大な博物館大きな箱物は必要ないのですが、イメージで講義室・研究室・役員室・展示室・館長室その他いろいろありますが、それらをそれぞれの映像中心に構成するという事です。

野村総研の跡地に大きなスクリーンを設けて、ハイテクの映像センターを作って、これを世界各地に発信できるようにする。研究部門の一端を東大の史料編纂所と提携することを模索しています。

その中で、代表的なコンテンツの一つ永福寺（ヨウフクジ）。鎌倉に行かれた方はご存知かもしれませんが、源頼朝が草創期に建てた寺です。平泉の藤原氏や義経を滅ぼした時、



お互いの戦死者の慰霊を弔うという事で、宇治の平等院にちょっと似た形で、それよりもちょっと壮大な2階建てになっています。二階堂というのです。

コンテンツの二つは、鶴岡八幡宮（鎌倉八幡宮とも言います）です。これは鎌倉のシンボルです。

今あるのは江戸時代に造られた物です。鎌倉時代の物というのはほとんど無い。消失したり再建して又消失したりということ。それから大伽藍・回廊も大きなものがあつたようです。静御前が踊った舞殿というのがありますが、もっとも大きな回廊で舞つたようです。

コンテンツの三つは、和賀江島です。中国と交流があつて当時の中国の宗時代のいろいろ陶磁器等が、今でもときどき出て来るようです。

野村総研の跡地に「鎌倉温故知新常盤の森」を造り、そこに行けば鎌倉の事が全て一応鳥瞰出来る、こういう提案です。

「コラボレーション活動」について、お話しします。

「環境負荷軽減の生ゴミ処理機の開発」に4、5年前に取り組みました。これは静岡大学の先生と静岡のベンチャービジネスをやっている人と、やりましたが、日の目を見ませんでした。我々はこういうものにも挑戦しているということです。

「鎌倉観光散策ナビ」について、お話しします。

地元の人工衛星メーカーと一つの

共同といいますか、最近はやりの携帯端末GPSで、自分の位置情報を高精度に地図上に表すわけず試みです。こういう物をメーカーの方が、観光用に何とか鎌倉で実現できないかという事で、私共が地元の人達にPRした、コンテンツ作りもしました。

それが「鎌倉観光散策コース」です。私共のメンバーが鎌倉市内を実

際に廻って、13くらいの観光コースを作りました。今迄の観光案内書には無かつたものです。もちろん大なり小なり似ていますが、歩いて何分、次何分とつけて推奨のコースを紹介しています。その間に良い店があつたら、歩いていると店の存在を知らせる音声が出る仕組みです。店の紹介、お土産の紹介、昼食を食べたいとかね。店の前に来ると知らせる機能を持っています。コンテンツもメンバーの手作りですが、なかなか借り手が少なく、細々とやっております。一回500円で貸し出してあります。

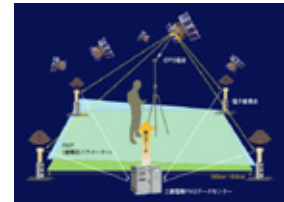
「鎌倉市との協働事業」ということで、私共は個別にはいろいろな事を提案してきました。今年からは、数年かけて市と鎌倉市民活動センター運営会議との協議の結果、市と市民団体との協働事業の推進についての仕組みが出来たのです。ICPはその第1弾として「鎌倉防犯フォーラムの開催と防犯事例集の作成」を手がけることになりました。このテーマは市主催で昨年1回やっていますが、もう少し市民に密着したものをやって欲しいとの要望もあり、これに対して私共は「これ引き受けましょう」と実は私共のメンバーに、この道の専門家や神奈川県警本部出身の方もおり、是非これをやろうという事で応募してやる事になってしまったのです。市側が提案するものと、市民側が提案するものがありますが、これは鎌倉市側が提案したテーマです。

つぎは「リサイクル市の定期開催」です。市から半分頼まれ、私的にやっていますが、リサイクル

鎌倉観光散策ナビ

端 末

- 高精度位置測定GPS端末(AQLOQ)を利用した観光ナビシステムです。
- 観光者にGPS端末付PDAを貸し出し、観光コースを回っていただきます。
- 観光名所への誘導と観光名所内解説をします。
- 時刻表などの情報も提供します。



の一環です。さんど市（鎌倉宮にて3月、5月、7月の第三土曜日開催）、よんど市（由比ガ浜にて毎月第四土曜日に開催）、とかいって定例的に開催しています。とにかく続けるということですが、いろいろと話題も呼んでいます。

地元「鎌倉商工クラブ」という親睦団体があります。今年が創立30周年を迎えました。私共がいろいろおつき合いしている中で、「会報を作ってくれよ」という提案がありました。『あじさい』という表題です。鎌倉在の漫画家の二階堂正弘さんに題字を書いて貰いました。これも協働事業の一つです。

今、鎌倉市では永年の課題であった世界遺産登録に向けて「武家の古都・鎌倉」をコンセプトに急ピッチな取り組みを進めています。ICPとしては、この課題は設立以来のテーマであり市と呼応しつつも「鎌倉世界遺産登録要覧」というパンフレットを作っています。ハンディタイプの20ページの小冊子です。この映像のような内容でまだ未完成ですが、皆さん鎌倉においでいただければ、そのうち手にすることができます。市民レベルのいろいろな課題、これからどうするのか、我々現代に生きている者の使命は何か、というような事も織り込み、次世代に引継がれていくことの一助になればと思います。

昨日、団塊の世代をシニアネットにどう取り組むかというお話がありました。これについて鎌倉では、準備会といいますか、昨年からそういうのが始まりました。“団塊の世代の地域にデビュー”というキャンペーンで「地域デビュープロジェクト」というのが先程のNPO法人の鎌倉市民活動センター運営会議の中にできまして、講演会とかコンサートをやったりしております。



鎌倉の代表的遺産 「鎌倉八幡宮本殿」(市パンフレットより、他への転載不可)

ケーススタディⅡ

シニアの想いを様々な形で実現

③シニアネットは地域コミュニティづくりを通じ、 シニアの新しい生き方を提案します

緑川 斐雄 氏

NPO法人シニアのための市民ネットワーク仙台 副理事長

いま司会の方からお話しあった通り「シニアネットは地域コミュニティを通じ新しい生き方を提案します」これが正式な題名ですが、私の方でここまで提案できるだろうか、あるいは地域コミュニティを正しく表現できるか自信が無かったので、なるべく近い話が出来ればと思っています。

最初に、私共NPO法人シニアのための市民ネットワーク仙台と書いてありますが、NPO法人というのも省略なので、正式にいいますと特定非営利活動法人ということになります。こう書くと硬すぎるのでNPO法人と使っています。これでもちょっと腑に落ちない点もあります。NPOという英語そのものが難解なのです。10

年ほど前ですが私共とアメリカのシニアネットと交流がありましてその時呼びした方が緑川さんNPOって何ですか？ とアメリカ人から聞かれたのです。え！ と思いましたがNPOという言葉自体はNGOから出てきたものです。アメリカではNPOという言葉はそのときには使っていないみたいですね。

Non Profit Organization とこういったら、「あ！ そう」とこんな感じですね、判ったとは言ってくれないですね。そこで私共は「シニアネット仙台」と言う略称というか相性を使っています。

最初に私共の組織そのものに触れさせていただきたいと思います。昨日のパネルディスカッションの中で河北新報の佐藤和文さんが触れておりましたが、平成7年1月から6ヶ月間に亘り地元の新聞「河北新報」の夕刊に紙上キャンペーンとして掲載されました。「これから始まるシニア世代」と称して元気なお年寄りを紹介するという記事です。その人達が活動している部分を『夕陽（ゆうひ）は沈まない』と題して半年間毎日夕刊に載せていました。そしてこの連載が終わったとき、このキャンペーンを終わらしていいのかということで、いろいろの係わりを持った方々が作ったのがこの団体です。

作った時はいろんな活動をしている方々取材という形を通して参加していただいたこともありましたが、ひとつの目的に限定するという訳には行かなくて、部制をとっていました。これも2年位経つとやりにくいということもあって、活動グループとして自分たちで運営する自主活動グループ制を作りました。その他にカルチャー部門を置くというやり方で現在11の活動グループそれに14のカルチャー関係を私共の活動として正式に行っています。

この活動グループというのがユニークなのです。3人以上が集まってやりたい事を申請すればそれを認証するという事です。何でもやりたいことがやれるよというのがもう一つの大きな特徴です。活動内容は展示ブースのほうにありますので参考にしてください。



さて、始まったときはマンションの一室を事務所にスタートしました。シニア時代の共助ということで福祉活動のひとつの食事サービス、デイサービス、そして自分たちがやりたい事をやるという3つの大きな柱でした。

やがて3つの拠点をまとめていく負担と場所も狭くて不便ということで平成11年ちょうどNPO法人格を取った年に現在の場所、仙台市一番町2丁目に事務所を得ました。

ここは仙台市の繁華街の真ん中で約60坪あり本来ならば1ヶ月5~60万という大きな家賃ですがいろいろの人のつながりからオーナーが協力してくれ廉価で借りられました。

当時私共の活動すべてを合わせますと年間1800万円位の事業規模になっていたが、3つの拠点でやっていたことがかなり体力の消耗にもなり、そこで食事サービス、デイサービスを独立してもらいました。内側から見ると独立なのですが彼らから見ると見放されたという事で当時はやはり恨まれ、悪口もいわれたりしました。

しかし食事サービスはその後NPO法人格を取りまして現在でも立派に進めています、デイサービスのほうは介護保険との問題が絡んで一応の役割を終え終息の方向です。

私達は出来るだけ自分の力で生きていく、あるいは自分が元気な時に誰かを助けてあげる、ちょっと手を貸してあげるという事を今後も進めたいと願っています。

「行く所がある、会う人がある、する事がある」と言うモットーについては行く所があるというのは定年後何も目的意識が無くなると家に引きこもりがちになる、引きこもりになるとすぐ身体が衰えていくということは元気な皆様方なら良くお判りの事と思います。人に会うために行き、そしてその人と何かをする、その目的意識を持ったこの3つの言葉を創立からの合言葉にしています。

ぜひ、こういった事は真似をしてもらったらありがたいし、かみしめていただきたいと思っています。与えられた題名が地域社会とのコミュニティ作りということですので、このところに入って行きたいと思っています。

我々が先ほどいいました通り14の活動グループ、中にはいろんな活動があります。その中でも、一番人気のあるのが健康麻雀です。週一回マージャン荘を私共で運営させてもらい、そこに集まって来るのが約100名おられます。その他にゲームに入ってこれられない人が入門教室として4~5卓やっています。毎週、毎週それだけの人が集まってくる訳です。また歌声サロンというのがあり、皆で昔我々の年代が歌った歌を声張り上げて歌っています。「歌うと身体が元気になるよ、頭呆けないよ」ということで月2回、一回30名位が集まります。

これらの人が1ヶ月で延べ800名くらい来ます、年間で1万名くらいの方が私共の拠点に来ている勘定になります、

1万人の人が一番町2丁目サンモール商店街に来るということは、地域コミュニティに対す

シニアネット仙台の活動

- 長い人生経験と豊かな知識、技能を備えたシニア世代は貴重な人的資源
- 行くところがある
会う人がいる
することがある

地域とのかかわり その2

- 商店街への集客支援
拠点(サロンわいわい一番町)には
会員が1ヶ月に延べ300人の来場
- 会員への情報提供
昔の馴染みの店が無い

↓
地域MAP作成へ

る大きな集客であって、何とか生かせないかとの思いからもっと地域商店街に対する貢献になれば良いと考え七夕祭りに参加する事にしました。仙台の七夕祭りというのは皆様ご存知の通り全国的に有名です。私共は平成11年から参加し連続8回になります。

七夕に参加するときに考えたことは地域を巻き込む、地域と接触を図ることです。ところがあまり反応が無い、そこで郵便局に話をかけ、学校にも話をかけました。子供たちに七夕を教えたいと、これが後には組織立った形で大学生、高校生、社会福祉協議会を通じた一般の方々のボランティアを集めて全部手作りで作りました。

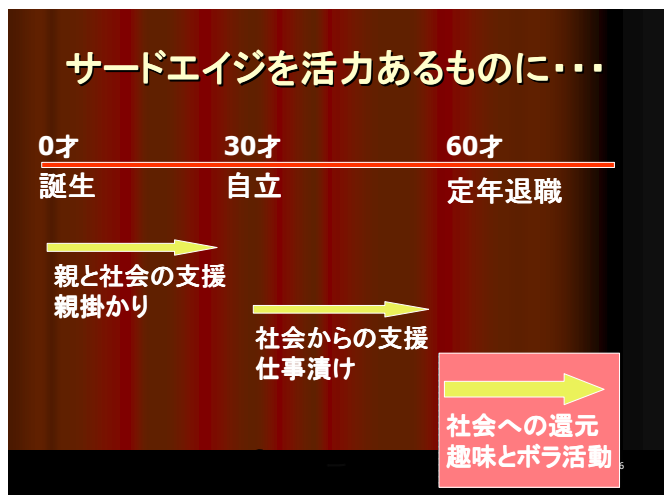
七夕飾りを作るには一本の竹飾りに4つか5つの吹流しを下げるのですが、業者が作る一本の竹飾り作製に30万~50万位掛かります。それを我々が手作りで、ボランティアで作ると一本が3万円位で出来ることになります。そうやって無い智恵を絞って皆の力を合わせ作っていくのが七夕祭り参加ということです。それを手作りでチラシを作り、今年は3千枚を作成し配布しました。

次に商店街の地図を作りました。これは商店主が年を取り引退してしまい店を人に貸すため、店名や業種が替わり自分の知っている町と違ってしまったというので6ヶ月かけて商店街の地図を作りました。ところが1年で3割位の店が変わり現状と違っていると言う苦情が来るようになり改訂版の発行も財源負担の点からその後は作ってありません。



このように七夕祭り、地域マップと活動しましたが、地域の人達の認知度は調査したところ3割くらいしかありませんでした。このようなことから我々がボランティア活動をするときは、私は2つの事を考える必要があると考えました。代償を求めない活動は誰でもいつでも出来るが、いつでも止められるという悪い点があります。そこでボランティアはゆとりをもってやる、楽しくやらなければダメ、自分を追い詰めるような事をやってはいけません。やりすぎるとやらされていることになり疲れ果ててもう止めたとなってしまう。気持ちの切り替えが必要です。1昨年に設立から10年過ぎた時、半年をかけて10年間の歩みを冊子に纏めましたので、興味のある方は購読していただければよく判ると思います。

さて次に、セカンドエイジとか第二の人生とか言われることもあります。これを三つに区分する考え方もあります。0歳からだいたい30歳前くらい前まで、親に育ててもらって、学校に育ててもらってという人間形成の時代になります。その後結婚して、自立して、自分で家庭をもっていく時期に入ります。この時代は、社会から支援されてる時であって、仕事漬けの時代です。これを社会形成時代と考えます。そして、定年退職を



した後というのは、ファーストエイジ、セカンドエイジと同じくらいの、20年とか30年とかの時間が残されております。この時間というものを有効に活かさないといけません。このことを考えたとき、このサードエイジに、是非、趣味とボランティア活動をやっていただきたいと思います。先ほどまでお話していた地域への活動というのは、このサードエイジでしか、出来ないことだと思います。是非とも、今から始まるシニア世代という時間に、地域への関わりをやっていただきたいと思います。

実は私、団体の中ではパソコン教室に加わっておりパソコンの事ならいくらでも話が出来ますが、頂いた題が地域コミュニティという事で、言い慣れない言葉を駆使しながら話をさせていただきました。つたない話しで申し訳ありませんが、皆様よろしくお願ひ申し上げます。

<質疑応答>

[質問] PCサロン、PC研究会、PC教室、PC交流会、シニア視覚障害は具体的に簡単でいいですがその辺をご紹介して頂けないでしょうか。

[緑川 斐雄氏]

私共会員400名の内PCを理解し使っている人は3割くらいであとの7割はPCとは無縁の人です、3割120名のうち40名位がもっと極めたいというグループでPCサロンとして月に2回集まっている

これとは別にPC教室がありマン to マン方式でやっています。特に難しいのが視覚障害者に対するPC教室で障害の度合いにより1人1人に対応したカリキュラムを作り対応しており当会が得意としています。



ケーススタディⅡ

シニアの想いを様々な形で実現

④シニアネットはコミュニティビジネスで、 シニアを、地域を元気にしています

山根 明 氏

NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 運営ワーキンググループリーダー

こんにちは山根です。よろしくお願いします。

今日頂いた題は非常に難しい題で、私には不得意の部分も含まれています。私の得意なのは後半の講座運営に関する部分です。

三鷹というのはご存知ない方も多いと思い地図を用意してきました、都心から西へ約18km人口17万程度の町です。玉川上水は江戸時代に江戸に水を送った上水で太宰治が入水したということをご存知の通りです。比較的文学者ゆかりの町と私共は理解しています。最近ではジブリの森とかいうのがありアニメのお好きな方、若い方には評判の見物所になっています。外国からも結構見学に来ており、国立天文台とか近藤勇の墓があるお寺があるという所です。

シニアSOHO三鷹は比較的行政と上手くいって来ていて、ある程度恵まれた環境にあると理解しています。2005年ニューヨークで行われたインテリジェントオブザイヤーで三鷹市がIT世界都市ナンバーワンということで表彰されました。その心は何かというと民間すなわちNPOと企業、行政の三者が一体となり町おこし、町づくりをやったということが評価されたと聞いています。

では三鷹市が世界一のIT都市となったかということとちょっと古い話になりますが、過去10年間に100社程工場が流失したという事が現実問題としてありました。すなわち税金が入らなくなるという事で、市が考えたのは「SOHOシティ三鷹構想」が打ちだされ、ITを重視していこうという方針がだされました。

つぎに三鷹SOHOの歴史を簡単に述べると、1999年に草の根PCクラブの形でスタートし、2000年にNPO法人の資格を取り現在に至っています。地域に埋もれていた元気なシニアが結集して、たまたまITブームに乗ったというのが実情じゃないかと思います。

時代的には森内閣の全国的に行われたIT無料講習会なんかもありました。格好よくいうとシニアの地域デビューの場を作ったということです。これはあとから作った理屈で当時はそんなことは意識しておりませんでした。

問題はやはり行政に対する提案能力が今後必要になるこのことがポイントです。ITの利活用ということが特化して行政とタイアップしたということが言えると思います。

シニアの特質についてまとめてみました。企業の卒業生ですが職場と家庭を何十年も往復しかしなかった人間が、急に地域に帰っても地域のなかではそれは異邦人だと思います。

特に大企業の人には偏ったビジネススキルしかありません。会社の組織の歯車の一人として、たとえば見



積みりは出来るが営業が出来ないとか、全般的にマスターしています人は少ないのです。会社を卒業すると、ややもすると自立に欠け安易に走る傾向があります。長年のサラリーマン時代は指示待ちであり、会社に行くと山ほど仕事が待っています。自分で物事を考えると自分で汗を流して何かを計画するとかが苦手で、はっきりいって待ち受け形といいます。そしてたまたま何かで自分で仕事を取ってくるとそれが利権化し、なかなか放さないという傾向があります。私共も同じで、結構自分の時間、自分のわがまを主張する人が多いのです。そういう人達に新しく参加していただくには、何か新しい仕組みが必要なのではないかと考えました。

規則はあまりきつく縛り付けると嫌がられ、緩い仕組みが良いと思います。あまりルールとか規則とかでガチガチに固めると動くが取れなくなります。ITを通して自立ということを経験的に学びました。

シニアの自立とは何か、ワーキンググループという仕組みは、まず家庭から外へ出てもらいワーキンググループの中でいろいろ経験をしてもらうことです。1人の人がいろんなワーキンググループに参加する、これは非常に勉強になると思います。プロジェクト方式という事でひとつの目標を定めてそれに向かって進行させる方式を取りました。この場合にメーリングリストが有効な武器になりました。基本的には情報公開ということですが。

次にワーキンググループについて少し考えて見ます。

これは皆さまのところで同じだと思います。この指とまれで何か提案し、メーリングリストで関心のある人がこの指にとまっていく、そしてワーキンググループの中で議論し討論し研究し、その結果を議事録として皆様に情報公開する、この公開ということが大切です。そしてその中でビジネスを展開していくことです。

プロジェクト方式ということを紹介しましたが、私共は発足以来7年間で売上高は3億7千万という数字になっています。ここで大切なのはメンバーを公募していますという事です。ややもすると形式に流れる嫌いがありますが、やはりリーダーとスタッフは公募するということが大切だと思います。形式に流れようと何であろうと、情報を公開してみんなの承認のもとでする事です。

比較的私共は行政から請ける仕事が多かった関係もあります。我々はコラボレーションと捉えています。

行政と仕事をする場合、他との時も同じですが責任ある活動と併せて次の提案を必ず用意しておくことが大切です。

7年間でいろいろな事がありました。リスク管理という事を考えておかなければなりません。特に個人情報問題は、最近非常にうるさくなっています。

私共が現在手がけています地域サポートを、列記してみますとITだけではないですが、以下のようなものがあります。

シニアSOHOの地域ITサポート

- 一般市民向けIT講習と講師養成講座を併設
- 高齢者社会マッチング(いきいきプラス、三鷹市)
- 学校安全推進員(三鷹市教育委員会)
- 市役所庁内PCのヘルプデスク(三鷹市)
- 学校支援ヘルプデスク(三鷹市教育委員会)
- 耐震診断報告書作成(三鷹市建築課)
- コミュニティビジネスサロン企画・受付(まちづくり三鷹)
- 高齢者無料職業紹介事業(わくわくサポート、東京都三鷹市)
- パソコン無料相談(三鷹商工会)および訪問サポート

平成16年度 情報化促進貢献団体 経済産業大臣賞受賞
平成16年度 日本経済新聞社 日経地域情報化大賞受賞

10

- 1、これは一般市民向けのIT講習会です。私共の変っていますのは講師養成講座と合せて開催していますのが特徴的です。三鷹市からの発注物件が目立ちます。
- 2、学校安全推進委員、これは三鷹に小学校が14校ありますが、学校が始まり終わるまで2交代で学校の正門で子供達を見守る、あるいは定時的に校内を巡回するという仕事をしています。

これは私共シニアSOHO三鷹の会員が中心になってプラス市民と一緒にこの仕事を教育委員会から請けてやっています。これは安全、安心な町づくりといった事から大変大事な仕事と感じています。

3、学校支援ヘルプデスク、これは教育委員会からの発注です。経過がありましてIBM財団から小学校にパソコンの寄贈がありました。学校と父兄と教育委員会とのパソコンのLANを組みましてそのメンテをやっています。

4、コミュニティ・ビジネスサロンの企画、受付業務をまちづくり三鷹（三鷹市の第3セクター）から発注をしてもらい業務をしています。

そういった活動の中から平成16年に経済産業大臣賞、日経地域情報化大賞を受賞したという経過があります。

このコミュニティ・ビジネスサロンというのは、昨年10月にオープンしましたが、何が目的かというと地域でビジネスを起こすための支援活動をする窓口になるということです。

最近の行政の傾向としてコミュニティビジネスを支援するという動きが徐々に出てきました。起業支援、起業の無料相談というのを行っており、前田隆正さんがこの責任者として推進しています。

昨年10月光文社から発行された『身の丈起業—会社を辞めたら社長になろう』の著書で、その中で160頁にシニアSOHO三鷹のことがちょっと書かれています。見ていただければありがたいです。

内容的には出来たばかりでありあまり活動していませんが、レンタルデスク、レンタル会議室、イベントとして異業種の交流会を定期的に行っています。起業した先輩連の経験を話してもらうこともあります。

昨日以来、団塊の世代問題がいろいろ出ていますが、私の感想としては団塊の世代はまだまだ稼がなければならない、まだまだ参加はされないと悲観的な見方をしております。

シニアに優しい講座とは何かと私は常々思っていますのは、2つファクターがあると思います。そのひとつは講座の内容です。つまりコンテンツ、もうひとつ大切なことは講師の問題だと思います。内容は楽しくないといけない、ワード、エクセルで就業する訳ではないのでやはり“楽しい”がキーワードだと思います。

単に楽しいだけではなく、ある程度役に立つということも必要だと思います。

講師の資質は、ゆっくり、優しく、繰り返し、楽しく教えられる人柄が一番大切です。ややもすると教えてやるという高い立場からの人もいますが、これは疑問だなあと思っています。

シニアSOHO三鷹は講師養成講座というのを4つ持っています。特にお客様に接する人達はアドバイザー認定研修という、私共会独自の研修制度をもっています。これを受講しない人はお客様に合うことが出来なルールにしています。一つは講座のサブ講師であり、もう一つは相談員コーナーの相談員、あるいは訪問サポートの要員で、必ずアドバイザー認定研修を受けないと出られませんルールにしています。内容的には最近うるさくなった個人情報の問題、さらに著作権、行政との付き合い合うことが多いので倫理の問題などです。

ゆうゆうサロン
シニアによるシニアのためのやさしいパソコン教室
<http://www.minamitama.com/yuyusalon/index.html>

- 試行錯誤3年でスタイル確立
- 1回2時間の内、1時間は復習
- 有資格者の仕事を作る
- 講師のインターン制度
- 三鷹市報に掲載
- Yahoo google検索でトップ
- 昨年9月読売新聞掲載全国版夕刊
- 7月4日日本テレビズームイン 放映

Seniors Teaching Seniors
Seniors are also well-versed in the use of the computer.

政府海外広報誌 ASIA*PACIFIC Japan* NPC特集に掲載(2005年9月)

ゆっくり・やさしく・繰り返し・楽しい・仲間作り
10回同じことを聞かれても笑顔で答える ゆうゆうサロン 14

講座の主任講師はシニア情報生活アドバイザー、シニアITアドバイザーの2つのいずれかの資格を持っていないと主任講師は出来ない、としています。

3年前の8月からスタートした初心者向け、ゆうゆうサロン「シニアによるシニアのためのやさしいパソコン教室」は試行錯誤の結果ようやく現在のスタイムになりました。1回2時間の講座のうち1時間は必ず前回の復習、1時間は新しい事に入る。資格を取ったらどんな仕事ができるの?という質問をよく受けますが、ハローワークでは無いといいながらも、多少でもお役に立てればと思いやっていますのがこの「ゆうゆうサロン」の初心者コースです。併せて資格を取った人の経験がポイントですので、そのインターン制度という意味合いでやっています。

特に人を集めるのが大変で、有力な手助けとして市の広報、これは絶大な信用がありますが、私共3年経過しますが、広報枠を他の新規なところに譲れといわれ困っています。

ゆうゆうサロンの教室は現在、午前3、午後6、夜間3講座を常設としています。夜間の講座は赤字ですが夜しか受講できない人がいるので辛抱しています。講座は基本的にはボランティアベースですが受講料はいただいています。私共の教室自体が年間契約で「まちづくり三鷹」から借り受けていますので1回やると5千円かかるので止むを得ないと考えています。

講座内容は皆様と同じで、お助けVista版は、今年の8月からはじめましたが結構順調です。当然教室のパソコンはXPですから、ノートパソコンを持参してもらっています。

1週間に2講座を実施、1クラス7名位来ていますので良いのかなあとと思っています。

特別講座はデジカメとワード、エクセルを応用したミニアルバム、はし袋の作成をしたりと皆様と同様です。

「パソコン解剖学」と称してパソコンをばらし部品を見てもらい、組み立てをやってもらう、結構ご婦人も興味を持たれ、じゃ私も自作機を作ろうかという方も出てきています。

「60歳からのインターネット実践講座」、これをちょっと説明します。三鷹市が企業から中古のパソコンをいただき、ソフトはマイクロソフト社からご提供をいただきました。年間3万円でリースするという形で、そのうちに1万円はソフト入れ替えや返却されたときの廃棄料、2万円は私共2時間6回の講座の受講料としていただいています。ひとつのコラボレーションの例だと思えます。去年は2回、今年も1回実施しています。10台位ずつ行っています。

スポット的に老人連合会からの依頼で出張・出前講座をしています。あるいは三鷹市のコミュニティセンター9ヶ所の内2ヶ所で市の予算が出て初心者講習会をしています。

受講者はこつこつと努力して一人ひとり集めるしかありません。

受講生はお客様で主人です。

我々講師はサポーターで、パソコンという優れた機械、ソフトの説明員と認識しています。入学金もありません。授業料は月謝ではなく、1回1回来られた時にいただいています。このことって大切なことです。今日私の講座が面白くなければ明日から、来週からお

ゆうゆうサロンの 今後の課題

- 「サロン化」をさらに(名前のように楽しく集える ゆうゆうサロン)
- 超初心者が講師に変身(シニアにやさしい講師をもっと多く)
- 70歳の挑戦:女性 K・Mさん・主婦の場合(私もパソコンを教えたい)
- 昨年11月、シニア情報生活アドバイザー養成講座合格
 - 超初心者から受講者3月4名、8月1名合格 合計6名
- パソコンが無い人も始めよう!(受講者の20%パソコン無し)
「中古パソコン再生工房・三鷹」(昨年11月発足)との協働
- 引きこもりシニア男性対策(受講者の男女比 3:7 「未来をつくる図書館-ニューヨークからの報告-」菅谷明子氏著 岩波新書)

見えになりません。また月謝として払っていますと月謝分はいよいよ来るがその後は続きません。ある意味でいい緊張感を保つためにはその都度いただいた方が良く考えています。

次に私共の今後の課題です。ゆうゆうサロンという名前を付けていますが、名前に恥じないサロン化をさらに進め親睦の輪を広めたいと思っています。

いま考えていることは、まったくの初心者から講師に成っていただくという事で進めています。昨年、第一号の女性で70歳の主婦が、本当に努力され何回も挫折しながら私共も励まし、昨年の10月シニア情報生活アドバイザーに合格しました。そうしますとその周りの人も私もとなり、私も講師になりたいと現在6名の講師の卵がいて、講座を見学してもらっています。

教室に来る方の10人に2人はパソコンを持っていない方がいます。彼らはパソコンが面白いと自信がついたら必ずパソコンを買われる、その意味からも今後はパソコンの無い人にも呼びかけをやっていこうと思っています。

最後になりましたが、私共の受講生の男女の比率は3対7で圧倒的に女性が多い、これを称して私は、「引きこもりシニア男性」とからかっています。問題は団塊世代も含めて家庭から引き出す対策として、最近読んだ菅谷明子さんの『未来を作る図書館』という本が岩波新書から出ています。その本を見ると今までの図書館の根本概念が変わりました。企業を辞めると行く所が無い、取りあえず図書館にでもいこうかというのが大体のコースのようです。そこで上手く組織さえすればという事です。やはり「亭主在宅ストレス症候群」から奥様を多少でも解放出来ると考えています。

今年の企業とのコラボレーションの例をちょっと紹介します。トレンドマイクロ社とタイアップして100名ほど集めて、インターネットを利用する際の安全対策という事で講演会をしました。次に日本HP社の「スクイーク」の勉強会、NEC社の子育てママの就職支援エクセル講座、マイクロソフト社のVista講演会&体験会等、来年はシニアITサポート養成講座、これはNEC社の寄附講座で受講料は無料で、テキスト代2000円だったと思います。

7月4日に放映された、日本テレビ(系の)ズームインで取材を受けて感じたことですが、最後にシニアのお一人ひとりにスポットライトを浴びせることが必要です。人として大切にされること、そして本当に情報がほしい人(シニア情報生活アドバイザーの受講者)に情報が届いていないという事が反省させられました。

<質疑応答>

[質問]世界一と評価された三鷹さんですが、弱点はここだと思える所があればお伺いしたい。

[山根 明氏]

私は一昨年理事をやめましたので個人の意見ですが、どの組織もそうですがリーダーが変わるとやはり変ると云う事です。初代のリーダーの熱い思いと理念というのがはたして継承されるかと言う事です。その時は役割が終わった組織は消え去るのみと思います。どこの組織もそうですが現在人がなかなか集まらない、総会にしても交流会にしても集まらない、私いま72歳ですが現在(会)を運営していますのは団塊の世代、私にいわせると団塊世代は団塊の世代の組織を作りなさい。シニアの組織の中に入って来る事は無いよ、といたいのがそうはいかないので…。この程度でよろしいですか…。

[質問]小さいことですがSOHOとは、受講料の内容を教えてください。

[山根 明氏]

SOHOはSmall Office Home Officeです。まあ個人でも企業が出来ると考えています。受講料については1回2時間2000円を原則としています。

シニアネット交流広場

11月5日(月) 12:00~18:00/6日(火) 10:30~15:30

全国各地で活発に活動しているシニアネットの様子を東北のシニアに紹介する、宮城県の地域ITリーダー養成事業を担っているNPOの活動を紹介する、など展示を通じて情報を交換、相互に交流を図るために常設展示として交流広場を設けました。

両日も、昼休みには展示場に入りきらないほど盛況でした。講演の合間にも多くの方々がこられました。各地のシニアネットの活動の様子や成果は、新鮮な感動を東北のシニアに残してくれたようです。





【出展団体】（五十音順）

NPO法人 ICP地域振興協会	http://www.kcn-net.org/npo/232.html
特定非営利法人 会津喜多方シニアネット“きてみっせ”	http://www.akina.ne.jp/~kitemise/
厚別東パソコンクラブ	http://sk412hh.hp.infoseek.co.jp/index.html
特定非営利法人 いわてシニアネットクラブ	http://www.moon.sphere.ne.jp/isn/
NPO法人 沖縄ハイサイネット	http://www.e-haisai.net/
酒田シニアパソコンクラブ	http://sakata-vc.jp/volaren/dantai/37_senior.htm
NPO法人 シニアSOHO横浜・神奈川	http://svyk.jp/
シニアネット加賀	http://hp1.cyberstation.ne.jp/seniornet-kaga/
NPO法人 シニアネットひろしま	http://www.seniornet-hiroshima.gr.jp/
特定非営利活動法人 シニアのための市民ネットワーク仙台	http://www.sendai-senior.org/rev1/
仙台シニアネットクラブ	http://www.zundanet.co.jp/seniornetclub/
NPO法人 とかちシニアネット	http://www.tokachisenior.net/
パソコン活用相談コーナー (協力：株式会社ジャストシステム)	http://www.justsystems.com/jp/
インターネット活用相談コーナー (協力：ニフティ株式会社)	http://www.nifty.co.jp/
趣味とパソコン相談コーナー (協力：マイクロソフト株式会社)	http://www.microsoft.com/ja/jp/default.aspx
財団法人 ニューメディア開発協会	http://www.nmda.or.jp/

クロージングセッション

閉会あいさつ

井上 文雄 氏

仙台シニアネットクラブ 代表

皆さん大変ご苦労様でございました。

2日間に亘ったシニアネットフォーラム 21in 東北もいよいよ締めめの時間となりました。多くの方々の参加本当にありがとうございました。地元として、黒子としていろいろ努力しました私共としましても大変うれしゅうございます。

この2日間の内容を若干触れてみたい、反省というか纏めてみたいと思います。

ひとつは野口先生の基調講演、これはシニアネットの社会における中核的存在としての意味とさらには急速に発展するICTとの結びつきがより社会に寄与するのだよーと、大変力強い励ましの言葉をいただいたのではないかとこのように思います。

次の辻先生の基調講演でございますが、ここではシニアの生き方として「アクティブエイジング」という言葉で表されておりました。つまり考え方として必要なのは、人との交流あるいは活動を通じた達成感、さらには人の役に立っているという気持ちですね、こういった事、さらには新しい人間関係という事で「地縁、血縁、の上にさらに知縁」この知は「知る」ということ知縁という事が大変重要であるよ、いうなれば私共シニアの心構え、考え方といった事を教えていただいたのではないかと思います。

続いて渡辺課長さまの特別講演でございますが、今は行政と住民、NPO、企業との協働によるITの活用等でライフスタイルが大層変わってきています。こういう変化に対してさらに利便性を上げるべくITの推進、これが一層必要だと言う事です。この情報化推進にシニアネットやNPOといった団体の存在が地域を変え、社会を変えろと考え、それらの団体を巻き込んで共に頑張っていきたい、そういう面ではシニアネットの存在というのは大変重要な位置付けにありますよ、というようなお話だったと思います。

さらにパネルディスカッションでは、シニアネットに大変精通した方々のお話してありましてそういう方々のお考えとか思い、といったものを忌憚の無い意見を開陳していただいたのではなかったのかなと思います。またそれぞれのシニアネットの立ち上げる時のご様子とかもお聞かせいただき非常に勉強になりました。

次のセッションのケーススタディでは、それぞれシニアネットの指導者的立場にある方々が豊富な経験と今までのご自分のやられて来た事等その実態とご苦労をお聞かせいただいたという事で、これは私共にとって大変参考になったのではないのかなとこのように思います。

このような事を参考にしまして、改めて私なりに纏めて見ました。我々シニアネット、シニアネットと簡単にいっていますがいったいどこからどのように考えれば良いのか、その根元の部分を考えて見ま



すともまずシニアの思いはどういうことか、ちょっと見ますと、

- ・ せっかくの余生を楽しく、明るくいきたい。
- ・ 世の中や家族の邪魔になりたくない。もう皆様はすっかりシニアの活動をされているからあまり考えていないかもしれませんが、多分最初はこんな思いが強かったのではないのでしょうか。
- ・ 情報オンチとして馬鹿にされたくないなあという気持ちもあったのではないのでしょうか。
- ・ 少しは存在感を示したい、俺がいるのだという事を示したい気持ちもあったでしょう。
- ・ 趣味の世界をもっと極め広めて行きたい、こういう気持ちもあったでしょう。
- ・ 少しは地域のお役に立つことでもしてみようかなとお考えにもなったと思います。

ではシニアっていったいどんな強みがあるのだろうか、一般的にはどなたも発表されていたように、

- ・ 経験が非常に豊富である、いろんな事をやってきた人だ。
- ・ 時間が充分ある、現役の方々に比べれば、そこそこある、いま大変忙しい人もいらっしゃるようですが、どちらかという時間はあるのかなと思います。
- ・ 思いがある、これは大変重要でありまして、この思いは何かを成したいという気持ちが強いのではないかと考えます。
- ・ いろいろな方面の人材であるという事つまり各種の経験者がいる。
- ・ ねばり強い実はこれは反面頑固だということかもしれませんが、良い意味で見ればやはりねばり強いということではないのでしょうか。

ではシニアの弱みってなんだろうかと考えますと、

- ・ 体力に十分な自信がない。特に長時間の集中は目や耳が衰え持続してスピードを持ってというのが苦手
- ・ 自分の好きな事をしたい強制を好まない。先ほどもどなたかのお話でございました強制はダメですよ…と
- ・ 責任ある事は出来るだけ避けたい。俺はもういいや充分やって来たから今更苦労したくないという事
- ・ 地域にとけ込み難い。会社生活を長くやっていますと地域社会との付き合いがどうしても少なくなります。

ではこの個人の強みと個人の弱み、この強い点をさらに強く、弱い点を補っていく、これこそがシニアネットの集まりではないのかなーと私は考えています。

ではシニアネットではどの様な形で出るかという、まずいろんな経験ある人がその得意分野や持ち味を活かしていく、さらには個人の時間に合わせた活動が比較的しやすいのではないかという事ですね。

それから1人でやるのではなく皆で協力し合えるという事ですが大事なものは、先ほどの頑固というものをねばり強い方に持って行っていただかないとこれがばらばらになる恐れもあります。

それから意欲ある人が責任ある事をする、この考え方はひよっとすると皆様ご異論あるかもしれませんが。ここで私の言いた

かったことは本人の意志で物事をやっていくので強制ではない、これ強制するとどうしても頓挫します

シニアネットでは

- ・ いろいろの経験ある人が
その得意分野を活かせる
- ・ 個人の時間に合わせた活動が比較的しやすい
- ・ それぞれの人材(能力)を有効に活用できる
- ・ 1人でやるのではなく皆で協力し合える
- ・ 意欲ある人が責任ある事をする
(本人の意志であり強制ではない)
- ・ 同じ趣味、考えの人との触れ合いで
自然と地域にとけ込める

上手く動きません。従いまして私がやりましょう、よし俺がやるといった意志をかっていくべきだろうと思います。なかなかそのようにきれい事で物事は進まないかもしれませんがそういう思いでいくべきだと考えます。

それから同じ趣味の人との触れ合いは自然と地域にとけ込みやすいのではないのでしょうか。同じ考えの人が多く集まって話をする事によって、地域のことも一緒に考えるようになるのではないのでしょうか。

シニアネットの活動は「まず一步を踏み出すことである」

この第一歩を踏み出すということは個人もそうですがシニアネットという団体でも第一歩を踏み出すということは非常に大事なことなのですね。つまり新しい事にいろいろチャレンジしていくことがこの第一歩だと思います。特に先程来いろいろな事業をされている発表者のお話を伺いますと、やはりご自分のほうから行政や企業に提案していると考えられます。したがって待ちでは段々しぼんでいってしまうのかなと思います。

本フォーラムを通して「私達シニアはシニアネットを通じ個々人の持つ経験と能力・時間等もてる力を発揮し地域社会の発展に貢献することを誓います」と申し上げます。

しめの言葉として妥当な言葉かどうか判りませんが、いずれにしましても私共仙台シニアネットクラブもシニアネットフォーラムに微力ながらもお付き合いさせていただき、努力させていただいた一端とお受けとめいただければ大変ありがたいと存じます。

昨日、本日と2日間に亘って本当にありがとうございました。

シニアネットの活動は

まず一步を踏み出すことである

本フォーラムを通して

私達シニアはシニアネットを通じ、

個々人の持つ経験と能力・時間等もてる力を

発揮し地域社会の発展に貢献することを誓います



シニアネットフォーラム21 in 東北 付属資料

- 「シニアネットフォーラム21 in東北」案内状
- 「シニアネットフォーラム21 in東北」来場者用アンケート票
- 「シニアネットフォーラム21 in東北」来場者アンケート調査結果
- 「シニアネットフォーラム21 in東北」参加者データ

シニアネットフォーラム21 in 東北

◇シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に、シニアネット！◇

～団塊の世代もシニアネット活動に～

平成19年11月5日(月)～6日(火)

仙台市民会館(仙台市青葉区)

主催:財団法人ニューメディア開発協会

(<http://www.nmda.or.jp>)

現在、65歳以上の高齢者が約2700万人、人口比率で21%となっております。実に5人に1人が65歳以上と言うこととなります。日本の総人口は既に減少に転じている中、団塊の世代の第1陣が定年を迎え、いよいよ高齢者の仲間入りを間近に控えているなど、高齢化はますます進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやってくると予測されております。

高齢者がメジャーとなる時代、まさに高齢者のパワーが社会を変えていく時代になる、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、今後、高齢者の社会での活躍が大いに重要となって参ります。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、仲間とともにITを勉強し合ったり、高齢者等地域の方々へのIT講習を行ったりと、地域に根差したさまざまな活動を活発に展開しております。

シニアネットは、まさに高齢者の生きがいづくりや仲間づくりに大きな役割を果たしてきております。高齢者が培ってきた知識・技術・経験等を活かして社会参加を果たし、シニアライフを豊かで楽しいものにしております。そうしたなかにあつて、地域の自治体等と協働(コラボレーション)し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に重要な役割も果たしてきております。このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業の方にとっても極めて意義深い組織であると言えます。

旧通商産業省が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指しております財団法人ニューメディア開発協会と致しましては、こうしたシニアネットの活動こそ、かかる構想の実現に重要と認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化して参りました。こうした経緯から、当協会はシニアネットが全国津々浦々に数多くあつて、高齢者が生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えております。

その為、これまで経済産業省や日本自転車振興会、シニアネット諸団体等のご協力を得て、シニアネット普及・拡充を図るべく、全国的に「シニアネットフォーラム21」を開催して参りました。

そこで、今年度は、仙台市で「シニアネットフォーラム21 in 東北」を開催し、特に東北地方におけるシニアネットの一層の普及・拡充を図ることに致しました。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「シニアネットに参加したい…」「何か地域でやってみたい…」とお考えの高齢者や団塊世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の方など、幅広い分野の方々にご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、皆様の今後の活動につなげて頂ければと思います。

このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットの普及・拡充が一層加速され、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

是非とも、全国各地の、特に東北地方の、多くの方々のご参加を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



開催概要

<p>日時 平成19年11月5日(月)10:30~18:00 (懇親会 18:20~20:20) 11月6日(火) 10:30~15:30</p> <p>会場 仙台市民会館 〒980-0823 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘公園4番1号 Tel 022-262-4721</p> <p>主催 後援 財団法人ニューメディア開発協会 経済産業省(予定)、宮城県 仙台市、仙台市教育委員会 河北新報社(予定)</p> <p>協力 仙台シニアネットクラブ 株式会社ジャストシステム トレンドマイクロ株式会社 ニフティ株式会社 マイクロソフト株式会社</p> <p>定員 150名 参加費 無料 参加対象 ・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方 ・シニアネットのメンバーの方 ・団塊の世代の方 ・シニア情報生活アドバイザーの方 ・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方 ・自治体で高齢者問題やコミュニティビジネス、NPO活動推進をご担当の方 ・コミュニティビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方</p>	<p>申込方法 下記いずれかの方法でお申込み下さい。</p> <p>①FAXまたは郵送でのお申し込みの場合 同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記「お問い合わせ先」までお送り下さい。</p> <p>②ウェブサイトよりお申し込みの場合 下記ウェブサイトへアクセスして頂き、専用フォームよりお申込み下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フォーラム事務局 URL: http://www.zundanet.co.jp/seniornetclub/snf21tohoku ・主催者 URL: http://www.nmda.or.jp/mellow/ <p>申込締切:平成19年10月5日(金) (郵送の場合、当日消印有効)</p> <p>申込締切後「参加証」をお送り致します。なお定員に達した時点で締め切らせていただきますのでご了承下さい。</p> <p>懇親会 お気軽に、懇親会にご参加下さい。 ご参加頂いた皆様同士、親しく、そして楽しくご歓談頂きながら、新しい出会いが生まれる中、お互いの親交を深めて頂くなど、有意義なひとときをお過ごし下さい。郷土芸能や抽選会など楽しい催しもご用意しております。どなたでもお気軽にご参加下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 会場 : ホテルユニバース仙台 3階「シェルプール」 仙台市青葉区一番町4丁目3-22 TEL: 022-261-7711 ■ 会費 : 4000円 <p>ご昼食 お昼の休憩時間に、お弁当を準備致しました。 1日分1000円、2日分2000円となります。会場周辺は、お食事をする場所が少なくなっております。どうぞご利用下さい。</p> <p>懇親会・ご昼食をご希望の方は、事前に下記口座に所定の金額をお振込頂きますようお願い申し上げます。尚、振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。</p> <p>お振込み先 郵便振替口座番号: 00150-4-614619 「シニアネットフォーラム21事務局」</p> <p>お振込み期限:平成19年10月5日(金)</p>
---	--

【お問い合わせ先】
「シニアネットフォーラム21事務局」 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階
日本コンベンションサービス株式会社内(西村、石井)
TEL 03-3508-1213 FAX 03-3508-0820 e-mail snf21@convention.co.jp

仙台市民会館へのご案内

- 地下鉄勾当台公園駅より徒歩10分
- JR仙台駅前よりバスで15分 市民会館前下車
- 東北自動車道仙台宮城ICより車で10分

※ 駐車場には限りがございますので、おこしの際は、公共の交通機関をご利用下さい。
※ 駐輪場はございませんので、自転車・バイクでの来館はご遠慮下さい。

プログラム

1日目:11月5日(月)

10:00~10:30	受付	
10:30~10:50	オープニングセッション	・主催者挨拶 岡部 武尚 (財団法人ニューメディア開発協会 理事長) ・来賓挨拶 赤津 光一郎氏 (東北経済産業局長) (予定) 村井 嘉浩氏 (宮城県知事) (予定) 梅原 克彦氏 (仙台市長) (予定)
10:50~11:40	基調講演 I	「ITはシニアライフをいかに楽しいものに変えていくか」 野口 正一氏 (東北大学名誉教授/財団法人仙台応用情報学研究振興財団 理事長)
11:40~12:30	基調講演 II	「高齢社会におけるシニアの新しい生き方~ボランティア活動のすすめ~」 辻 一郎氏 (東北大学大学院医学系研究科 教授)
12:30~13:30	シニアネット交流広場 (~18:00) 休憩(昼食)	全国のシニアネット及び協力企業の展示 ※展示は開催期間中、ご覧頂けます。
13:30~14:20	特別講演	「『宮城県IT推進計画』とシニアネットへの期待」 渡辺 達美氏 (宮城県企画部情報政策課 課長)
14:20~16:30	パネル ディスカッション	「シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に」 コーディネーター 吉田 敦也氏 (徳島大学 大学開放実践センター教授 地域創生センターセンター長 NPO法人いきいきネットとくしま理事長) パネリスト(五十音順) 佐藤 和文氏 (河北新報社 メディア局次長兼ネット事業部長) 佐野 逸朗氏 (NPO法人いわてシニアネット 理事長) 砂川 正男氏 (NPO法人沖縄ハイサイネット 会長) 千品 雅彦氏 (NPO法人つれもてネット南紀熊野 代表理事) 山本 浩一郎氏 (NPO法人シニアSOHO横浜・神奈川 代表理事)
16:30~18:00	ケーススタディ I	「シニアライフを生き生き楽しく」 ①五十嵐 光男氏 (NPO法人会津喜多方シニアネット”きてみっせ” 理事長) ②齊藤 正五氏 (シニアパソコンアドバイザーネット 会長)
18:00~18:20	移動	
18:20~20:20	懇親会	

2日目:11月6日(火)

10:00~	受付	
10:30~12:10	ケーススタディ II	「シニアの想いを様々な形で実現」 ①「シニアネットはIT普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています」 塩見 信雄氏 (NPO法人シニアネットひろしま 理事長) ②「シニアネットは地域の歴史文化遺産を守り、継承し、地域振興に貢献しています」 野明 宏亘氏 (NPO法人ICP地域振興協会 顧問)
12:10~13:40	シニアネット交流広場 (~15:30) 休憩(昼食)	全国のシニアネット及び協力企業の展示 ※展示は開催期間中、ご覧頂けます。
13:40~15:20	ケーススタディ II	③「シニアネットは地域コミュニティづくりを通じ、シニアの新しい生き方を提案します」 緑川 斐雄氏 (NPO法人シニアのための市民ネットワーク仙台 副理事長) ④「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアを、地域を元気にしています」 山根 明氏 (NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹 運営ワーキンググループリーダー)
15:20~15:30	クロージングセッション	総括 井上 文雄氏 (仙台シニアネットクラブ 代表)

実施予定プログラム

基調講演

【基調講演Ⅰ】11月5日(月) 10:50~11:40

「ITはシニアライフをいかに楽しいものに変えていくか」

野口 正一氏 (東北大学名誉教授/財団法人仙台応用情報学研究振興財団 理事長)

高齢社会と高度情報化社会が同時に進行している現在、“シニアのITをベースとした活動こそが地域を活性化させる重要な力であります。このためにはその活動の原点となるITを身につけるべき”と言われております。

日進月歩の発展を続けているITが、今後、シニアの生活に、どのような影響や変化をもたらすか、シニアがITを使うことでシニアライフを新しい社会貢献を通していかに実り豊かなものにするか、

我が国におけるIT研究の大御所である専門家に、具体的な事例を交えながら楽しく語っていただきます。

【基調講演Ⅱ】11月5日(月) 11:40~12:30

「高齢社会におけるシニアの新しい生き方～ボランティア活動のすすめ～」

辻 一郎氏 (東北大学大学院医学系研究科 教授)

我が国の高齢化は急速に進み、早晚3人に1人が65歳以上という時代がやって参ります。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者の社会での活躍が益々重要となって参ります。

そうした中、多くのシニアが「シニアネット」に集い、元気に、楽しみながら、IT講習などをはじめボランティア活動に邁進し、豊かで充実したシニアライフを目指しております。まさに、自ら自立し、社会を支える側に立とうと意欲的な活動をされており、シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしてきております。今後、ますます多くのシニアがこうした活動に加わることが求められております。

そこで、医学に携わる立場にあって「健康寿命」を提唱される中、長寿社会を自立して、健康で生き生きと暮らすのに、シニアこそボランティア活動を、そしてシニアこそITを使うべき、と主張する学識経験者よりこれからのシニアの生き方についてご提言いただきます。

特別講演

【特別講演】 11月5日(月) 13:30~14:20

「『宮城県IT推進計画』とシニアネットへの期待」

渡辺 達美氏 (宮城県企画部情報政策課 課長)

シニアネットの活動は優れて社会的な活動であり、IT普及活動等日常の活動を通して地域のために貢献したいとする時、自治体との協働(コラボレーション)は極めて重要であります。また、自治体にとっても高齢社会が進展する中、街おこしや地域振興等の諸施策に豊富な経験や知識、ノウハウを持つシニアの参画を求めることが肝要であります。

そこで、今回は宮城県(庁)より責任ある立場の方をお招きし、宮城県がIT推進計画を実施するなかで、いかにシニアネットやNPO法人の活動に期待しているか、語っていただくことに致しました。宮城県のみならず他の県のシニアネットにも大いに参考になるものと思います。是非、お聴き下さい。

「シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に」

(コーディネーター)

吉田 敦也氏 (徳島大学 大学開放実践センター教授 地域創世センターセンター長
/NPO 法人いきいきネットとくしま理事長)

(パネリスト)

佐藤 和文氏 (河北新報社 メディア局次長兼ネット事業部長)
佐野 逸朗氏 (NPO 法人いわてシニアネット 理事長)
砂川 正男氏 (NPO 法人沖縄ハイサイネット 会長)
千品 雅彦氏 (NPO 法人つれもてネット南紀熊野 代表理事)
山本 浩一郎氏 (NPO 法人シニア SOHO 横浜・神奈川 代表理事)

(五十音順)

少子高齢社会にあつては、シニアが主役となって社会を盛り立てて行くことが重要となって参ります。その中であつて、多くの意欲あるシニアが結集している「シニアネット」こそ、こうした社会の牽引力になることが期待されております。

そこで、東北各地に多くのシニアネットがあつて、多くのシニアが元気に活動する中、自らのシニアライフを楽しく豊かなものにするるとともに地域社会を元気にしている、そういった姿を作り出していくことが急務となっております。

そこで、全国の著名なシニアネットの代表者やシニアネットに詳しいマスコミ関係者にご登場いただき、シニアネットを立ち上げた動機・想い、設立に至る経緯、そして現状等を熱く語っていただき、シニアライフを楽しく、生き生きとするものとしてシニアネットがいかにか有意義なものであるかを皆で議論し、確認し合い、シニアネットの活動に動んでいる方々はもちろん、これから何か地域で活動したいと思われている方々へ、今後の道標をご提供したいと思ひます。

ケーススタディ I (11月5日(月) 16:30~18:00)

「シニアライフを生き生き楽しく」

シニアネットの活動とはどのようなものであるか、東北・北海道の2つのシニアネットより、その活動状況をご披露いただきます。シニアネットを設立した想い、仲間と共に楽しく、生き生きと活動している姿等を語っていただき、多くのシニアにその素晴らしさの一端に触れていただければと思ひます。是非、これからのシニアライフの中に、シニアネットへの参画をお考えください。

① 五十嵐 光男氏 (会津喜多方シニアネット“きてみっせ” 理事長)

会津喜多方シニアネット“きてみっせ”は蔵の街、福島県喜多方市で活動しているシニアネットです。シニアをはじめとする地域住民へのパソコン講習を核に、市と連携して喜多方市の観光情報をインターネットで発信したり、地域の人々や他のシニアネット等との様々な交流を行ったり、お互いが楽しく豊かに暮らせる人づくり、街づくりを目指して活動しております。設立の想い等を含め、楽しく活動している現況を熱く語っていただきます。

② 齊藤 正五氏 (シニアパソコンアドバイザーネット 会長)

シニアパソコンアドバイザーネットは札幌市厚別区を中心に、シニア向けのパソコン講習を行っております。地域のシニアにITの活用を拡め、シニアをより生き生きと、そして地域をより元気にしたいとの想いで、ボランティアで活動を行っております。シニア情報生活アドバイザーを講師とした懇切丁寧な講習が多くのシニアに喜ばれております。

信念に燃え、生き生き楽しく活動されている、その状況を具に語っていただきます。

「シニアの想いを様々な形で実現」

シニアネットはその設立の主旨等から、ITを基軸に置きながら、シニアの想いを実現すべく、様々な形で活動し、大きな成果を挙げてきております。そこで、全国からお招きしたシニアネットの代表の方より、その特徴ある活動を豊富な事例を交えて詳しくお話し頂くことに致しました。皆様の今後の活動の参考にして頂ければと思います。

① 「シニアネットはIT普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています」

塩見 信雄氏 (NPO 法人シニアネットひろしま 理事長)

シニアネットひろしまは、「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニア層に対する「パソコン教室の開催」およびアドバイザーが地域のオピニオン・リーダーとして活躍することを期待し、アドバイザーを対象としてシニアの生活に役立つ「高齢者問題」「社会問題」「IT問題」の情報を毎月提供し、社会貢献活動にも取り組んでいます。

自治体との協働も進み、社会での評価も年々高まってきております。実績として、広島市や有料老人ホーム等自治体や企業と協働して市民向けのIT講習を行ってきており、毎年5千人を超える市民(概ねシニア層)にITを教え、市民から大変な好評を博しています。そこで、こうした全国でも抜きん出た実績を誇る活動を通して、IT講習のあり方や自治体との協働のあり方等に触れていただきながら、シニアへのIT普及活動等について提言をしていただくことと致しました。シニアネットの活動の普遍的、根幹的なところに触れるところであり、多くのシニアの方々に今後の活動の指針を提供出来ればと思います。

② 「シニアネットは地域の歴史文化遺産を守り、継承し、地域振興に貢献しています」

野明 宏亘氏 (NPO法人ICP地域振興協会 顧問)

各地には、それぞれ特有の文化、歴史、自然があり、人々が長年に亘ってこれを育んできました。こうした地域の遺産をITを駆使して更に魅力あるものにし、これを国内外に発信し、皆で享受する中、次世代に伝えていくことは極めて重要なことでもあります。世界的にも有名な歴史文化観光都市である鎌倉に拠点を置くシニアネット「NPO法人知的協調参画型地域振興協会(ICP)」は、自らの責務として、豊かな知見や得意のITを生かして、地域ならではの魅力を高め、地域振興に貢献しております。現在、鎌倉の世界遺産登録は永年の課題となっており、行政サイドの熱意とともに市民レベルの理解と協力が必要であり、ICPもその一助となるべく、鋭意活動中であります。

そこで、ICPの活動を通して、シニア各々が暮らす地域の様々な遺産を発掘し、保存し、次代に伝える活動の行方あたり、そのあり方、方法等について提言をしていただくことと致しました。シニアネットの主な活動形態の一つであり、郷土史に詳しいシニアも多いことから、多くのシニアの参加を期待いたします。

③ 「シニアネットは地域コミュニティづくりを通じ、シニアの新しい生き方を提案します」

緑川 斐雄氏 (NPO 法人シニアのための市民ネットワーク仙台 副理事長)

社会との関わりがややもすれば疎遠になりがちなシニアにとって、シニアネットは仲間づくりや地域との交流の機会をもたらし、シニアライフを充実したものに、重要な存在であります。また、シニアネット同士の交流は、お互いの勉強になるばかりでなく地域社会へ新しい刺激をもたらしております。このように、シニアネットのコミュニティづくりはシニアを、そして地域を活性化する重要な活動になってきております。

そこで、仙台を中心にコミュニティ活動を含め自分たちの生涯学習努力を展開しておりますシニアネット「NPO法人シニアのための市民ネットワーク仙台」の活動事例を通して、その重要性を確認するとともに、これからの活動のあり方等について提言をしていただくことと致しました。

④ 「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアを、地域を元気にしています」
山根 明氏 (NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹 運営ワーキンググループリーダー)

長年に亘って培ってこられた知識、ノウハウ等を生かして社会のお役に立ちたい、できるならば生涯現役でいたいとするシニアは大勢おります。そうした中、コミュニティビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつあります。まさに「人材の宝庫」であるシニアネットの活動は、シニアの自己実現の場として、地域起こしにつながる場として極めて重要であります。

そこで、「事業型」シニアネットとして全国的に著名な「NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹」の活動事例を通して、これから、コミュニティビジネスを新たに起こすにはどうしたらいいか、また今の活動をさらにより良いものにするにはどうしたらいいか、具体的な取り組み等について提言していただくことにいたしました。これから取り組みたいとお考えの方々にも分かり易くアドバイスしていただきます。

シニアネット交流広場

【シニアネット交流広場】 11月5日(月) 12:30~18:00、6(火) 10:30~15:30

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場と致します。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けております。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、皆様の今後の活動に必ずお役に立つものと期待いたしております。自治体や企業の方も是非、お立ち寄り下さい。

シニアネットフォーラム 21 in 東北 アンケート

財団法人 ニューメディア開発協会

アンケートにご協力をお願い致します

1. どのプログラムに参加されましたか。参加されたものすべてに○をつけてください。
 - イ. 全プログラム
 - ロ. 基調講演Ⅰ「コミュニティ、NPOそしてシニアネットの力が社会を変える」
 - ハ. 基調講演Ⅱ「高齢社会におけるシニアの新しい生き方ーボランティア活動のすすめー」
 - ニ. 特別講演『宮城県IT推進計画』とシニアネットへの期待
 - ホ. パネルディスカッション「シニアネットで、シニアライフを生き生き楽しく、社会を元気に」
 - ヘ. ケーススタディⅠ①「シニアライフを生き生き楽しく」：会津喜多方シニアネット
 - ト. ケーススタディⅠ②「シニアライフを生き生き楽しく」：シニアパソコンアドバイザーネット
 - チ. ケーススタディⅡ①「シニアネットはIT普及活動を行い、シニアや地域の情報化を支えています」
 - リ. ケーススタディⅡ②「シニアネットは地域の歴史文化遺産を守り、継承し、地域振興に貢献しています」
 - ヌ. ケーススタディⅡ③「シニアネットは地域コミュニティづくりを通じ、シニアの新しい生き方を提案します」
 - ル. ケーススタディⅡ④「シニアネットはコミュニティビジネスで、シニアを、地域を元気にしています」
 - オ. シニアネット交流広場

2. 「シニアネットフォーラム 21 in 東北」に参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。
 - イ. 自身のシニアネットでの活動に役立てるため
 - ロ. シニアネットを自分で設立する際に役立てるため
 - ハ. シニアネットに参加するにあたって役立てるため
 - ニ. とりあえずシニアネットについて詳しく知るため
 - ホ. その他（以下に具体的にお願いします）

.....

.....

3. 「シニアネットフォーラム 21 in 東北」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。
 - イ. シニアネットについての理解が非常に深まった
 - ロ. シニアネットについての理解が深まった
 - ハ. あまり理解が深まらなかった（どのような点か下の欄にお願いします）
 - ニ. その他（下の欄に具体的にお願いします）

.....

.....

.....

4. 「シニアネットフォーラム21 in 東北」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わって
いきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ. 既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい

ロ. シニアネットを自ら設立し、始めてみたい

ハ. 身近なシニアネットに参加してみたい

ニ. 別段関わっていこうとは思わない（下の欄にその理由をお願い致します）

ホ. 参加しようかどうか、よくわからない（下の欄にその理由をお願い致します）

.....
.....
.....

5. 「シニアネットフォーラム21 in 東北」の全体の感想についてお聞かせください。あてはまるもの
にひとつだけ○をつけてください。また、全体的なご意見等がありましたら、ご自由にお願いま
す。

イ. 今後の活動や設立・参加のために大変役に立った

ロ. 今後の活動や設立・参加のために役に立った

ハ. あまり参考にならなかった（下の欄にその理由をお願い致します）

ニ. 全く参考にならなかった（下の欄にその理由をお願い致します）

■ハ・ニの理由：

.....
.....

■ご意見欄：

.....
.....

6. 行政や企業関係者の方をお願いします。

今後、諸施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協働（コラボレーシ
ョン）について、どのようにお考えでしょうか。

イ. 是非、協働していきたい（分野等：_____）

ロ. 協働出来るのであれば、していきたい（分野等：_____）

ハ. 今のところ、考えていない（理由：_____）

■ご意見（上記の分野、理由等ご自由をお願いします）

.....
.....

7. 「シニアネット交流広場」（展示コーナー）はいかがでしたでしょうか。ご意見やご
感想など自由にお書き下さい。

.....
.....
.....

8. 今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であるとお考えですか。ご意見をお聞かせください。

.....
.....
.....
.....

9. 今後の「シニアネットフォーラム21」で取り上げるべき講演、パネルディスカッション、ケーススタディ等のテーマや、是非聞きたいとお考えの講師の氏名・講演名等を理由も含めお考えをお聞かせ下さい

.....
.....
.....
.....

10. あなたご自身のことについてお聞きします。

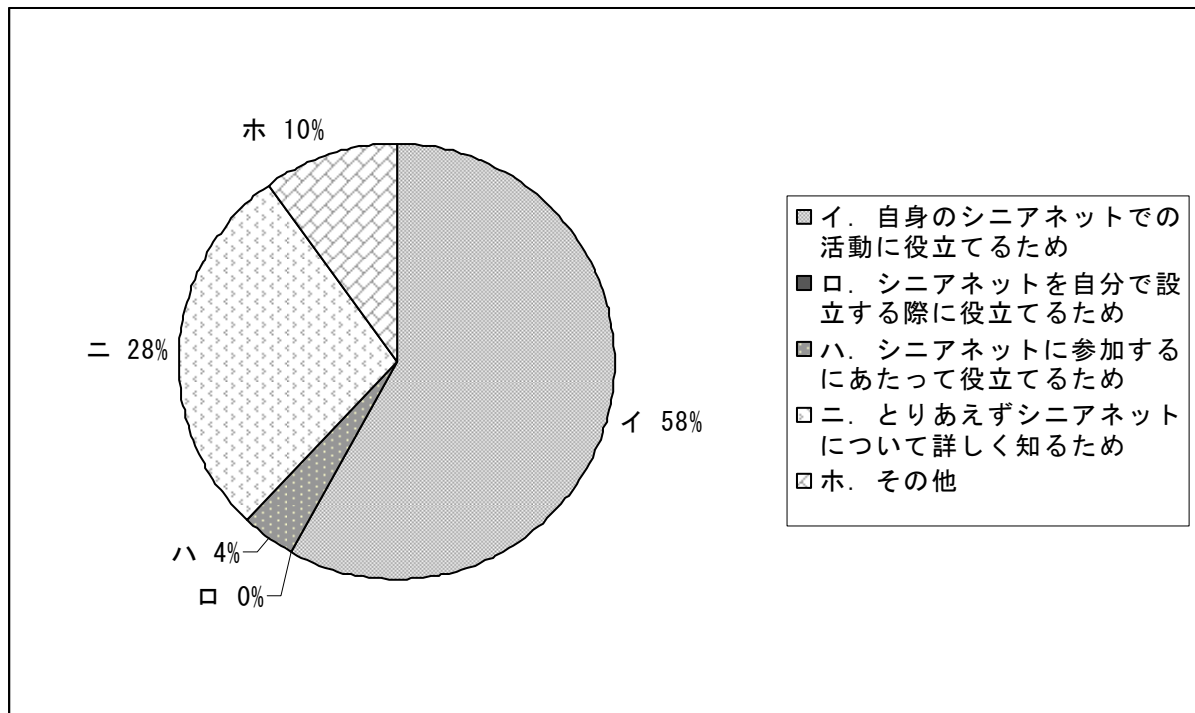
- ①性別： 男 女 ②年齢： 歳
③ご住所（市区町村まで）： 都・道・府・県 市・区・町・村
④所属（該当するところを○で囲んで下さい。職種は差し支えない範囲でお願いします）
イ. シニアネット（含むNPO法人）
ロ. NPO法人等各種団体、グループ（シニアネット系以外）
ハ. 行政機関（担当分野： ）
ニ. 民間企業（担当分野： ）
ホ. 自営（職種： ）
ヘ. どこにも係わっていない（個人） ト. その他（ ）
⑤パソコン経験年数：約 年
⑥生活の中でパソコンをどのように活用していますか。また活用したいですか。
ご自由にお書き下さい。

.....
.....
.....

アンケートはこれでおしまいです。どうもご協力有難うございました。

来場者アンケート調査結果

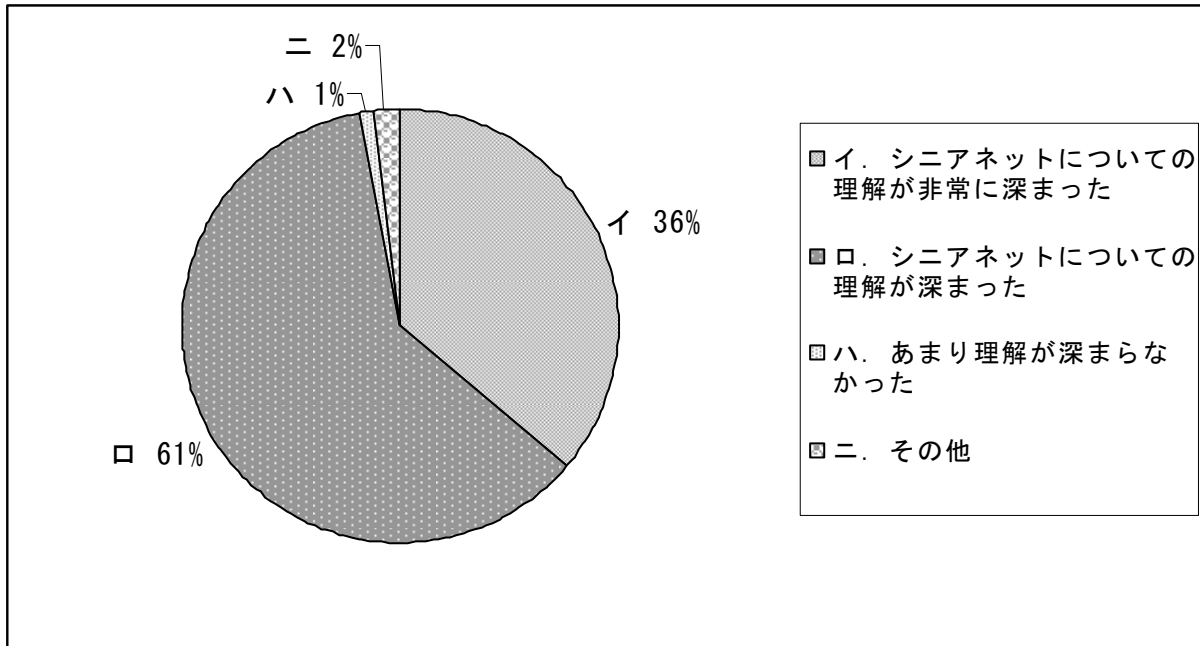
2. 「シニアネットフォーラム21 in 東北」に参加された動機について



■ホ その他

- ・シニア同志の交流について、どのような方法があるか、具体的に見聴しどの様な事をするとう交流を密に出来るかを学ぶ。
- ・知人に勧められたので。
- ・ボランティア活動と地域作りについて知りたい。
- ・シニアが地域活動で生き生きと参加する仕組みを考えるため。
- ・大学の勉強の一環として現在「シニアと情報化」についての研究をしており、今回のフォーラムから多くを学びたいと思いました。
- ・野口正一先生の話が聞きたいので。

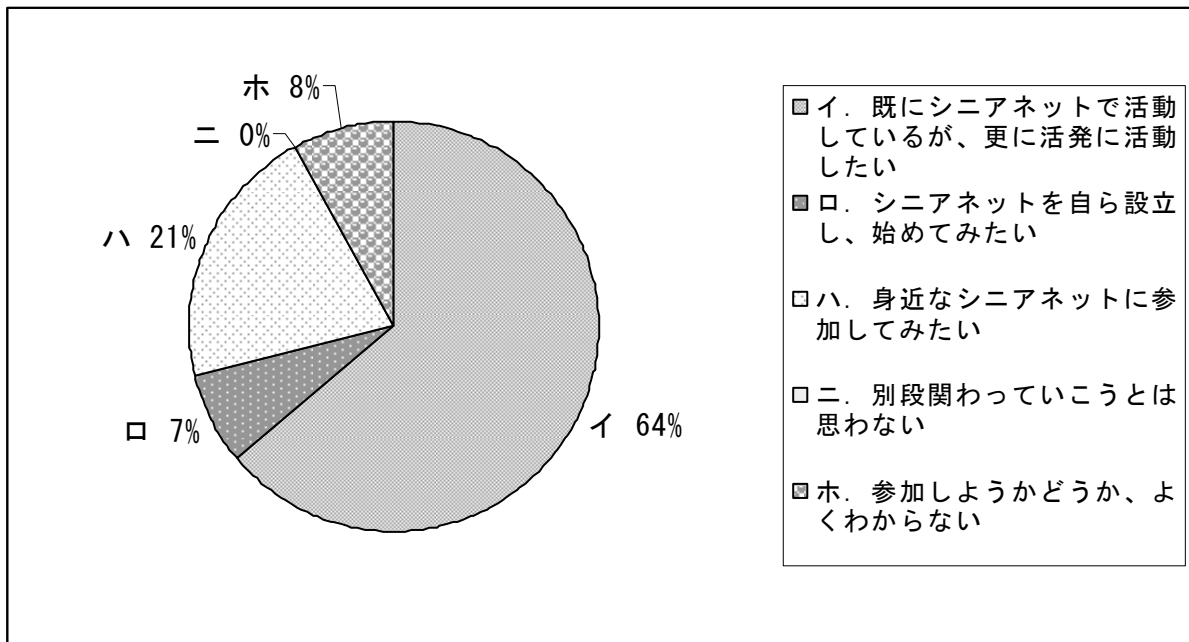
3. シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか



■ニ. その他

・「シニア情報生活アドバイザー」を今回初めて知りました。更に詳しく知りたいと思います。

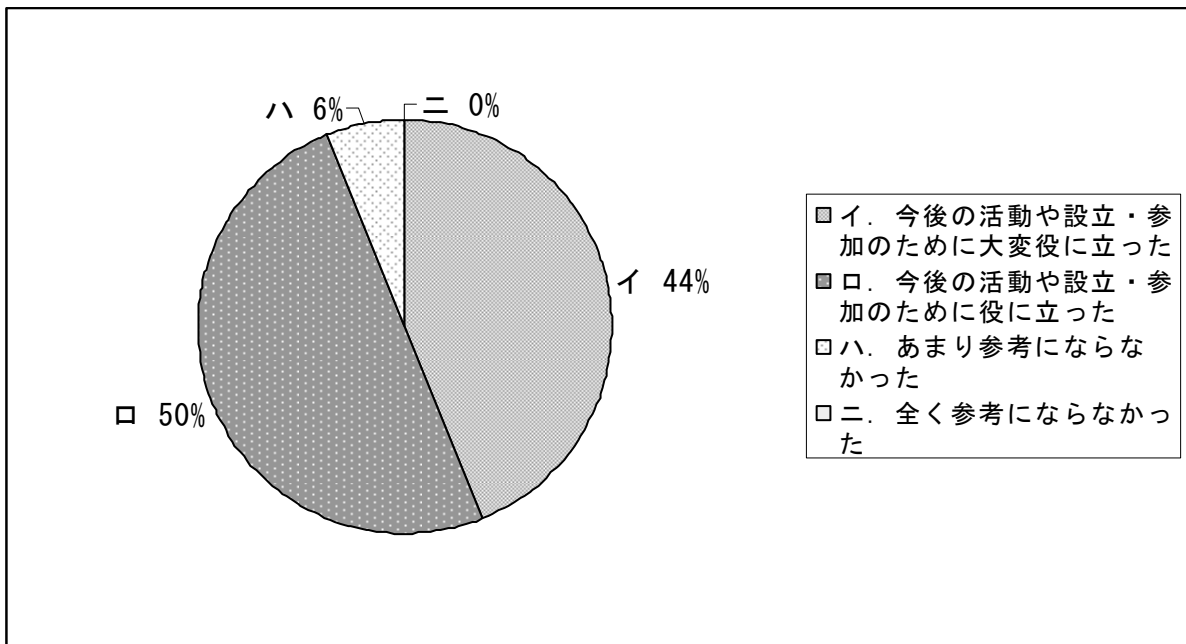
4. フォーラムに参加されて、ご自身はシニアネットにどのように関わりあっていきたいと思われましたか



■ホ. 参加しようかどうか、よくわからない（理由）

- ・シニアネットの目的は理解できるが、行政から見た位置付けが解らない。今のままではパソコンを通しての懇親会でしかないのでは？
- ・今後「シニア」というカテゴリでくくらず、地域ネットとして活動する必要性があるように思うから。
- ・団塊前の世代であるが、参加する魅力がわからない。人間関係の不安もある。

5. 「シニアネットフォーラム21 in 東北」の全体の感想について



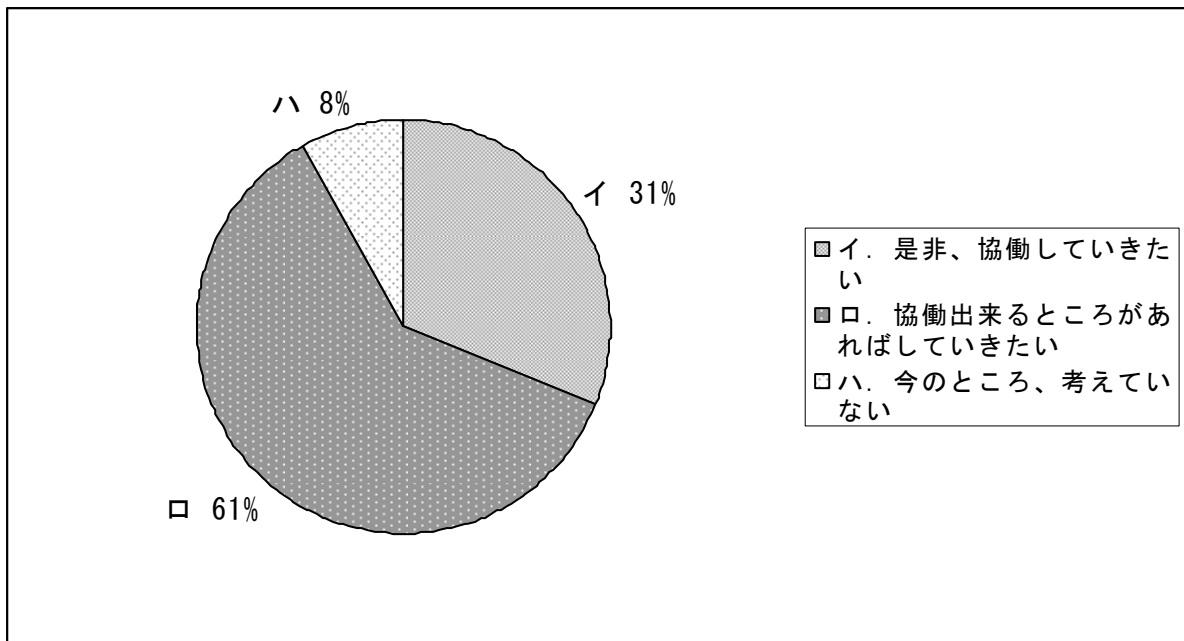
■ ハの理由について

- ・基調講演、特別講演は内容をもう少し絞り具体的にわかりやすい講演にして欲しい。

■ 全体の具体的な感想

- ・ケーススタディではどのような工夫をして成功したか、又なぜ失敗したかなど、具体的な事例を含めてお話があればもっと良かったと思う。
- ・活動の基本である各人の健康を守る取り組みについてもっと知りたかった。
- ・シニアネットの目的は理解できるが、具体的活動になると余りにも範囲が狭い様に感じた。
- ・Web site では見えない裸の部分のみせてもらい良かった。活動する苦勞の一部も教えていただいた。
- ・辻 一郎教授の基調講演は大変参考になった。
- ・様々なお考えの中で活動されており一つ一つのお話がこれから私共の団体活動を活発にして行く上で役立ちました。
- ・基調講演は間口が広いのでポイントを絞ってくわしい話を聞きたい。特別講演は宮城県IT推進計画をもう少し具体的に聞きたかった。
- ・都市間の違いはあるが、行政との関わりがあるか無いか活発化の状況に反映されているように思う。

6. 行政や企業関係者のかたにお願いします。今後、諸施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協業（コラボレーション）について、どのようにお考えでしょうか。



■協働したい分野や理由について

- ・パソコン・インターネット・場所が無ければシニアネットの活動が難しいので、行政との協働は不可欠では無いだろうか。
- ・NPO 法人を含めて諸事業はそれぞれの団体にまかせて、自治体、企業が口を出すことは決してうまくいかないと思う。

7. 「シニアネット交流広場」はいかがでしたでしょうか

- ・会員の見事な作品に圧倒された。
- ・現物を見る事により励まされた。我が地区でもこの様な新聞、絵などを取り入れられるとよい。
- ・講演だけではわからない展示も多く参考になった。
- ・大変良かった。事例発表した後、発表者は自分の展示コーナーに立って欲しい。いろいろ質問あるいは確かめたいことがある。
- ・いろいろな活動を知ることが出来て大変良かった。
- ・思ったより団体が少なかった。
- ・他団体の幅広い活動に触れ、それぞれの団体の会員構成によって特色ある活動に興味をひかれた。例えば ICP の観光散歩ナビなどの作成など。
- ・全国各地で地味に活動されている事などが想像できた。特に「お金」のないところで人集め、教材の作成、色々な企画等、その努力に頭の下がる思いがした。
- ・それぞれオリジナリティが出ていてよかった。
- ・“in 東北”とあるのでプレゼンはなくともすべて東北地方で活動しているネットワークのコーナーがあれば良いのでは。
- ・参加される団体が多くなれば「交流広場」だけで一つの企画ができるのでは？。
- ・写真パネルでの活動状況で各県シニアネットの方々の勉強方法がわかり勉強になりました。
- ・各々の団体の意欲的な活動を見ることができた。

- ・昨年よりも更に工夫された出展が多く参考になりました。
- ・意外な活躍など視点の多様さに刺激され大変参考になりました。
- ・各展示物で各地シニアネットの「パンフレット」を作成して欲しい。写真だけの展示では理解できない。
- ・全国各地でシニア世代が活躍していることを知り、心強く感じました。
- ・同じ方向を目指しているが、夫々独自のやり方があり夫々のオリジナリティがあり、それがよく解って良かった。
- ・パソコンによるプレゼンテーションもあれば良かった。
- ・私自身が数ヶ月後に定年リタイアです。これからどうしていくか、社会の役に立てるか等々考えている中で大いに役に立ちました。
- ・各シニアネットで様々なことが行われているので興味・関心がもてました。

8. 今後シニアネットの活性化や普及拡大を図るためには、どのようなことが必要であると お考えですか

- ・少しずつニーズに合わせて拡大していくこと。ムリはしないこと、行政の協力がぜひ必要。
- ・ネットインフラの完全整備、指導の上手なアドバイザーの増加ときめ細かい対応。
- ・全国のシニアネットの交流を図る場が必要。
- ・沢山のシニアが参加出来るように IT だけではなく色々な活動を活発にしてほしい。
- ・財政基盤の確立。このための事業展開の必要性、人材の補充が常に求められる。
- ・まず行政との連携がもっと必要である。行政の理解が不足と思われる。「高齢化社会」は国の最重要問題であるにも拘らず、行政の意識が低すぎる。町内会とのタイアップが必須と思う。団地それぞれも高齢者が増えている状況で、町内会の行事も行き詰まっている。シニアネットの様な活動を町内会でやったらと思っている人も少なくない。
- ・いろんな社会貢献活動の事例を具体的に紹介、IT 講習会だけの活動ではなく。
- ・団塊世代をどう取り込むか、社会のため、世のため、人のためにどういう活動をするかが重要。IT リテラシーを受信するだけでなく送信（表現）する場の確保も重要。
- ・今後の活動の場を広げるためにも、いろんな世代交流が必要です。
- ・女性の数がもっと必要です。
- ・全国的な連携がソーシャルキャピタルであり、この価値を共有していくこと。
- ・シニアネット同士の交流を活発にしてもらいたい。
- ・市政だよりやマスコミを使って、もっとシニアネットの活動をPRする。
- ・地域でシニアネットが設立されていない。特に県単位で不足する地区の設立サポートを協会でご検討いただきたい。
- ・ニューメディア開発協会に、シニアネットの設立のサポートをしてもらいたい。
- ・私は 23 歳ですが、いわゆる若者にもっと参加を促す必要があるのではないのでしょうか。「シニア」同士のコミュニティ、あるいはフォーラムに若者の発想を加えることは有益ですし、社会的プレゼンスも上がっていくのではないのでしょうか。
- ・今までの 10 年は割合順調に意識啓発を図れたと思います。これからの 5~10 年は特に団塊世代に対する対応は一考が必要に思う。特に男性に対して感じる。
- ・中高年パソコンスキル取得者=シニアネットは、より高齢化する地域社会の課題と問題をクリアできる大きなリソースと考えております。それらの方々の関連組織を調整し、起用と活用を推進するためにはブロック単位でボーダレスかつバリアフリーな関係で活動するスタッフが必要であり、

同時に育成する必要と思います。

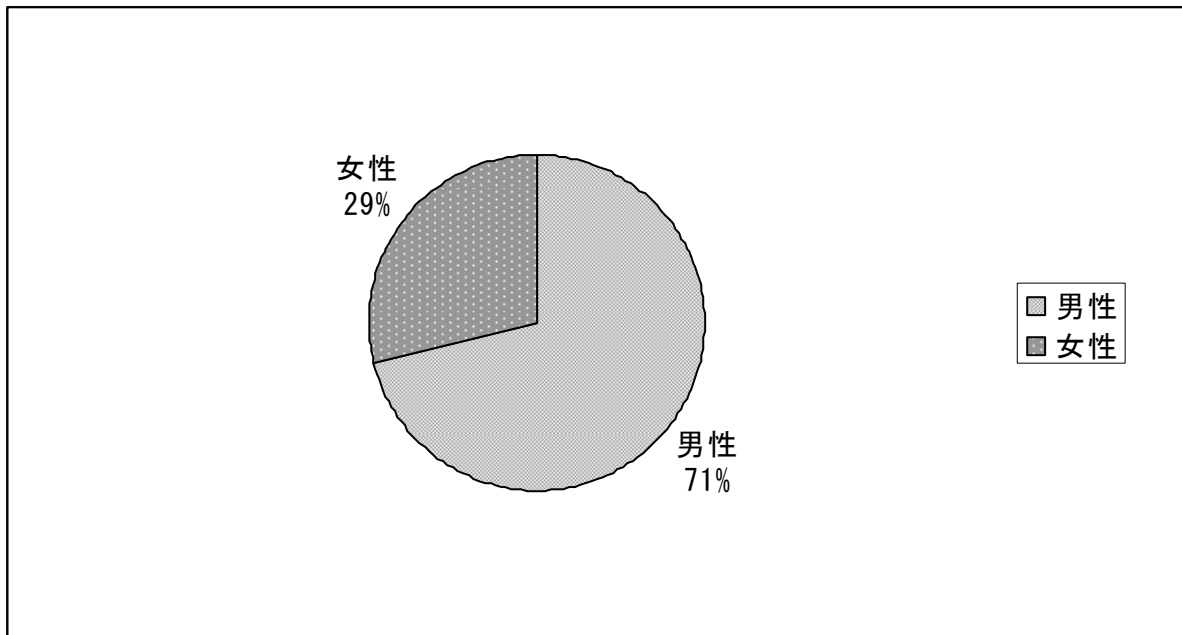
- ・砂川正男氏がお話された県内、国内、海外ネットとの交流拡大が重要と思う。
- ・シニアネット活動の地域を越えた民学官の連携が重要です。
- ・シニアネットの全国的なネットワークの構築が必要。地域間の交流も必要。アドバイザーのスキルアップテキストを発売願いたい。

9. 今後の「シニアネットフォーラム21」で取り上げるべき講演、パネルディスカッション、ケーススタディ等のテーマや、是非聞きたいとお考えの講師の氏名・講演名等を理由を含めお考えをお聞かせ下さい

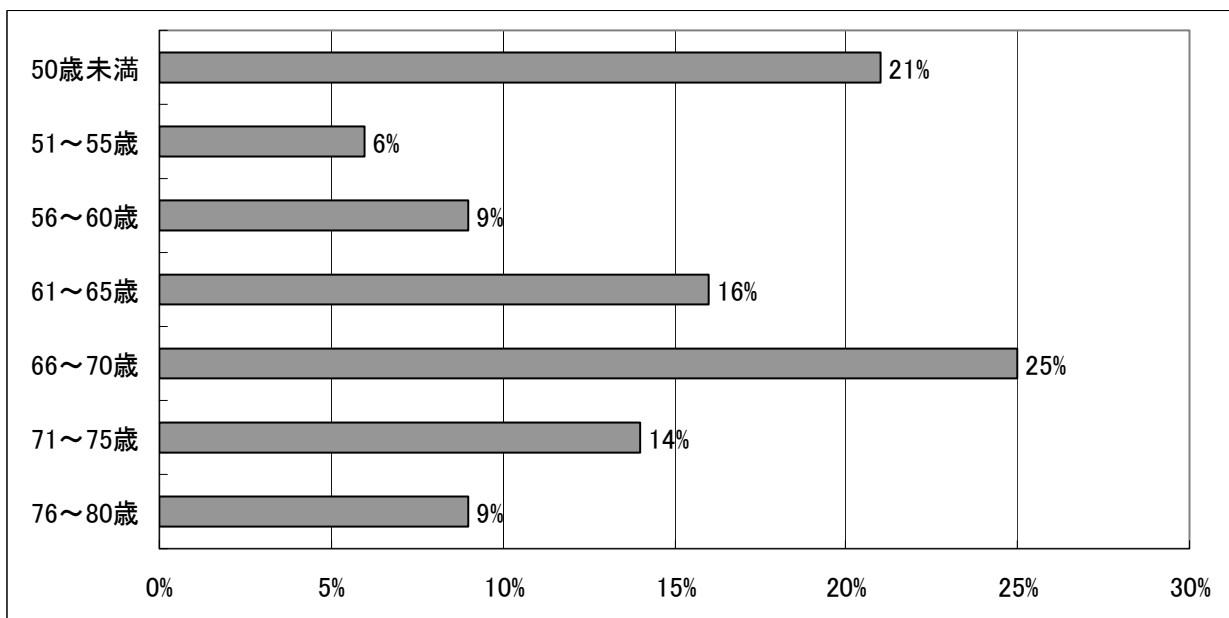
- ・NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹の活動が一番参考になったので、これを更に時間をとって聞きたい。充実した内容で実績を上ている。
- ・IT も大切ですが、IT が出来ないシニアでも興味を持てるテーマも大切です。
- ・団体の活動状況。
- ・行政がシニアネットにどう関わろうとしているのか、行政の方策を聞きたい。
シニアネットと地域との関わり方の成功例、失敗例があれば聞きたい。
- ・コミュニティビジネス、社会貢献プログラム。
- ・①NPO 法人沖縄ハイサイネットは理念が明確で、NPO 法人シニア SOHO 普及サロン・三鷹は、NPO としてコミュニティビジネスの具現化をされているため、もっと詳しい話が聞きたかった。
- ・辻先生の健康寿命の延ばし方、新しい人間関係、認知症の予防対策をもっと聞きたかった。
- ・設立準備から運営の基本的な考え方、さらに組織の維持継続に関する考え方などをシニアネットの普及・拡大の具体的な事例を踏まえて聞きたい。
- ・今回仙台の副市長が女性であることを知りました。シニアの活動は女性が支えているケースが多いと思うので、女性の講演を加えられることを望みます。
- ・シニアネットの活動ジャンルを分けて、詳しく聞きたい。
- ・①月尾 嘉男 「社会に求められるネット社会」②残間 えり子 「もぐら女の逆襲」著書。

参加者データ

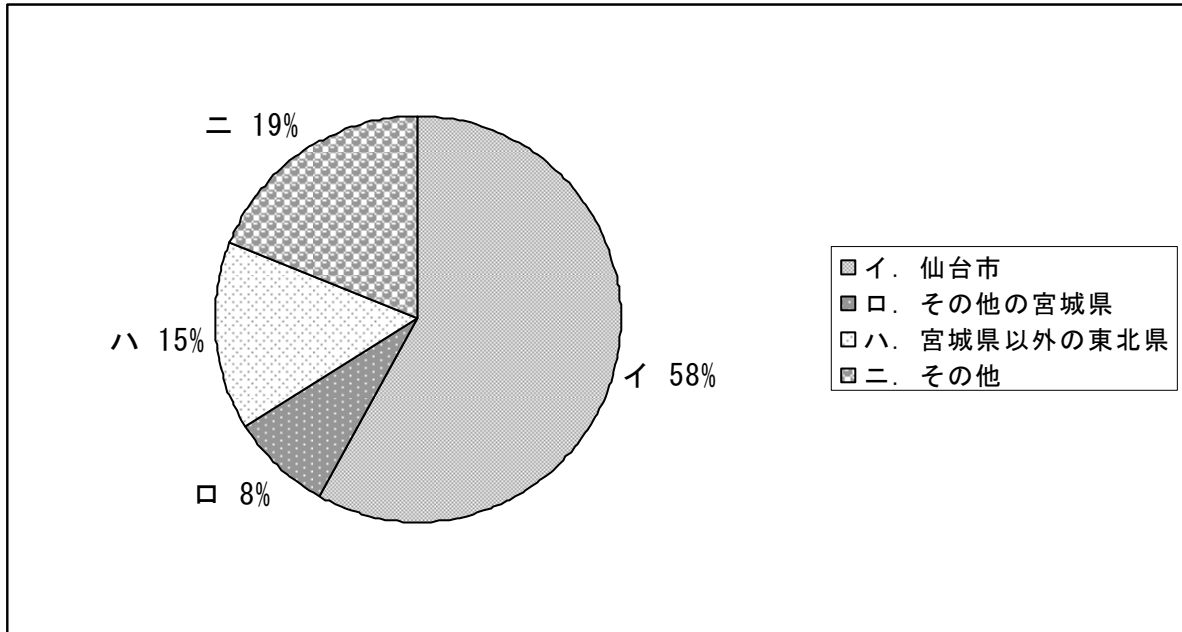
1. 男女比



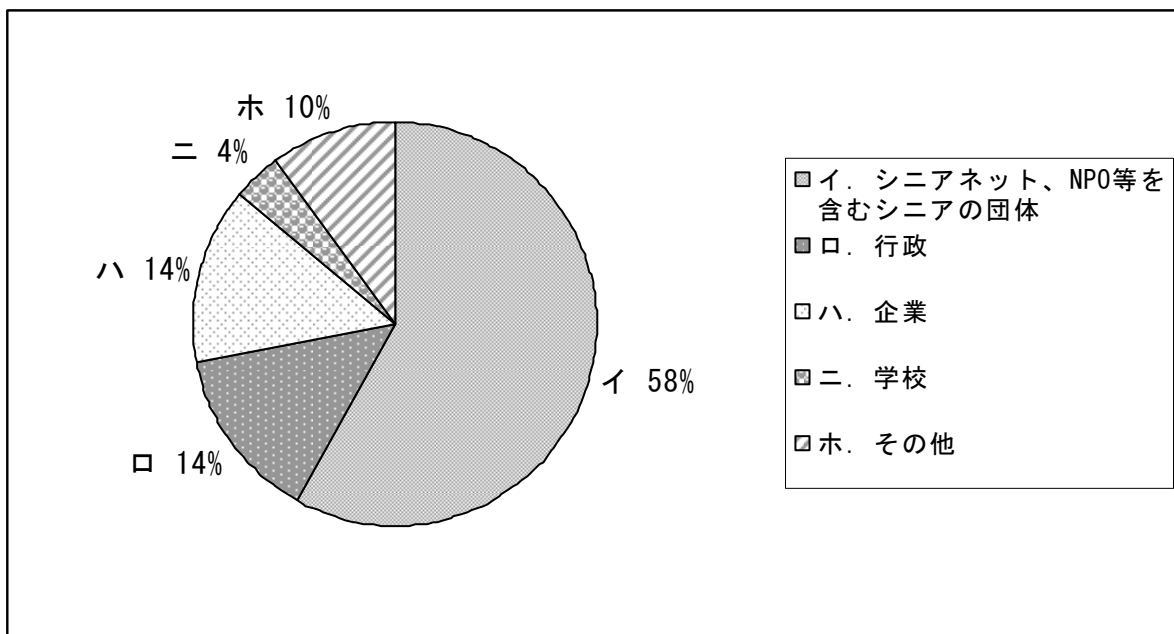
2. 年齢別



住所別

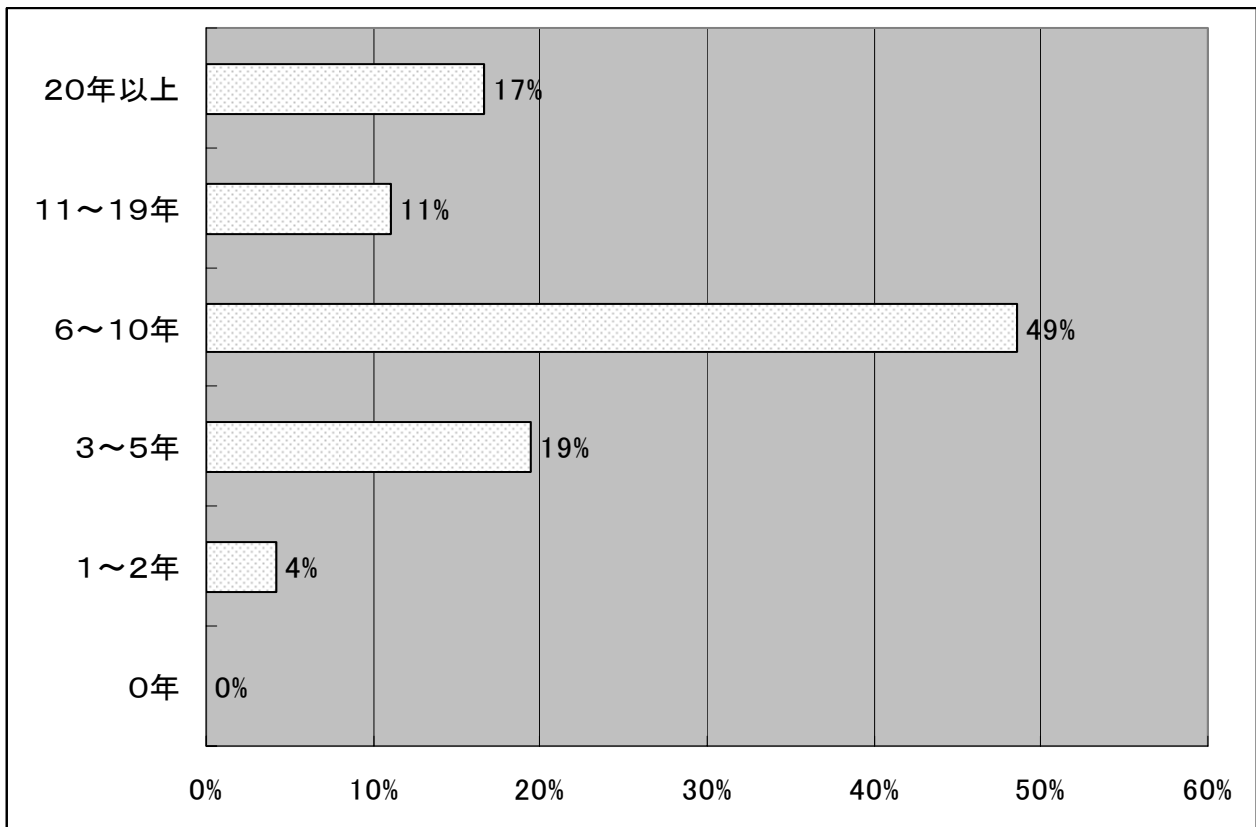


3. 職業別



[参考]

- ・ アンケートにみる参加者のパソコン経験年数



平成19年度 シニアネット構築研究会
『シニアネット・フォーラム21 in 東北』

報告書

編集・発行

財団法人 ニューメディア開発協会

〒112-0014 東京都文京区関口一丁目43番5号 新目白ビル6階

発行日 2008年2月



競輪補助事業

